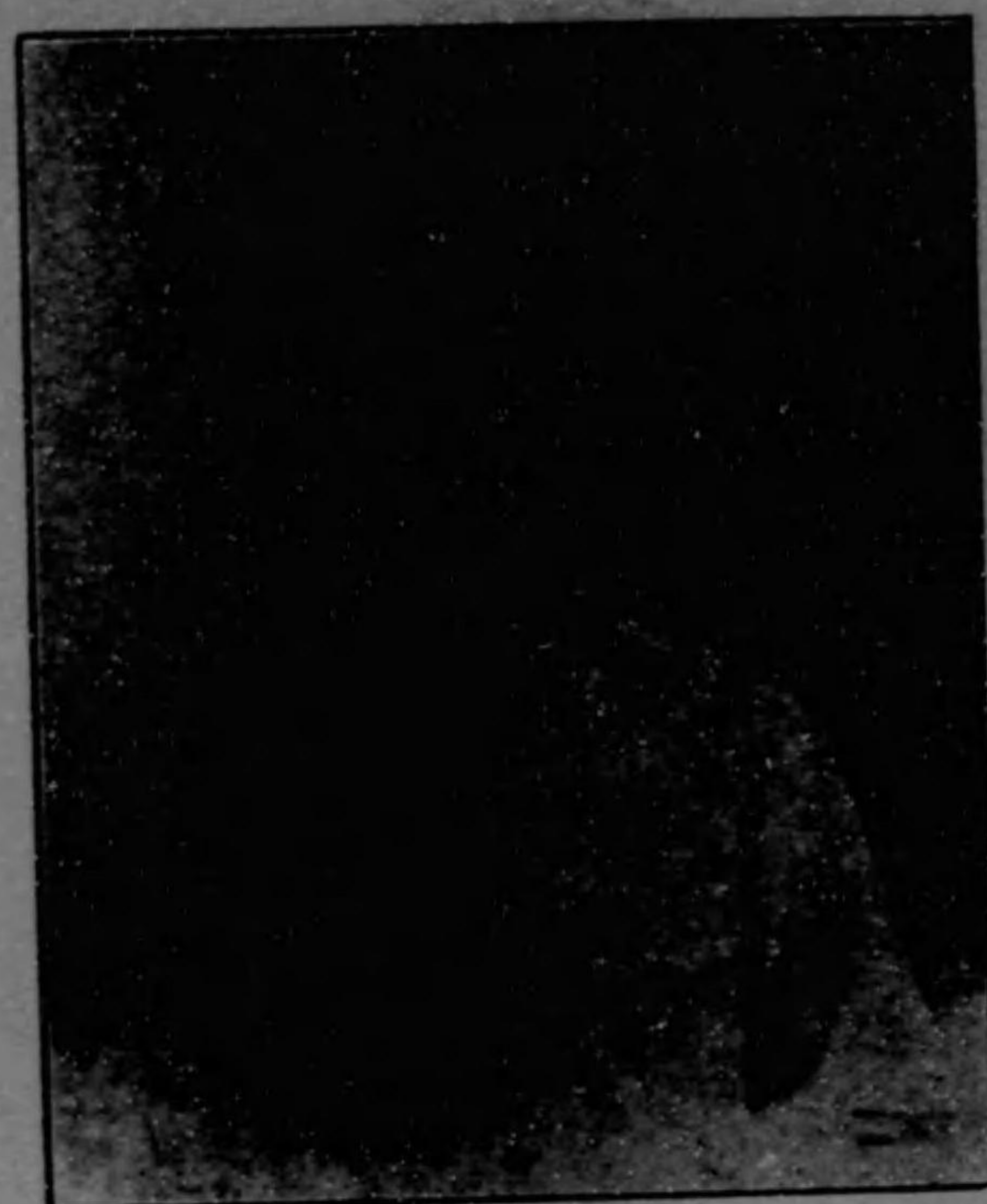


◎高尾野村



高尾野村 清水清助氏
君は明治十六年六月二十八日高尾野村下水流に生る、全三十四年鹿兒島歩兵第四十五聯隊に入營日露の役に出征し軍曹に進み全三十九年三月功七級金鷄勳章、勳七等青色桐葉章並に恩給年金を下賜されて歸郷す、區長、青年會長、在郷軍人分會評議員、煙草耕作組合評議員、國勢調査員等に擧げらる、大正十四年村會議員に當選せり。

高尾野村 下田仙藏氏



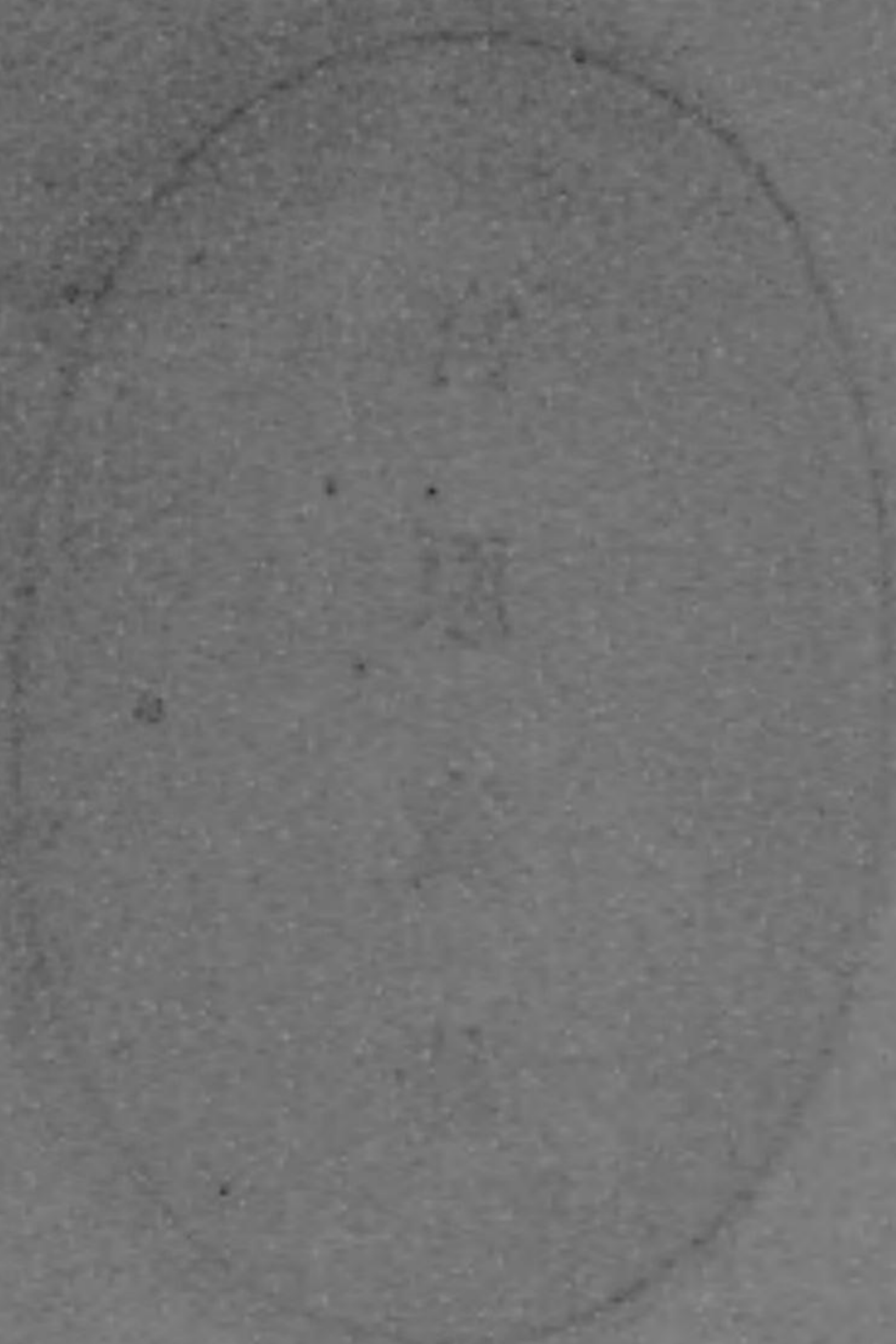
高尾野村 下田仙藏氏
君は明治十四年三月十日高尾野村唐ヶ崎に生る、小學校卒業後東京陸軍教導團に入り全三十一年卒業と共に軍曹に任官、熊本輜重兵第六大隊附となり全三十六年曹長に進み全三十七年經理部に轉任一等計手となり騎兵第六聯隊附となる、日露戰役には野戰第六師團經理部附として出征せしが病氣のため歸郷、工兵第六大隊附となる、全四十年滿期歸退營、日露戰役の功に依り勳七等青色桐葉章並に一時金三百圓下賜され、經理部士官適任證、文官技師證明書を附與さる、全四十年東京陸軍省屬官に任せられ大正八年家事の都合に依り依願免官從七位に叙せらる、而して一ヶ年間露西亞に在りしが病を得て歸郷、農業と養蠶と業となす、大正十四年村會議員に當選し青年會婦人會の顧問たり、君は又興農の一端として率先して夜業を奨励しつゝあり。

高尾野村 東島善藏氏



高尾野村 東島善藏氏
君は明治九年七月七日高尾野村川脇家に生れ後東島家に入りて相續す、農業の傍肥料、精米業を管ひ産業組合評議員、區長、高尾野村米穀同業組合副長に現任し、大正十四年村會議員に當選す、尙ほ同村焼酎醸造家神惣七氏と協同にて水車業を經營せしが大正十二年より自己經營となし焼酎製造の原料たる米穀全部を精米しつゝあり。

◎高尾野村



宮原實雄

君は明治十六年一月五日生にして同村助役として功積多く大正十年二月同村々長に當選してより二期を通して村治の向上に寢食を忘れ村民信望の的となる。尙ほ君は村會議員たり。

三笠村長 宮原實雄氏

柏木戸之進

君は明治八年七月十日三笠村に生れ熊本縣巡查を拜命し辭して同村役場書記となり、大正十年四月助役に擧げられ二期を通して現任す、君は又村會議員たり。

三笠村助役 柏木戸之進氏

三笠村 石原隼人氏

君は明治十六年十月二十日三笠村脇本に生れ、農業養蠶を營む、小學卒業後は鹿兒島博約義塾に入り、全二十七年卒業し全二十八年縣立鹿屋農學校蠶業科に入り全二十九年卒業全時に薩摩郡宮之城に養蠶教師として就任し西串良、高山、西志布志、末吉、東長島、阿久根と轉任し大正九年辭す、村農會議員、養蠶組合評議員に現任し、大正十四年村會議員に當選したり。

三笠村 八郷仁助氏

君は明治二十一年十二月十六日三笠村脇本に生る、農業に屬み養蠶を營む、全四十二年佐世保海兵團に入營日獨戦役に參加し勳八等白色桐葉章並に一時金八拾圓を下賜され下土に進み大正三年十月滿期歸郷す、部落世話人、報効學事小組合長青年會長、在郷軍人分會幹事、國勢調査員に擧げられ、婦人會取締、米穀商同業組合長に現任し大正十四年村會議員に當選す、大正十一年より桑園を作り部落民に養蠶を奨励しつつあり。



◎三笠村



三笠村 早水岩介氏

君は明治二十一年十二月十五日三笠村脇本に生れ、小學校卒業後明治四十年東京正則中學校を卒業し、全四十四年まで小學教員となり、のち出水郡畜産組合下水支所長に擧げられ、大正九年出水物産商事株式會社を創立して其の専務取締役となる、大正十年村會議員に當選し全十四年再選さる、目下出水郡畜産組合代議員、出水郡米穀商同業組合評議員、鹿兒島縣肥料商同業組合代議員、三笠村養蠶組合評議員、學務委員、村是調査委員等に現任し、また政友本黨地方幹事たり。

三笠村 濱之上 進氏

君は明治二十年七月十一日三笠村黒上に生る、性温厚にして實直の人なり、小學校卒業後熊本中學に入り全三十九年同校を卒業、全四十二年より出水稅務署に勤務、全四十四年辭してより専心蠶種製造業に従事し優良種の製産に腐心研究の結果今日の盛大を示すに到れり。大正十四年村會議員に當選し自治の爲めに努力しつゝあり。

濱之上 進

三笠村 川口正八氏

君は明治二十二年八月十一日三笠村江内に生れ、漁業農業を營めるが信望厚く活動家として知らる、青年會長、報効農事小組合長、部落世話人、國勢調査員に擧げられ、區長、私設消防組頭、婦人會長、江内親友會評議員、江内信用組合理事、三笠村漁業共同販賣所常務に現任し大正十四年村會議員に當選せり、嘗つては海運業を營みし事あり、君はまた江内より八郷、大杉木に至る道路改修の功勞者として知らる。

三笠村 樫八重敏憲氏

君は明治六年五月二十八日三笠村脇本に生る、活潑にして氣骨稜々の人なるが出水小學校卒業後授業生として教鞭を執り居たりも全二十六年辭して陸軍教導團に入り全二十七年卒業近衛歩兵第三聯隊附となり、全二十八年三月日清役に從軍し六月臺灣征討に参加す、陸軍歩兵一等軍曹に任ぜられ勳八等瑞寶章並に一時金五拾圓を下賜され全三十一年滿期歸郷す、全三十五年營林主事補として鹿兒島大林區署に勤務し全三十七年營林主事となる、日露戰役に召集され歩兵第四十五聯隊第一大隊に編入されて出征す、歩兵曹長に進み功に依り勳七等青色桐葉章並に一時金二百五拾圓を下賜さる、再び鹿兒島大林區署に入り全四十四年辭して歸郷す、農會議員に現任せり、大正十四年村會議員に當選仁壽生命の代理店を營む。

◎三笠村



◎三笠村



山村直美

君は明治十四年二月九日三笠村の舊家として知られたる平伊藏氏の長男に生れ、農業にして養蠶を營ひ、鹿兒島師範學校に入り明治三十年卒業し學人、阿久根、米之津の各校長として歴任し、全四十四年辭して農に歸じ、大正十年村會議員に當選し全十四年再選さる、糖業組合副組長、學務委員たり。

三笠村 山村直美氏

君は明治二十四年三月十二日三笠村江内に生れ、京都府立醫科大學に學び大正四年卒業し同時に全附屬院醫員となりて研究に餘念なかりしが全六年三月辭して歸郷現在地に開業せり大正十四年村會議員に當選せり、君は柔道の達人にて在學當時には猛者として校内に令名ありたりと。

三笠村 湯田巖氏

君は明治二十年二月十日三笠村選出の郡會議員として知られたる早水九十郎氏の三男に生れ湯田家の養子となる、熊本醫學専門學校に學び大正二年卒業し同時に一年志願兵として入營し、大正三年三等軍醫に任官し退營、同年熊本縣立病院の醫員として一ヶ年研究し現在地に開業せり、大正三年より全十三年迄在郷軍人分會長となり、郡醫師會幹事に擧げらる、大正十四年村會議員に當選す、脇本、學人兩校及び西長島四校の校醫にして出水物産商事株式會社監査役たり。

三笠村 平松福氏

君は明治十七年十一月三日三笠村脇本に生る、脇本小學校を卒業し全三十七年鹿兒島歩兵第四十五聯隊に入營、日露戰役に出征全三十九年滿期歸郷一時金五拾圓を下賜さる、青年會長、在郷軍人分會幹事に擧げられ、大正七年村役場に入りて勸業係となりしが一ヶ年にして辭す、衛生組合長、消防組小頭、脇本區長、煙草耕作組合總代、村農會總代、並に評議員糖業組合理事、養蠶組合總代並に評議員、出水物産商事株式會社取締役等に現任し、大正十四年村會議員に當選せり。

◎三笠村



木之上 順市

東長島村長 木之上 順市氏
君は明治十四年五月八日東長島村に生る、村役場書記、収入役、村會議員等に擧げられ、大正十四年五月同村村長に當選し村治の向上に努めつゝあり。

東長島村助役 竹之内 英之丞氏

君は元治元年五月十五日生にして、農業を營み村内の信望厚く、大正十四年七月同村助役に選ばれ村治に盡しつゝあり。

竹之内 英之丞

東長島村 飯尾 輝 儔氏

君は明治十三年十一月十三日東長島村鷹巢に生る、博約義塾に學びしが明治三十年村役場書記、全三十四年収入役、全三十六年書記、全四十二年農會長、畜産組合支所長、全四十三年助役、全四十四年村長に擧げらる、全四十年郡會議員に推され郡參事會員となる、大正十年村會議員に當選以來引き續き今日に至るまで現任自治の爲め盡しつゝあり。

東長島村 岩内 太助氏

君は明治十二年四月十日東長島村獅子島に生る、明治三十二年熊本第十三聯隊に入營せしが明治三十七八年日露戰役の際召集せられて戰闘に参加し勳八等瑞寶章一時金七拾圓を下賜せらる、明治四十五年世話人次いで青年會長、衛生部長、農事小組合長、納稅組合長、部落學校掛として盡瘁する所あり大正十四年村會議員に當選自治の爲め多大の力を致し居れり。





東長島村 岩下駒之助氏

君は明治十三年五月五日東長島村獅子島に生る、明治四十二年農事小組合長、全四十四年獅子島総世話人其他納税組長青年會長、青年會相談役等に推され今日に至る、大正十四年村會議員として片側區の推す所となり芽出たく當選せり、君は温厚にして村民の信望特に厚し。



東長島村 橋口喜三右衛門氏

君は明治十四年九月八日東長島村伊唐島に生る、君は大正六年村會議員に當選せしより引き續き今日に至るまで現任せるが其の間世話人、小組合長、納税組合長、農會議員、青年會長、學務委員等の任に在りて尙ほ甘蔗、柑橘類の産出に多大の努力をなす、君の父新太郎氏は教育事業に對し功勞ありて明治三十七年鹿兒島縣知事より賞狀並に金參拾圓を贈與せらる。

東長島村 上 藤 七氏

君は明治十二年四月五日東長島村鷹巢に生る、明治三十二年對馬要塞に入營全三十六年滿期歸村、日露戰役に召集されしも病氣の爲め除隊となる、全三十六年村農會書記、全三十八年村役場書記、全四十四年收入役、大正十年助役に擧げらる大正十四年村會議員に當選尙ほ全年衛生組合長に推さる。

東長島村 上 實 俊氏

君は明治九年十二月三日東長島村鷹巢に生る、明治三十二年村役場書記となり庶務を擔任し、大正二年助役に擧げられ、全五年村長に推さる、斯くて君は村治に盡瘁するもの少なからず、曾つては村農會長に推薦せられしが君の功績見るもの多し、目下村會議員として自治の爲め渾身の努力をなしつつあり。



◎東長島村



東長島村 垂門助次郎氏

君は明治三年八月二十五日を以て東長島村山門野に生る、小学校を卒へて農事に屬精すること多年、其の誠實と勤勉は漸く一般の認むる所となり部落世話人に擧げられ或は農事小組合長に推されたるが何れも能く其任務を完ふせり、大正十四年村會議員に當選せしが自治の爲め多大の貢献をなしたるあり。

東長島村 中村善之助氏



君は明治十三年三月二日東長島村獅子島に生る、明治三十四年第四十五聯隊に入營せしが明治三十七八年の日露戦役に參加して勳八等白色桐葉章一時金百圓也を下賜せられ全三十九年上等兵に進級満期除隊となる、明治三十五年獅子島部落世話人となり日露戦役後再び世話人に推さる斯くて前後十六年部落の爲めに盡し大正七年郡長より表彰せらる其の他農事小組合長、納税組合長、國勢調査員、農會議員、學務委員、漁業組合理事、衛生組合長等に任ず、大正十四年村會議員に當選せり。

東長島村 長野直治氏



君は文久二年三月十八日東長島村浦島に生る、明治十年西南役に従軍せしが其時齡十六歳なり、明治二十二年町村制實施以來今日に至るまで村會議員として自治の爲めに貢献せしもの少なからず、明治三十二年郡會議員、全三十二年村長、大正二年所得税調査員、全十二年農會議員として各方面に盡瘁せしが曾つては教育界に教鞭を執りし事もあり又た村役場書記として執務せし事もあり、又た全地海岸の埋立工事をなし五町歩餘の成田を見るに至る。

東長島村 兒島英盛氏



君は明治九年六月七日東長島村鷹巢に生る、明治二十四年教育界に入りて全三十一年辭任、全三十二年全村收入役、全三十九年助役、全四十二年村長其の他養産組合長、農會議員、衛生組合長、青年會長に推され、尙ほ明治三十八年郡會議員となる、村會議員として明治四十二年當選以來引き續き今日に至るまで其の任に在り而して君は學務委員、土木委員に選ばれしが不斷の努力に對して一般に之を徳とし居れり。

◎東長島村

◎東長島村

阿多清顯

東長島村 阿多清顯氏

君は慶應三年十二月三日東長島村川床に生る、大正五年全村助役に推薦せられ就任と全時に勸業主任として其の方面に盡瘁するもの少なからざりしが病氣の爲め終に辭任の止むなきに至りて其の年九月より辭養するに至れり、大正十四年村會議員に當選し自治の爲めに貢献しつゝあり。

東長島村 宮内盛雄氏



君は文久二年四月十日東長島村に生る、明治十六年東長島八幡校の校長となり全二十年辭任、全二十一年師範學校に入り全廿二年八幡校に奉職更に川床校に轉し全三十五年に至り辭す、而して村役場に入りて學務員となり、全卅八年實業界に入る、全卅九年村會議員に當選以來引き續き今日に至れるが學務委員、道路委員に選ばれる。

宮山市郎

東長島村 宮山市郎氏

君は明治九年九月二日東長島村川床に生る、明治二十九年歩兵第四十五聯隊に入營、全卅一年滿期除隊、明治三十七八年日露戰役に召集せられて従事戰功に依り勳七等、功七級金鷲勳章並に青色桐葉章を下賜せらる、全卅九年軍曹に進級して歸村、東長島在郷軍人分會長、漁業組會長、農會議員、衛生組合代議員、農事小組會長、國勢調査員に擧げらる、村會議員としては大正六年、全十四年の二期當選せり。

◎東長島村

◎西長島村

飯野市次

西長島村長 飯野市次氏

君は明治四年一月九日生にして、小學校教員たりしが辭して後學務委員、助役、郡會議員、村會議員等に擧げられしが大正八年三月同村々長に當選し二期を通して現任よく村政の刷新を計りつゝあり。

西長島村助役 豊田直衛氏

君は明治十七年九月十六日西長島村宮崎家に生れ、のち豊田家を相續す、明治二十五年阿久根小學校を卒業し、全二十七年全村役場書記拜命、全二十八年辭し全四十年再任、大正六年辭す、其の間教育界に奉職せし事あり、青年會長、世話人學務委員となり大正十四年助役に推され全年五月村會議員に當選し専ら村治に努力し居れり。

西長島村 遠矢彌市郎氏

君は明治三年七月二十三日西長島村平尾に生る、臨本小學校卒業後鹿兒島博約義塾及び宮本塾に學び鹿兒島師範學校講習科を卒業す、全二十年より長島郷平尾外四ヶ村戸長役場用掛となり全二十一年辭し、城川内、天道、藏ノ元の各小學校訓導及校長として全四十一年に至る、二十二年教育界に在り、のち大日本私立衛生會鹿兒島縣支部委員、鹿兒島縣保護協會委員、西長島牧野整理委員囑託となり、又た農事小組合長、國勢調査員に擧げられ、大正二年より引續き村會議員に當選し村治の向上に努めつゝあり、尙ほ武徳會、赤十字社、愛國婦人會等にも盡す處多し。

西長島村 千竈清一郎氏

君は明治二十年二月西長島村指江に生る、阿久根小學校に學び全三十六年縣立川内中學校に入りしが全三十八年父利助氏死去せしため半途にして退く、のち村農會書記、出水郡畜産組合西長島村支所長に擧げられ、全四十五年二十五歳にして村會議員に當選爾來引續き當選して現任し、出水郡農會代議員、出水郡畜産組合代議員、西長島常務學務委員、村農會代議員等の要地にありてその村治に貢献する處少なからず。

◎西長島村



◎西長島村



西長島村 大川 寛氏

君は明治五年二月十二日西長島村指江に生れ、小學校卒業後出水長島郷平尾外四ヶ村戸長役場用掛となり、全二十一年小學校授業生免許狀を得、汐見簡易科小學校授業生となり、元校に轉じ全二十四年二月辭して鹿兒島に出で宮本塾普通科及び養成義塾を卒業し、全二十五年八月森林監守特別採用試験に合格し、鹿兒島大林區署詰となり全二十六年辭任、西長島村役場書記となり、全二十七年辭す、東西長島土木工事組合議員となり全四十三年同村收入役となり、大正八年助役に擧げられ、全四十二年辭任し、目下樟腦製造業に従事せり、明治四十二年以來連續村會議員に當選し指江川内部落の元老たり、令弟は指江に於て酒造業を営み長男は鹿屋農學校を卒え目下上京遊學中。



西長島村 横道 助市氏

君は明治十九年四月二十四日西長島村藏ノ元を生る、鷗本小學校に學び、檢定試験に合格して、全四十三年より出水小學校に教員となり藏ノ元校に轉じ大正五年辭任農業に従事し養蠶を營ひ、部落世話人、報効農事小組合長、村農會議員、衛生代議員に現任し二回の國勢調査員に擧げらる、大正十四年村會議員に當選せり。

西長島村 中野 正 登氏

君は村長、村會議員として功勞ありし覺兵衛氏の長男として明治七年十二月十九日西長島藏ノ元を生る、温厚篤實の人格者なるが阿久根高等小學卒業後熊本九州學院に學び卒業後長野蠶絲専門學校に入り全二十八年同校を卒業歸郷し、村役場書記となり全三十二年辭して叔父の局長たる藏ノ元郵便局に勤務し大正三年局長に就任し今日に至る、青年會長、學務委員、報効農事小組合長、國勢調査員、産業組合幹事、土木委員、學校後援會長等に擧げられ貢獻する處少なからず、大正二年より連續村會議員たり。

西長島村 向 芳之助氏

君は明治十九年八月十七日西長島村山門野に生る、農業を営む商業を營ひ、中出水小學校を卒業し、全三十九年鹿兒島歩兵第四十五聯隊に入營し朝鮮守備として渡鮮し全四十一年滿期歸郷、在郷軍人會評議員、青年會長、國勢調査員、世話人、報効農事小組合長、衛生部長、村農會議員等に擧げられ、大正十四年村會議員に當選す。

◎西長島村



◎西長島村

西長島村 宗方慶二氏

宗方慶二

君は明治十九年三月十五日西長島村平尾に生れ、資性温厚、脇本小學校に學び鹿兒島市博約義塾に入り全三十六年卒業す全四十四年村役場書記となり兵事、稅務を掌り大正十一年辭す、青年會長、國勢調査員、村農會總代に推されて現任し、大正十四年村會議員に當選す。

西長島村 山口戸兵衛氏

山口戸兵衛

君は明治十五年十一月十五日西長島村藏ノ元松田家に生る、家貧にして就學を許さず、尋常科三年を終ると共に父に従ひて農事の手傳をなし、十八歳の時山口家に入り養子となる、全三十五年熊本輻重兵第六大隊に入營、全三十七年日露戰役に召集されて朝鮮に渡り全三十九年滿期歸郷す、功に依り勳八等白色桐葉章並に一時金百五十圓を下賜さる、向學心止まざる君はこの在隊中學識ある同年兵につき寸暇を惜しみて勉學し今日代書業をなすの素養を得たり、大正二年代書業を營み、全十年より精米業を全十一年より雜貨商を開きたり、刻苦勵精は仇ならずして今日にては資産を得て指江有志相談役たり、大正十四年村會議員に當選す。

兒玉貞助

西長島村 兒玉貞助氏

君は明治四年九月八日西長島村下山門野に生れ、農業養蠶を營ひ、明治二十四年熊本歩兵第二十三聯隊に入營し日清戰役に出征、全二十九年軍曹に進級し滿期歸郷功に依り、勳八等白色桐葉章並に一時金貳拾四圓を下賜さる、三ヶ年に亘りて世話人を務め全三十三年村役場に入り書記となり兵事衛生を掌り全三十七年辭す、日露戰役に召集されて出征し功に依り勳七等青色桐葉章並に一時金二百五十圓下賜さる、歸郷後は創立委員となりて在郷軍人分會を創立す、明治三十八年全四十二年、大正十年、全十四年の四期村會議員に當選し學務委員に現任せり。

西長島村 小城吉次氏

君は明治十年二月十一日西長島村城川内傳次氏の長男として生れ、薩摩郡隈之城高等小學校を卒業し教員免許狀を得、城川内小學校に教鞭を執る事十ヶ年辭して明治四十二年同村役場書記となり全四十五年辭す、學務委員、區長、養蠶組合長村農會總代、郡會議員に擧げらる、大正六年より引續き村會議員として村治に貢獻し、西長島産業組合理事たり、君は温順なる人格者にして弓術に趣味を持つ。

◎西長島村



◎西長島村



西長島村 兒島 休助氏

君は明治十四年七月五日西長島村下山門野に村會議員として功勞ありし早之進氏の長男に生れ資性温厚阿久根小學校卒業後鹿兒島師範學校に學び全二十六年同校を卒業し、全三十八年城川内、臨本小學校に訓導たりしが全四十三年家事の都合に依りて辭し、世話人、青年會、婦人會顧問、國勢調査員に擧げられ、大正十年村會議員に當選し、全十四年再選せられ道路委員たり。

西長島村 桐野 清二氏

君は明治十年六月六日西長島村藏ノ元^ノに生る、小學校卒業後は農事に屬み傍ら養蠶を營ひ、世話人、區長、報効農事小組合長、國勢調査員、村農會總代、衛生代議員等に任じ大正十四年村會議員に當選したり、令弟清助氏は同村收入役たり長男は熊本鎮西中學を出で高等工業電氣科に在學中。

湯田 伊之助

西長島村 湯田 伊之助氏

君は明治四年五月七日西長島村入山門野に村會議員たりし市之助の長男に生れ阿久根小學校卒業後、鹿兒島博約義塾に學び卒業後、全二十五年二月准教員となり訓導校長に進み、城川内平尾、阿久根、藏ノ元の各小學校に轉じ明治四十年教育界に在る事十八年にして辭し農業に従事す、性極めて温厚の人にして部落民殊に青年會等の指導をなし、大正二年全六年全十年、全十四年の四期村會議員に當選、道路委員として改修に努めつゝあり、君には二男四女ありて長男は海軍機關中尉、次男は鹿兒島師範に在學中。

西長島村 本村 直之氏

君は慶應二年三月八日西長島村平尾の舊家として知らる、良右衛門氏の二男に生る、明治十八年本縣師範學校を卒業し西長島平尾、川邊郡東加世田、薩摩郡上東郷、東長島、八幡の各小學校に訓導及び校長として明治三十九年まで奉職し、全四十年縣會議員に推舉せらる、其の他鹿兒島縣畜産組合聯合會議員、郡會議員、西長島村長等に擧げられ、大正二年より引續き村會議員に當選し、郡畜産組合議員、産業組合監査役に現任せり、君は村内稀に見る人格者にして信望殊に厚し、五男二女ありて長男は鹿兒島市水道課にありて技師、次男は東京大學出身にして一等獸醫、三男は平尾校教員、四男五男は慶應大學在學中なり。

◎西長島村



大川内村長 小原有徳氏

君は慶應元年正月六日大川内村上大川内に生る、明治二十四年大川内村役場書記となり全三十一年村農會長、全四十四年出水郡會議員に當選、大正二年學務委員に大正元年、全九年の兩度村會議員に當選し、大正十一年出水郡牛馬畜産組合大川内支所長となり、大正十二年村長に當選し現任せり。

大川内村助役 宮内又次郎氏

君は明治十四年二月六日大川内村治左衛門の次男に生れ農事養蠶を營ひ、全三十五年鹿兒島歩兵第四十五聯隊に入營日露戰役に出征殊勳あり功七級金鷄勳章並に勳七等青色桐葉章を下賜さる、歩兵曹長に進み全四十四年滿期歸郷、衛生組合長、在郷軍人分會長に擧げられ、大正九年大川内村助役に推さる上大川内産業組合理事、常設學務委員に現任せり。

大川内村 母妻 川 清氏

君は明治二十五年十二月六日大川内村下大川内に生れ、出水小學校に學び卒業後は父祖の業を繼ぎて農事に餘念なく、大正二年熊本野砲兵第六聯隊に入營、全三年病氣のため除隊となる、青年會長、報効農事小組合長、肥料組合理事、婦人會特別會員、下大川内信用組合理事、五萬石水利組合評議員、大川内衛生組合副長、消防組小頭等に擧げられ、大正十三年村會議員に當選す。

大川内村 原口仁八氏

君は明治十四年七月十二日大川内村下大川内に生る、出水小學校に學び代用教員の免狀を得て大川内小學校に教職を執る約十ヶ年にして退き、農業に従事せり、大正九年、全十三年の兩度村會議員に當選し、大川内信用組合監事、村農會總代並に評議員、養蠶組合評議員、煙草耕作組合評議員、土木委員として村治に盡しつゝあり。

原口仁八

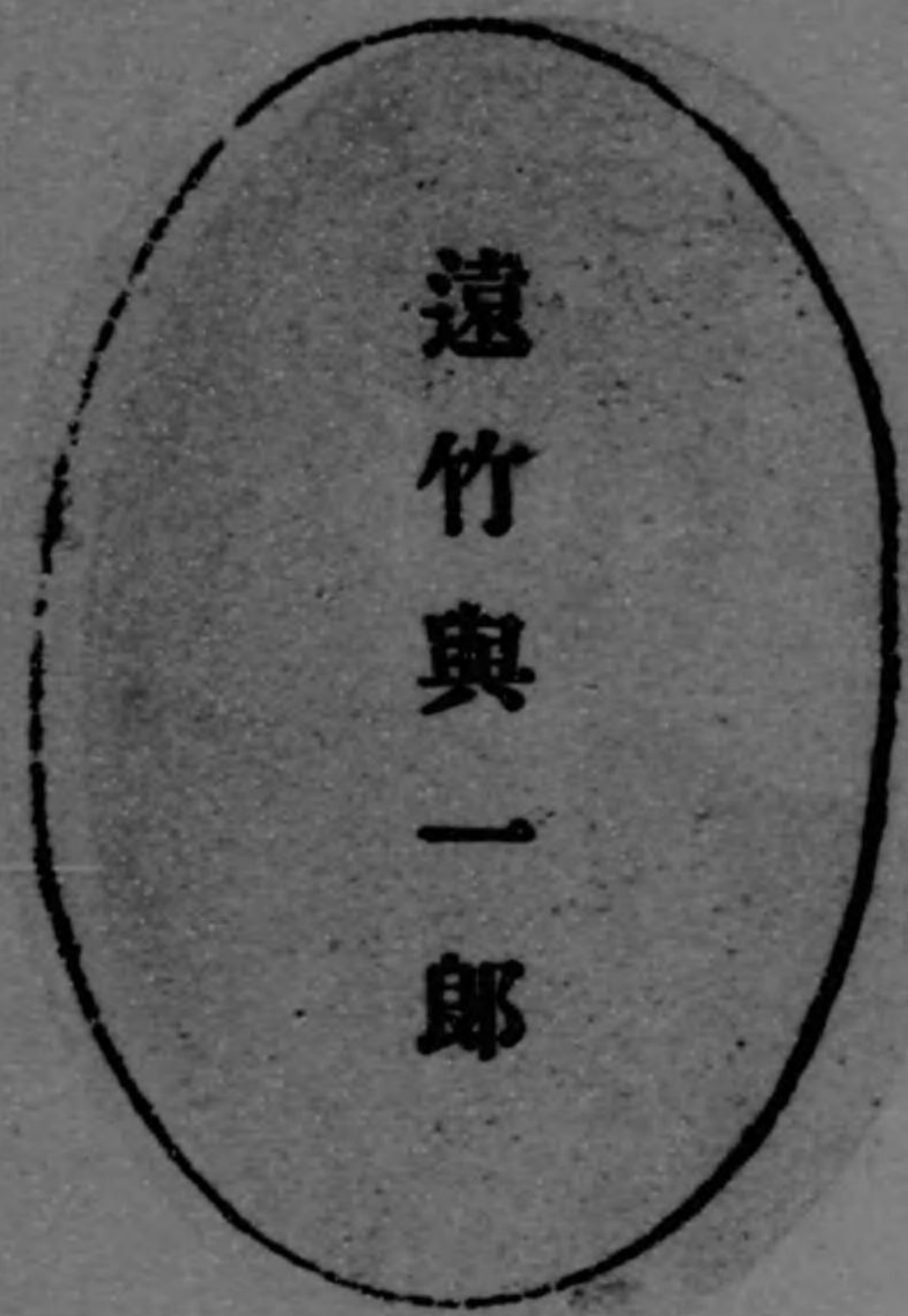
◎大川内村



大川内村 帆北英助氏

君は明治九年八月十一日大川内村上大川内に生る、出水小學校卒業後鹿兒島師範學校に入學し明治三十一年本校卒業し、全年七月大川内尋常小學校訓導兼校長に任ぜられ全四十四年三月職を辭し全年四月より大川内村郵便局長となり今日まで其の任に在り、郡會議員に當選すること二回、從七位に叙せられ勳八等瑞寶章を下賜せらる、大正十三年十一月村會議員に當選し全地方の爲め盡瘁し名望高く人々に尊敬せられるの人格者なり。

遠竹與一郎



大川内村 遠竹與一郎氏

君は明治元年五月十一日大川内村池松家に生れしが後遠竹家に入り相續す、大川内小學校卒業後授業生檢定試験に合格し全二十一年大川内小學校准教員として奉職、全二十八年辭して村役場に入り書記となり全三十六年辭し小林區署に入り伊佐郡に勤務し、全四十年出水郡に轉じ全四十二年辭任、大川内衛生組合副長に擧げられ、大正十三年村會議員に當選す、日清戰役に兵事係として功あり縣知事より表彰され木杯を授けられしが紀念として村役場に寄贈せり。

大川内村 豊田猪八氏

君は明治十四年十二月六日大川内村上大川内に生る、出水小學校を卒業後鹿兒島中學に學び東京明治義會に入り全三十六年卒業歸郷し大川内小學校に教鞭を執り高尾野村下水流校に轉じて、再び大川内校に歸り大正十三年辭す、その教育界に在る事二十一年二月にして貢献する處大なりとして紀念品を受、大正十三年村會議員に當選し、消防組頭、米穀受檢組合長に現任し、村道の改修、青年の指導等には特に功勞あり尙ほ農作物獎勵者として郡より賞を受く。

大川内村 金丸信助氏

君は明治十一年十月八日大川内村上大川内小原萬助氏の二男に生れ、後新納武藏の家老たりし金丸萬作氏の養子となる、農業雜貨商を營ひ、明治三十六年出水小林區署に勤務し伊佐郡に轉じたるも再び出水署に轉じ大正七年辭す、青年會長に擧げられ大正十三年村會議員に當選し消防組副長たり、また村有林七百町歩の栽植に多大の功あり。

金丸信助



◎大川内村

◎大川内村

田島助十

大川内村 田島助十氏
君は明治九年五月一日大川内村下大川内に生れ、大川内小學校に學び父祖の業を繼ぎて農業に屬み、高川區世話人、報効農事小組合長、衛生部長、煙草耕作組合總代、下大川内信用組合理事、養蠶組合幹事等に擧げられ、大正九年村會議員に當選し、全十三年再選せらる。

大川内村 中山良秀氏

君は安政六年二月十六日大川内村上大川内上野家に生れしが後中山家に入りて相續す、幼にして漢學を修め明治六年小學校令發布さるゝや小學校に入り明治七年家を負ふて上京島田重命氏の双桂社に入り醫學を修め明治九年歸郷す、西南の役には逸見部隊に従ひて戦ひ自宅謹慎申附けられしが全十一年許されて再び上京して遊學全十二年歸郷し出水小學校に教鞭を執る事二ヶ年、一阪して大浦氏の許に在りしが後大阪府巡查を拜命、京都に轉じて全二十一年病を得て歸郷す、全三十一年村役場書記となり全三十八年助役に推され大正二年村長に就任學務委員、養蠶組合評議員に擧げられ、大正二年、全十三年の兩度村會議員に當選す、君は明治四十二年公有林を整理し基本金造成の目的にて造林に着手し村有林七百町歩に達したるがその功績者として記念碑を建立せられたり。

大川内村 長山榮吉氏

君は明治五年十二月九日大川内村に生る、今を去る四十餘年前父文次郎氏に従ひて上場へ赴き荒蕪たる原野を開拓し刻苦精勵辛酸を嘗めて今日を築くを得たり、報効農事小組合長として部落民を指導啓發し、大正十三年村會議員に當選す。

大川内村 山床武助氏

君は明治十二年三月二日大川内村下大川内に生れ、出水小學校に學び全三十年近衛野戰砲兵隊に入營し全三十二年滿期郷す、全三十四年大川内村役場に入り書記たりしが日露の役起りて召集され出征せしかど病を得て除隊となり歸郷す、全四十五年大川内村收入役に就任し大正七年村長に當選し大正十年再選せられ全十三年辭す、大正九年及び十三年の兩度村會議員に當選し現在消防組頭たり。

◎大川内村

山床武助

◎大川内村



大川内村 有村才次郎氏

君は明治二十四年八月十日大川内村に生れ、私立鹿兒島學校卒業東京航海學校普通科に入学し明治四十年全科を卒業歸郷し、全四十一年全村役場書記に任じ全四十二年辭任し小學校教員に昇職し全四十二年上下大川内聯合青年會長、衛生組合長に任じ大正二年辭し、十一年村農會長並に耕作組合長、郡植草耕作組合議員に任じ、全十二年農會總代郡農會議員に當選し全十三年十二月村會議員に當選し全十四年下大川内村産業組合監事に擧げられ其の他九州林業調査委員として九州を一週調査し斯界のため大いに貢献するところあり、現時九州日日、鹿兒島朝日兩新聞の通信員を勤め、片倉生命保險會社代理店を管めり、猶ほ君は植林事業に熱心の人として知らる。

大川内村 森 仙次郎氏



君は明治十二年十二月十二日大川内村上大川内原口良太郎氏の三男に生れ後森家に入りて相續す、農業にして養蠶木炭製造を營ひ、全四十年出水小林區署に勤務し大正八年辭して木炭製造業に従事し大正十三年村會議員に當選す、君はまた白木川内より片町に通ずる村道を開き大正十一年大川内村基本財産造成に當りては土地金員の寄附をなして當時の知事橋本正治氏より賞状を受けたり。

伊 佐 郡

大口

町長 寺原竹三氏
助役 高城寅吉氏
議員 井畔友為氏

池田宗八氏
生駒愛次郎氏
西口愛二郎氏
堀之内隆氏

山野

村長 隈元定夫氏
助役 八反丸長兵衛氏
議員 羽田太左衛門氏

新富袈裟右衛門氏
細樅滿助氏

羽月

村長 阿蘇谷彦一氏
助役 辻千俣氏
議員 今村彌左衛門氏

池元正太郎氏
◎伊佐郡

町

兵底藤助氏
川越万助氏
高城貞臣氏

竹之内嘉次郎氏
永田八之丞氏
野尻袈裟右衛門氏
内村榮藏氏

村

豐德三之丞氏
川原惟基氏
川原三太郎氏
川原金左衛門氏
中村政良氏

村

伊尻幸熊氏
八田早生氏
筈元直八氏
西元正次郎氏

尾上藤太郎氏
馬門武次郎氏
松崎兼時氏

松元庄五郎氏
安樂元吉氏
赤星久米藏氏
有水金次郎氏

中國休太郎氏
向原藤次郎氏
宗方秀助氏
村田武義氏
山口佐次郎氏

外園光二氏
大浦美好氏
川崎國盛氏
横山千代吉氏

坂口仁四郎氏
下原田良夫氏
平岡市兵衛氏

廣岡弘氏
森島森之助氏

前田武治氏
二木壽吾氏
朝日仁之助氏
下塩次右衛門氏
下塩正右衛門氏

田實虎市氏
永田武安氏
久保善兵衛氏
曲田勝一氏

◎伊佐郡
佐土原甚左衛門氏

菱刈村

北園甚兵衛氏

南園喜次郎氏

瀬戸山仁助氏

村長 政元 太右衛門氏
助役 高島 芳秀氏
議員 馬場 五右衛門氏
原口 義温氏
新田 袈裟 吉氏

富田 鉄哉氏
竹下 榮吉氏
竹崎 種好氏
上原 竹之丞氏
上野 重規氏

山之内 嘉三右衛門氏
前田 源六氏
政元 太右衛門氏
福山 新之丞氏
深渡瀬 袈裟八氏

古川 次右衛門氏
宮後 伊右衛門氏
下章 兼行氏
新地 甚之丞氏
須賀 重行氏

西太良村

村長 大脇 三四郎氏
助役 下田 平氏
議員 稻森 榮右衛門氏
豊森 國助氏

土瀬 戸惣次氏
緒方 貞義氏
川田 勉男氏
川添 喜助氏

竹下 武彦氏
永峰 興次郎氏
永峰 武熊氏
丸目 彦三氏

兒島 文次氏
坂上 愛助氏

本城村

村長 時任 直章氏
助役 森屋 利宜氏
議員 犬童 喜與次氏
橋口 早太氏

龜澤 清一郎氏
竹下 紋二氏
伊達 珍馨氏
園田 實氏

永田 清助氏
倉野 虎二氏
松崎 仁右衛門氏
酒匂 元助氏

北橋 熊二氏
溝口 源右衛門氏

寺原竹二

大口町長 寺原竹二氏

君は明治二年十一月廿五日大口町に生る、曾つて小學校に教鞭を取りしが辭して後縣農會議員となり、次いで村長に擧げられ町制實施に當り町長に推されしかば自治の爲めに多大の力を致しつゝあり。

高城寅吉

大口町助役 高城寅吉氏

君は明治七年十二月一日大口町に生る、全町收入役に擧げられて之に任ずるもの久し、大正十四年助役に推薦せられ町長を輔佐して自治に努め居れり。

◎大口町

◎大口町



大口町 池田宗八氏

君は明治十九年十一月十七日大口町牛尾に生れ大口尋常高等小學校卒業後農業に従事し青年會長、農事小組合長、牛尾區長、衛生組長、牛尾消防組頭に擧げられ大正十年、全十四年再度町會議員に當選し學務委員、行政委員、土木委員に選ばる。



大口町 西口愛二郎氏

君は明治十八年二月廿七日菱刈村満田家に生れ大口町西口家の養子となる、田中小學校を卒業し農業を営み農事小組合長青木信用組合長となり、大正十四年國勢調査員となり、全年三月町會議員に當選し土木委員、學務委員に選ばれて努力しつゝあり。

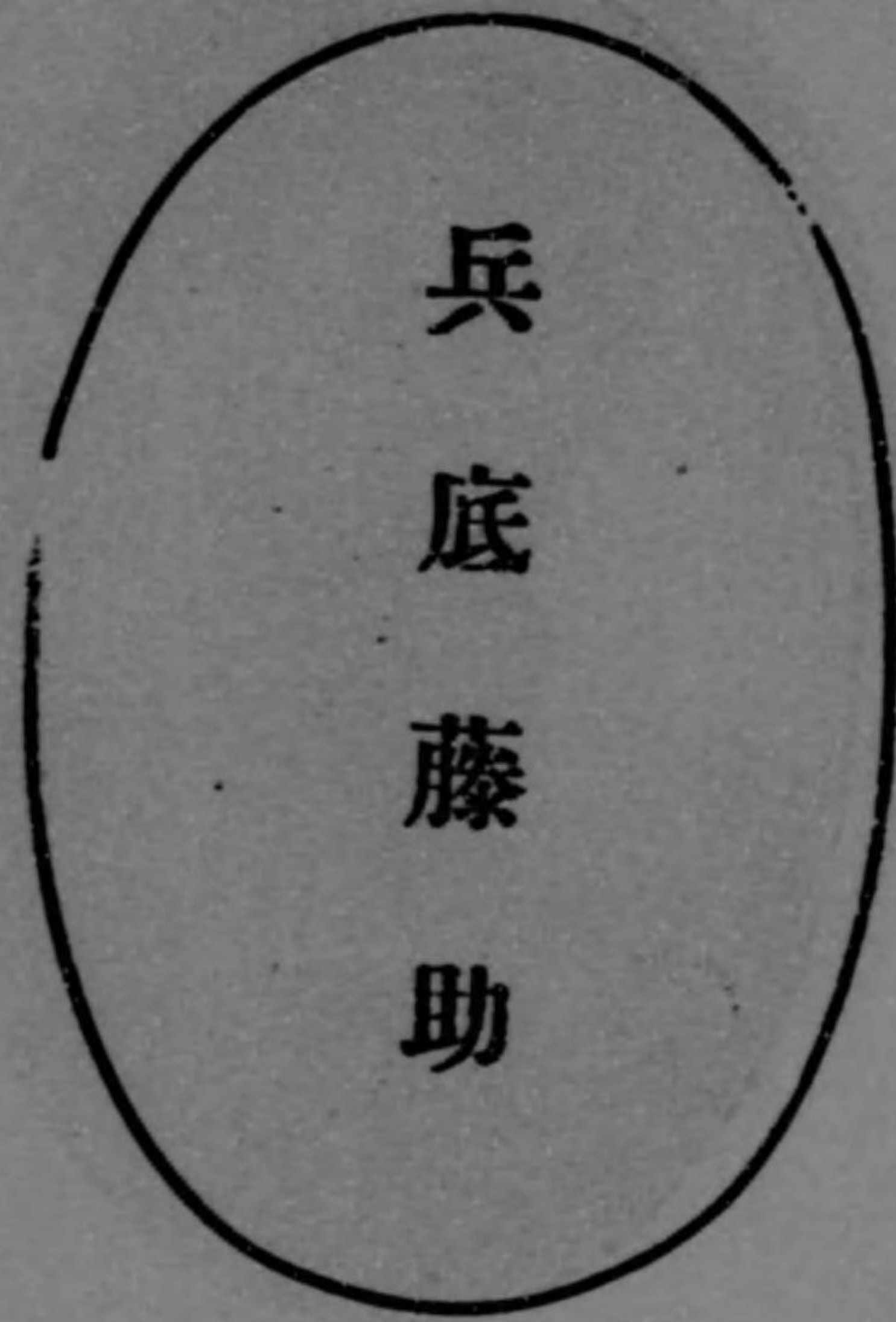


大口町 堀之内隆氏

君は明治十四年十一月四日大口町原田に生る、大口尋常小學校卒業更に縣立第一鹿兒島中學校を卒へて小學校教員免狀を得教育界に入り大口尋常小學校に教鞭を取りしも家事の都合にて辭す、大正十四年町會議員に當選し自治の爲めに努力しつゝあり。

大口町 兵底藤助氏

君は明治十八年十一月廿三日大口町大田に生れ大口小學校卒業後父祖の業を繼ぎ農業を營ひ、郡山青年會長、報効農事小組合長、郡山區長、衛生組合副組長、鹿兒島縣米數検査員、養蠶組合支部長、大口町農會議員を歴任し大正十四年町會議員に當選し勸業委員に選ばれて努力しつゝあり。



◎大口町

兵底藤助

◎大口町



大口町 高城貞臣氏
君は明治四年五月十四日大口町青木に生れ小學校卒業後鹿兒島中學造七館初等中學を卒へ明治二十二年十二月小學簡易科教員免許狀を受け全二十四年大口尋常高等小學校訓導となり全三十六年小學校教員免狀授與せられ荒神、針持、田中小學校に教鞭をとり全三十八年青木尋常小學校長を拜命、大正七年四月依願免職、全九年國勢調査員となり、全十年大口町會議員に當選し全年助役に推さる、全十四年町會議員に再選學務委員に擧げらる。

大口町 竹之内 嘉次郎氏



君は明治七年八月羽月村桐野家に生れ大口町木ノ下竹之内家の養子となる、羽月尋常高等小學校を卒へ明治三十七年より大正三年十二月迄木ノ下信用組合書記を勤め、全九年農事小組合長、區長に推され、全十四年國勢調査員に擧げられ全年町會議員に當選し土木委員に選ばれる。

内村榮徳



◎大口町

大口町 内村 榮 徳氏
君は明治十八年六月十一日大口町字木ノ下に生れ大口尋常高等小學校を卒へ全三十八年歩兵第四十五聯隊に入營し全三十九年滿期除隊歸郷、青年團幹事、農事小組合長、木ノ下區長養蠶組合長を勤め大正九年、全十四年兩度の國勢調査員に選ばれ、全十四年町會議員に當選し勸業委員、學務委員を勤めつゝあり。

大口町 馬門武次郎氏

君は明治二年八月二日大口町字篠原に生れ農業に専念し農事小組合長、區長、衛生組長等を勤め大正九年國勢調査員に選ばれ、全十四年町會議員に當選し造林委員となり努力しつゝあり。

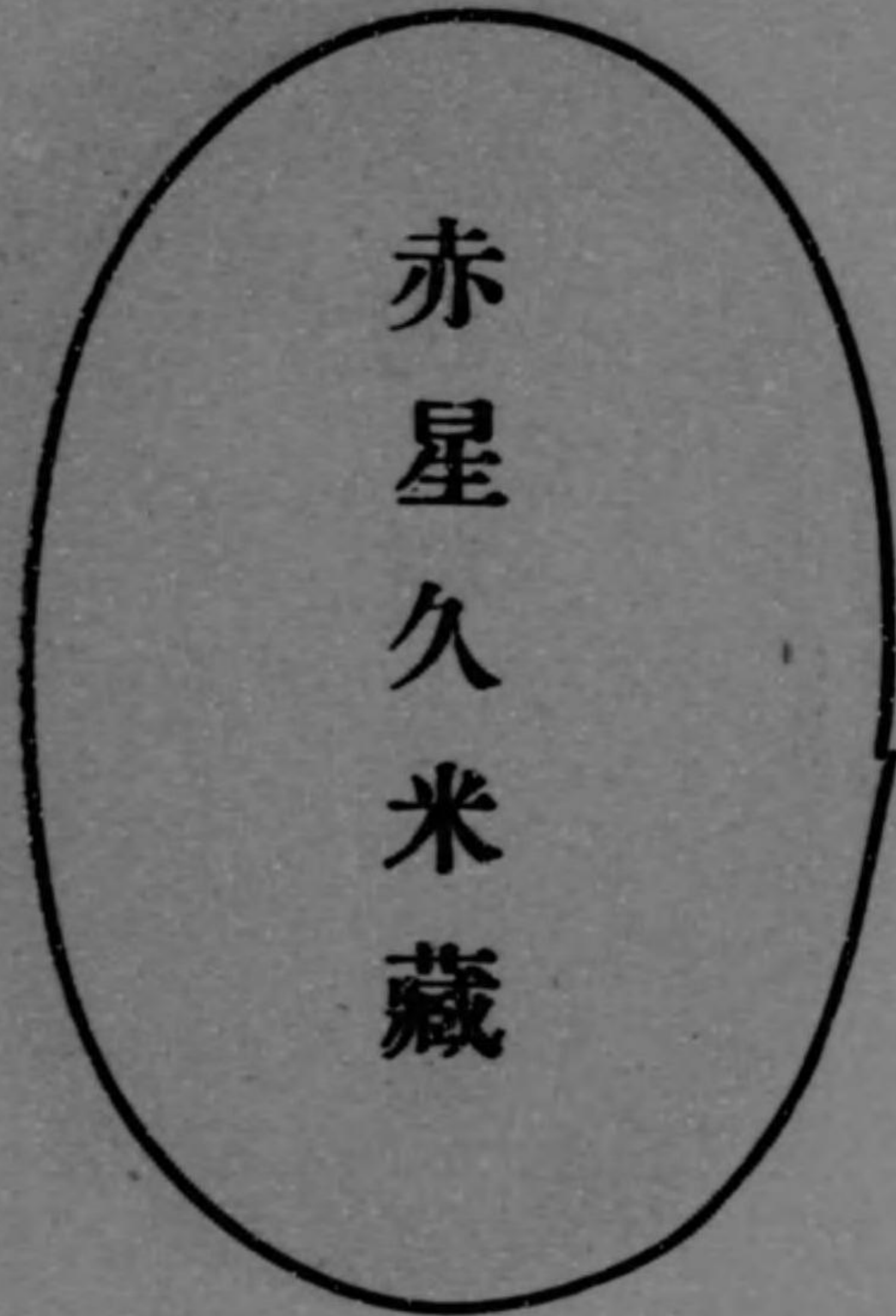
◎大口町



大口町 松崎兼時氏

君は明治十七年十月廿九日大口町字里に生る、大口尋常高等小學校を卒業し熊本醫學專門學校を出で熊本縣立病院に奉職し全四十年辭して出水町に出水病院を經營し、大正五年郷里に歸り現住地に於て引續き開業、全十年、全十四年の兩度町會議員に當選し縣立高等女學校校醫、郡醫師會會計等を勤めつゝあり。

赤星久米藏



大口町 赤星久米藏氏

君は明治十三年五月十三日熊本縣上益城郡濱町に生れ原町尋常高等小學校を卒へ、全三十一年渡臺實業に従事し、全三十六年現住地に轉住し醬油製造業を營みて今日に至る、大口町實業俱樂部評議員に推され國勢調査員に擧げらる、大正九年全十四年の兩度町會議員に當選し自治の爲め盡瘁しつゝあり

大口町 坂口仁四郎氏

君は明治廿六年六月二十六日大口町牛尾に生る、大口尋常高等小學校を卒業し家業に従事、全四十四年陸軍現役志願兵として近衛歩兵第四聯隊に入營し大正二年滿期除隊歸郷、農業を營ひ、牛尾青年會長、在郷軍人分會班長、衛生組長、養蠶支部長、牛尾區長、牛尾耕地整理組合副會長、大正九年、全十四年兩度の國勢調査員に選はれ、全十四年町會議員に當選し勸業委員に推さる消防組頭、大口町衛生副組合長をも勤めつゝあり。

大口町 平岡平兵衛氏

君は明治十五年四月廿日日置郡伊作町入來に生れ入來尋常高等小學校を卒へて實業界に入り飯島に事業を經營し明治廿九年大口町に移住す、山林業並に荒物雜貨の卸商を營ひ大口町衛生組合長八ヶ年勤績、全町實業俱樂部副會長に選ばれ其の功顯著なりとして警察部長より表彰せられたり、大正十年全十四年兩度町會議員に當選し衛生委員に選ばる、消防組後援會委員、商工會顧問を勤つゝあり。

◎大口町



◎大口町



大口町 廣岡 廣氏

君は明治二十五年三月二十五日大口町里に生る、大口尋常高等小學校卒業後家業に従事し大正元年熊本歩兵第二十三聯隊に入營し全三年十二月上等兵に進級して満期除隊、里青年會長、農事小組合長、全九年、全十四年兩度の國勢調査員に選ばれ全十四年町會議員に當選し造林委員を勤めつゝあり。

大口町 森島 森之助氏



君は明治十二年二月八日大口町篠原に生れ大口尋常高等小學校卒業後専ら家業に精勵し、全三十二年歩兵第四十五聯隊に入營、全三十五年滿期歸郷、全三十七年日露戰役に従事せしも病氣の爲め除隊となり歸郷、其の後青木青年會長、山ノ口區長、農事小組合長を勤め大正十四年町會議員に當選自治に向つて努力しつゝあり。

隈元 定夫

山野村長

隈元 定夫氏

君は明治九年九月八日山野村に生る、村役場書記となり次いで郡會議員に當選するもの三回、大正四年以來村長として就任よく村治の爲めに盡せり。

山野村助役

八反丸 長兵衛氏

君は明治六年十月五日山野村に生る、村役場書記となり辭して村會議員に擧げられ次いで郡會議員として二期其の任にあり、大正十一年助役に推薦せらる。

八反丸 長兵衛

◎大口町

◎山野村



山野村 羽田 太左衛門氏

君は明治十四年七月五日山野村長野正太郎氏の三男に生れ明治三十五年羽田家を相續す、山野村小學校を卒業後山野村准教員養成所に入り後山野小學校に教鞭を執る、明治三十五年近衛歩兵第二聯隊に入營翌年病のため除隊歸郷す、日露戰役當事召集されしが病魔に冒され除隊歸郷後農事に從事す青年會長、村農事小組合長、區長、養蠶組合評議員、衛生部長に擧げられ大正六年大正十年大正十四年の三回村會議員に當選し學務委員、村基本財産整理委員に擧げらる。

新富袈裟右衛門

山野村 新富袈裟右衛門氏

君は明治十年十一月十八日山野村平出水に生る、平出水小學校卒業後農業に従事す、青年會長、農事小組合長、衛生部長平出水信用組合理事等に擧げられ、大正十四年村會議員に當選す、君は温厚篤實の士なり。

細 從 滿 助

山野村 細 從 滿 助氏

君は明治十五年二月二日山野村山野に生る、平出水小學校卒業後農業に従事、青年會長、村農事小組合長、衛生部長、區長、下村耕地整理組合副組長に擧げられ大正十年大正十四年二回村會議員に當選し學務委員に選ばれる、又た山野村養蠶組合長、下村納稅組合長となり公共事業に盡力する處尠からず。

◎山野村



山野村 豐穗三之丞氏

君は明治九年五月八日山野村揚村に生る、同村小學校卒業後農業に従事せしが夙に村民の信用を受け明治三十七年全村内寺院分裂の際一方の門徒總代として融和を計り廣大寺創立の際は總代兼會計として精神的に努力し一方村の重要な職に推さる、大正三年區長となり大正十二年三月農會總代に擧げられ同年四月更に山野産業組合監事に推さる、大正十四年五月村會議員に當選し同年十月第二回國勢調査員に選ばれる。

◎山野村

川原惟基



山野村 川原惟基氏
君は明治十三年九月七日山野村山野に生る、山野尋常高等小
學校卒業後東京早稻田大學に入學、明治四十年卒業歸郷、後
山野村書記となり大正五年其の職を辭し同年九月山野村郵便
局長となり、大正十年村會議員に當選、大正十四年に再選村
政に貢献しつゝあり。

山野村 川原三次郎氏

君は明治六年七月十日大口町に生れ、山野村平川川原家に入
籍す、平川青年會長、農事小組長、農會評議員、區長、衛
生部長、平出水信用組合理事に擧げられ大正十四年村會議員
に當選す、君は農作物の品質向上に向つて大に努力せり、而
して村政に貢献する處尠からず。



山野村 川原金石衛門氏

君は明治十五年十二月六日山野村山野に生る、山野小學校卒
業後農業に従事す青年會長、村農事小組長、區長、衛生部
長等に擧げらる、明治三十七年日露戰役に出征せしも不幸病
を得て歸郷せり、國勢調査員、村農會總代等を経て大正十四
年村會議員に當選す、其の貢献せる處尠からず。

山野村 中村政良氏

君は明治二十三年五月二十四日山野村小木原丸山家の次男に
生れ中村家と相續す、山野尋常高等小學校卒業後縣立川内中
學校を卒へ家事に従事す青年會長、農會評議員、郡農會議員
に擧げられ大正九年國勢調査員に選ばる、又小木原信用購
賣組合長に擧げらる、大正十四年村會議員に推され青年の指
導及農作物品質の向上に勉めつゝあり。



◎山野村



山野村 中園休太郎氏

君は明治十一年七月九日山野村小木原に生る、山野小學校を卒業後農事に従事す小木原青年會長、農事小組長、衛生部長、郡農會評議員、戸數割調査委員、村兵事會評議員、小木原村財産整理委員、山野村聯合婦人會顧問等に擧げられ大正十四年村會議員に當選す、其の公共事業に盡力せる處尠からず。



山野村 向原藤次郎氏

君は明治九年十二月二十三日日置郡吉利村に生る、吉利小學校卒業後熊本縣人吉町に於て山林事業を營み明治三十八年現在の地に轉籍し醸造業を開き今日の繁榮を見るに至る、産業組合長、學務委員に擧げられ大正十年、大正十四年の兩度村會議員に當選し産業教育等のため貢獻する所多し。

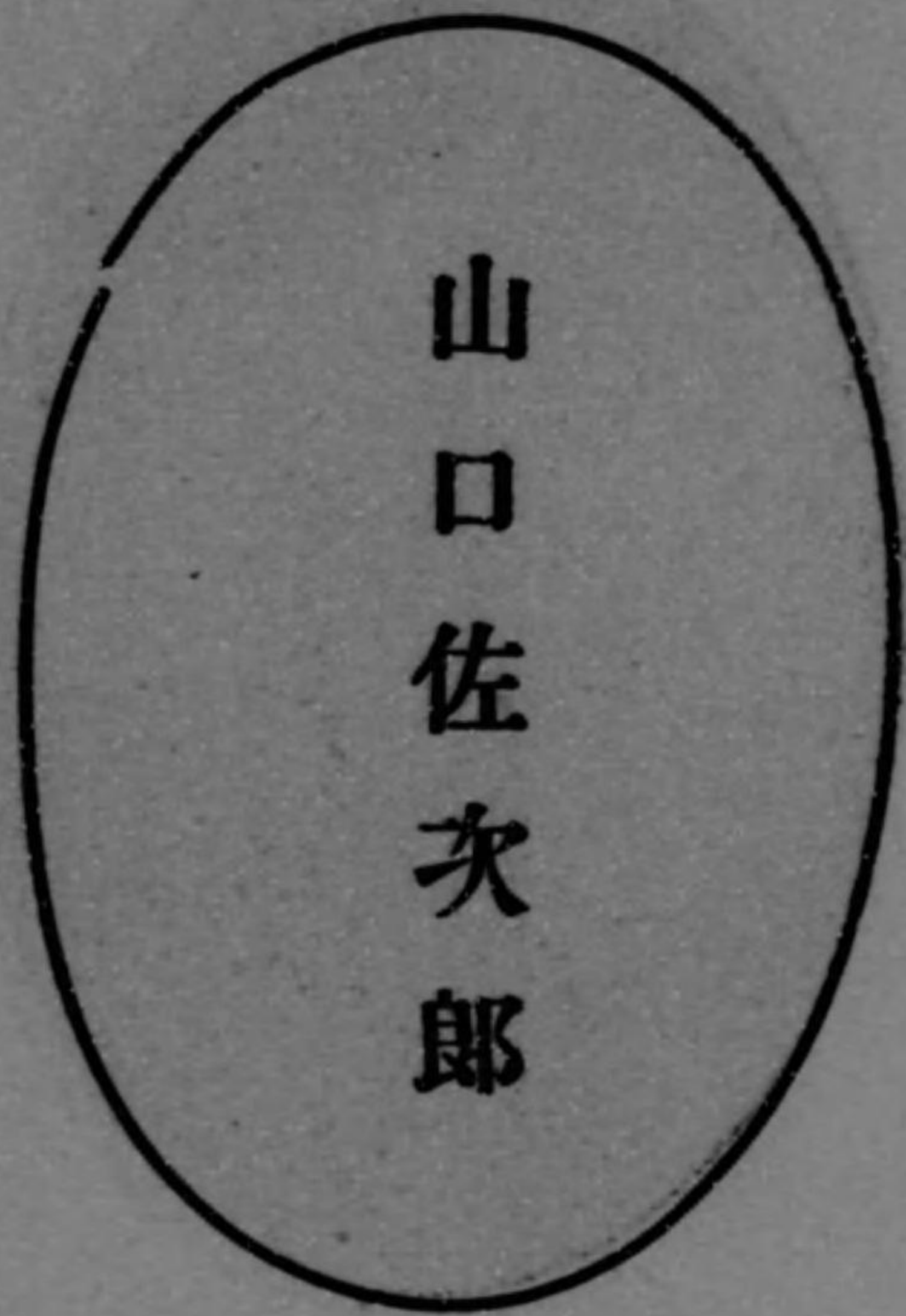
山野村 村田武義氏

君は明治二十三年十二月一日山野村山野に生る、山野小學校卒業後山口縣立農學校に入學同校卒業後一年志願兵として熊本歩兵二十三聯隊に入營陸軍歩兵軍曹に昇進、明治四十五年滿期歸郷後青年會長、在郷軍人會班長、農會評議員等に擧げられ大正十四年村會議員に當選し基本財産整理委員、村學務委員等に推さる。

山野村 山口佐次郎氏

君は慶應二年五月十九日日置郡伊作町に生る、明治二十六年山野村に轉籍し吳服商を營み大に其の信用を博す、學務委員産業組合組長、熊野神社氏子總代等をなす大正十四年村會議員に當選し各方面に盡力する處尠からず

山口佐次郎



◎山野村



山野村 前田 武治氏

君は明治二年十二月十八日山野村山野松葉家に生れ前田家を相續す、山野村小學校卒業後明治二十七年村役場書記となり同三十二年其の職を辭し、同三十四年村會議員に推され、同三十八年二月再び村役場書記となり、大正三年辭任大正五年以來衛生部長、村農會總代、廣代寺門徒總代となり大正十四年村會議員に當選せり。

山野村 二木 壽吾氏



君は明治七年二月四日山野村緒方家に生れ二木家を相續す、明治二十六年四月授業生となり山野小學校に教鞭を執り明治三十八年辭任同年山野村助役に推され、明治四十五年辭して常務學務委員となる、大正六年、大正十年、大正十四年村會議員に當選し大正八年郡會議員に當選郡產産組合山野村支部長に擧げられる等其の村治に貢獻する處尠からず。

山野村 朝日 仁之助氏

君は明治十九年四月四日山野村に生る、平出水小學校卒業後山野高等小學校の補習教育を受けて山野小學校に教鞭を執る熊本輕重兵第六大隊に入營せしも病のため現役免除となり歸郷、後青年會長、農事小組合長、區長、婦人會評議員、山野貯金會社幹事、平出水小學校後援會理事等に擧げらる、大正十四年村會議員に當選し其の自治の向上に貢獻せる處尠からず。

山野村 下壇 次右衛門氏

君は明治九年六月二十三日山野村に生る、山野小學校卒業後農業に従事す、青年會長、農事小組合長、衛生部長、區長、農會總代議員に擧げられしが大正十四年村會議員に當選村治に努めつゝ在り。

◎山野村



◎山野村

山野村 下鹽 正右衛門氏

君は明治十二年八月十九日山野村山野に生る、山野小學校卒業後縣立鹿屋農學校に入學同校卒業後村役場書記を勤め尙ほ山野高等小學校農科に教鞭を執り後村農會副會長に擧げられ大正九年山野村信用組合長に推され大正八年郡會議員に當選し大正十四年村會議員に當選、基本財産整理委員にも擧げられ農作物の品質向上を計りつゝありために村民より重要視さるゝ中樞の士なり。

阿蘇谷彦一

羽月村長 阿蘇谷彦一氏

君は慶應二年二月二十六日羽月村に生る、明治十九年鹿兒島縣師範學校を卒へ肝屬郡佐多、馬龍、郡、大泊、竹ノ浦小學校長となり全廿三年大口高等小學校長に轉し、全二十四年伊佐菱刈郡書記となり更に鹿兒島縣、宮崎縣警部に任じ延岡、都城署長、全縣東臼杵郡長、宮崎郡長に轉じ大正十一年辭任せしが高等官五等、從五位勳六等に叙し瑞寶章、單光旭日章を下賜せらる、大正十四年羽月村長に擧げらる。

羽月村助役 辻 千俣氏

君は明治十一年十一月二十六日羽月村に生る、明治三十一年第四十五聯隊に入營、全三十七年日露戰役の開始せらるゝや直ちに應召、各地に轉戦せしが一等看護に進級して歸村功に依り勳七等青色桐葉章金三百圓を下賜せらる、尙ほ君は全三十年熊本縣巡査となり、全三十五年專賣局に入り、全三十九年伊佐郡役所に奉職全四十二年辭任全時に羽月村書記となる大正五年全村助役に推され今日に至る。

辻 千俣

◎羽月村



羽月村 伊尻幸熊氏

君は明治十一年六月十一日羽月村に生る、明治三十一年第四十五聯隊に入營全三十三年臺灣守備として渡臺翌三十四年滿期歸村、全卅七年日露戰役の起るや直ちに之に参加したるが功に依り勳八等白色桐葉章並に金百圓也を下賜せらる、歸村後區長、宮人耕地整理組合委員に擧げられ、大正十四年村會議員に當選自治の爲めに貢献しつゝあり。

羽月村 西 正次郎氏



君は明治六年三月羽月村に生る、農業を主として酒造業、精米業を營み尙ほ熱心蠶業に従事せるが、明治二十七年衛生組長を振出しに全三十二年區長及び小組合長、全三十九年村會議員等に任じ或は青年會長、農會評議員、産業組合理事、栗野大正物産株式會社監査役等をなす、大正十年村會議員に擧げられ全十四年再選せしが村會議員としては前後五期に亘りて當選其盡せし効績少なからず、尙ほ君は小組合長時代成績優良の廉を以て郡より表彰せらる。



羽月村 横山千代吉氏

君は明治二十四年二月二十三日羽月村に生る、農事及び蠶業を營めるが大正元年青年會長に推され次いで區長、産業組合長、小學校後援會支部長等に任じ今日に及ぶ、大正十四年村會議員に當選せしが自治の爲めに多大の貢献をなしつゝあり。



君は明治十三年六月七日羽月村に生る、明治三十八年朝鮮に赴き京城に於て建築業に従事し全四十一年歸村、農業をなす其の水稲作の如き伊佐郡内に於ける二三番に位する迄手廣く經營せり、區長、農事小組合長、青年會長、産業組合理事等に任せり、大正元年着手せし大谷派説教所建築には門徒よりの委員として是に當り功績少なからず、大正十四年村會議員に當選大に努力しつゝあり。

◎羽月村



羽月村 佐土原甚左衛門氏

君は明治二年十月二十日羽月村高橋小一郎の次男に生れ明治二十一年佐土原家の養子となる、明治二十六年より峰山區長馬渡區長として前後四回、全卅八年農事小組合長、大正五年耕地整理組合長に擧げらる、全村に於ける道路改修に對しては多大の努力をなす、大正十四年村會議員に當選自治の爲めに奮闘し居れり。

羽月村 南園喜太郎氏



君は明治十三年十一月十六日羽月村に生る、農事を業とせるが明治三十四年青年會長に擧げられ其他區長として前後四回農事小組合長として二回之に任し、大正五年及び全十二年の二回耕地整理組合委員に推さる、大正十年村會議員に當選、全十四年再選せり、尙ほ君は全地觀音堂の修築に對し多大の盡力をなす。

羽月村 瀬戸山仁助氏



君は明治二十一年六月二十八日羽月村に生る、明治四十一年第二十三聯隊に入營し朝鮮守備隊に偏入せられ全四十三年上等兵に進級して滿期歸村、全四十四年在郷軍人會監事として今日に至る、其の他青年會長、農事小組合長、南部衛生組長區長として能く其の任を果せり、大正十四年村會議員に當選自治の爲め努力しつゝあり。



羽月村

政元 太右衛門

君は明治十二年五月二十五日菱刈村に生る、明治卅四年宮崎縣立獸醫學校を卒業し一年志願兵として其年騎兵第六聯隊に入營せしが全三十七年陸軍三等獸醫として日露戦役に従軍、功に依り勳六等を賜ふ、全卅九年二等獸醫に進級、從七位に叙せらる、全年召集解除歸村して獸醫を開業せり、在郷軍人分會長となり郡會議員に擧げられ村會議員に當選或は學務委員に選ばれる等各方面に努力する所少なからず、大正十四年村會議員に當選と全時に村長に擧げらる。

菱刈村長 政元 太右衛門氏

菱刈村助役 高島 芳秀氏

高島 芳秀

君は明治二十四年五月二十九日菱刈村に生る、大正十五年全村助役に擧げられ村長を補佐して村政の向上發展を圖りつゝあり。

竹下 榮吉

君は明治十三年七月十五日を以て伊佐郡菱刈村に生る、菱刈小學校を卒へて直ちに師範講習科に入り明治三十年卒業、菱刈小學校に奉職せしが全三十六年日置郡東市來村尋常小學校に轉じ致々として育英の事に従ひ居たる際偶々日露國交の斷絶となり干戈相見ゆるに至るや補充兵として召集せられ後方勤務に従ふ、解任除隊後復職したるが明治四十年三月辭任歸村せり、大正六年村會議員に當選以來引き續き今日に至るまで尙ほ其の任にありて村治の爲め不斷の努力を傾注し居れり尙ほ君は産業組合理事にも任せり。

菱刈村 竹下 榮吉氏

大正十四年

◎西太良村

大脇三四郎

西太良村長 大脇三四郎氏

君は明治十一年九月二十八日伊佐郡西太良村里に生る、明治二十九年鹿兒島縣簡易農學校に入り全卅年卒業と全時に伊佐郡會木尋常高等小學校雇となり、七月小學校農業專科教員免許を得て訓導拜命、全卅一年十一月辭任、全年十二月歩兵第四十五聯隊に入營、全卅四年滿期除隊、全年西太良村役場書記となり、全卅六年八月辭任、更らに明治四十四年八月全書記となり大正四年九月全村助役に推薦せられ、大正八年九月再選、大正十二年九月村長に推薦せらる、君は明治三十七年日露の國交斷絶干戈を交ゆるや召集せられて征途に上り戰功あり勳八等、白色桐葉章並に金百五十圓を下賜せらる。

西太良村助役 下田平氏

君は明治十二年四月二十七日伊佐郡西太良村針持に生る、明治二十七年本城尋常高等小學校を卒業し明治卅五年十二月西太良村役場書記となり、全卅九年二月收入役に擧げられ大正二年三月に至りて退く、大正五年村會議員に當選し、大正八年郡會議員に選ばれて郡政に參畫する所あり、大正十年再び村會議員に擧げらる、大正十二年十月全村助役に推薦せられて今日に及べり。

下田平

西太良村 竹下武彦氏

君は明治二十年十二月十五日西太良村里八ヶ代家に生れしも長じて竹卜家を襲ぐ、明治四十年東京順天堂病院に入りて醫術を研究し、全四十四年醫術開業試験に合格したれば直ちに歸村して郷里西太良に開業し小兒科婦人科産科に於て獨得の手腕ありと稱せらる、目下會木小學校々醫を囑托せられ學校兒童衛生には多大の注意を拂ひ居れり、大正八年郡會議員に擧げられて郡政に參畫し、大正九年には縣醫師會議員に推され、尙ほ其の他産業組合創立以來の理事として能く其の實績を擧げ或は青年會長となり、郡醫師會幹事となり、消防組頭となり何れも其の任務を充分に果せり、大正十四年薩摩郡求名村に分院を設立し醫學士前原則知氏を主任に聘して全地方の診療に従事し居れるが大正十四年村會議員の改選に際し大多數を以て當選自治の爲めに大に努力し居れり。

◎西太良村

○本城村

時任直章

本城村長 時任直章氏

君は明治十二年七月一日を以て本城村に生る、大正十三年全
村長に擧げられ今日に至り能く村政に努力しつゝあり。

森屋利宜

本城村助役 森屋利宜氏

君は明治十二年九月二十七日本城村に生る、村役場書記とな
り更に縣立伊佐高等女學校書記たりしが大正十一年全村助役
に推薦せらる。

始良郡

加治

木町

町長 日高 彦市氏
助役 空間 徳二氏
議員 池田 芳太郎氏
石野 七左衛門氏
濱田 清助氏
濱川 源太郎氏
新名 忠氏

村長 茂毛 三藏氏
助役 折田 熊次郎氏
議員 伊東 小助氏
井ノ上 爲右衛門氏
堀ノ内 利太郎氏

村長 花田 波之助氏
助役 藤崎 真次郎氏
議員 花田 小三郎氏
春山 次郎兵衛氏

◎餘康郡

新名 忠左衛門氏
西村 休太郎氏
鬼塚 仁次郎氏
柏原 源太郎氏
曾木 豊二氏
藤田 正市郎氏
梅木 太右衛門氏

堀内 次郎氏
東條 直太郎氏
米満 豊太郎氏
田中 次右衛門氏
鶴留 万助氏

東條 才藏氏
川邊 誠藏氏
上田 豊喜氏
鶴木 安太郎氏

山下 市兵衛氏
山下 源五郎氏
山口 休次郎氏
柳田 新助氏
前田 平藏氏
牧 清澄氏
迫 金次郎氏

永島 森太郎氏
村田 新助氏
久枝 嘉之助氏
大重 爲廉氏
隈元 實行氏

肥後 竹熊氏
問世 田新助氏
前田 長助氏
小松 宗次郎氏

宮脇 助四郎氏
下橋 國休次郎氏
東川 内長左衛門氏
東 臨正左衛門氏
杉田 平一 郎氏

小麥田 製次郎氏
森 直五郎氏
森 永郷右衛門氏
森田 仁次郎氏
瀬戸口 與之丞氏

宮島 岩助氏
森 彌吉氏

赤塚源次郎氏
小山田政一氏
井上吉之助氏
伊地知次右衛門氏
羽生己之助氏
新野仲吉氏
脇田福右衛門氏

池田伊十郎氏
池井貞房氏
橋山良知氏
西川安右衛門氏
外國嘉左衛門氏

池田伊十郎氏
池井貞房氏
橋山良知氏
西川安右衛門氏
外國嘉左衛門氏

野間豊助氏
二見嘉吉氏
岩元其八氏

生

川崎正藏氏
神宮格志氏
吉村正治氏
竹内矢七氏
谷口助之進氏
長野助左衛門氏
野村露次郎氏

田

田代敬之丞氏
恒吉源助氏
中野喜太郎氏
上堤嘉吉氏
大重市左衛門氏
岩元篤正氏
岩元弘弘氏
岩元與右衛門氏

村

久木田筑之助氏
前田重雄氏
池田善兵衛氏
市山藤右衛門氏
羽田彦次氏
早淵金之助氏
時任甚七氏

横川

川崎武志氏
猪俣武熊氏
石野田秀氏
石野田清氏
市來虎千代氏

村

池田善兵衛氏
市山藤右衛門氏
羽田彦次氏
早淵金之助氏
時任甚七氏

栗野

上田郁氏
姫木清次氏
馬場追時雄氏
假屋園卯斐吉氏
上水流清助氏

村

龜澤新助氏
田島謙藏氏
田代春美氏
園田金之助氏
永田幸市氏

吉松

中村重治氏
和田守信氏
指宿哲二氏

村

時任正氏
大重守助氏
龜澤甚次氏

松田矢七氏
二見嘉吉氏

山元怒一氏
吉野正一氏
田口敏氏
奈良木正助氏
長丸榮次氏

中水流正助氏
上村市左衛門氏
老谷三之助氏
前田嘉右衛門氏
藤垣矢熊氏

吉留佐太郎氏
長井實近氏
中水清二氏

生

國生周內氏
酒匂新氏
坂元佐一氏
木原喜助氏
森田六左衛門氏

村

福岡孝左衛門氏
小坂甚助氏
有村作右衛門氏
城光寺藏助氏
瀬戸山良藏氏
宗保林角氏
上原四郎左衛門氏

重富重助氏
末光完司氏

中村傳之助氏
上田庄三郎氏
山本榮藏氏
追田榮藏氏
佐野卯之助氏

福本善太郎氏
郡山三治氏
天辰喜之助氏
綾織武助氏
木佐貫幸氏

永野清助氏
村岡喜兵衛氏
宇都武二氏

能勢傳藏氏
久木元計佐助氏
山口喬樹氏
山下榮右衛門氏
松永榮吉氏
前田彌八郎氏
增山生之助氏
溝口兼重氏

牧園

村

富田重治氏
橋口郁介氏
指宿哲二氏
板越信輔氏
猪木製裝助氏
堀切末彦氏
富田重治氏
床波榮熊氏
神田次郎助氏
樺山友助氏
田島源一氏
田島助太郎氏
永岩雄助氏
永田實氏
長崎末吉氏
中小路五兵衛氏
中水清二氏
野元八之進氏
黑岩東吉氏
久木元計左助氏
山元喜助氏
松下紀代志氏
前田彌八郎氏
安樂權右衛門氏
有村綱吉氏
澤原七郎氏
宮原佐熊氏
宮原種滿氏
森山直一氏
森山重志氏

西襲

山村

松元清彦氏
西田金左衛門氏
原口三太郎氏
濱田貞二氏
米丸映助氏
竹下秀熊氏
上野七次郎氏
廣元藏右衛門氏
福答院健之助氏
福元映太郎氏
兒玉喜春氏
荒瀬惺夫氏
迫間源次郎氏
下村藤市氏
西丸傳四郎氏

東襲

山村

榎川彌九郎氏
荒田虎一氏
議員石陽源助氏

本田親吉氏
細山田諸太郎氏
山畑虎熊氏
吉松武志氏
中國權四郎氏
上村善太郎氏
小山善利氏
窪田甚太郎氏
牧野瀨雄市氏
福留藤助氏
福元熊太郎氏
兒玉實雄氏
後藤一應氏
荒田虎一氏
木野田彌右衛門氏
新村權之丞氏

清水

村

肥後喜次郎氏
濱田良秋氏
堀中齊藏氏
中馬仲熊氏
鶴田製裝次郎氏
永吉吉之助氏
永國製裝吉氏
上萩金左衛門氏
上原茂氏
口町次郎吉氏
山下七右衛門氏
安田贊氏
福森仙五郎氏
古川順助氏
兒玉實雄氏
追田喜左衛門氏
木佐木盛藏氏
宮田森之進氏
新屋敷製裝助氏
新盛英夫氏

西國分

村

大山吉助氏
服部休次郎氏
岩切喜助氏
林嘉三次氏
林嘉三次氏
星原靜一氏
山東喜衛氏
吉元喜平次氏
東金次郎氏
野村武重氏
藏元小左衛門氏
山内俊色氏
松枝小八氏
松下啓藏氏
上村正次郎氏
古賀仁右衛門氏
清田製裝右門氏
堀川金右衛門氏

西國分村

村長 國田新太郎氏
助役 越口製裝次郎氏
議員 池上憲政氏
岩永映右衛門氏

◎繪良郡

◎妙良郡

原口榮樹氏
西井上盛吉氏
富森伊之助氏
川畑熊太郎氏
川越吉之氏
高木時吉氏

東國

分村

高島市兵衛氏
園田新太郎氏
永富仲兵衛氏
東清氏
野村清藏氏
岡元清助氏

大迫配吉氏
山内慶治氏
山元吉藏氏
前田七郎氏
古江源左衛門氏
福重半之助氏

兒五三次郎氏
南中道助次郎氏
森常次郎氏
末永武藏氏

村長 中馬猪之吉氏
助役 山元茂吉氏
議員 池田米次郎氏
今村喜太郎氏
西村新之丞氏

議員 橋口 栢宿貞敏氏
今村榮二氏

敷根

村

西村善之助氏
中馬太次右衛門氏
上野助兵衛氏
岡元助左衛門氏
矢野次左衛門氏

萬壽仁三次氏
前田良右衛門氏
別府清之丞氏
佐々木謙助氏
佐々木宇助氏

宮永藏郎氏
新村源太郎氏
下村長助氏
邊滿傳助氏

村長 高野健介氏
助役 小山武男氏
議員 今村榮二氏
栢宿貞敏氏
橋口 栢宿貞敏氏

議員 栢宿貞敏氏

西村庄吉氏
常盤稻藏氏
川原田勇吉氏
中深迫仁次郎氏
永山吉兵氏

上床直之進氏
内田傳造氏
藏元金三次氏
山口吉藏氏
前田金次郎氏

有村榮二氏
給良安哉氏
坂元治兵衛氏
境川 助氏
新橋兵右衛門氏

福山村

村長 松下登精氏
助役 松下五郎左衛門氏
議員 今村武次郎氏
岩戸 巖吉氏
川畑金次郎氏

川井田源左衛門氏
立和田嘉助氏
谷山榮之助氏
立元吉助氏
園田權之丞氏

中尾 廉氏
廣瀬嘉右衛門氏
國師直右衛門氏
北田直吉氏
三角末吉氏

南園伸太郎氏
有村吉之丞氏
宮原直有氏
森川銀藏氏
鈴木武八郎氏

◎加治木町

石野七左衛門

加治木町 石野七左衛門氏
君は明治十八年九月八日九左衛門氏の二男として加治木町小山田に生る、小學校卒業後専ら農業に従事し居たるが明治卅八年熊本歩兵第二十三聯隊に入營上等兵に進級して歸村、其後石野青年會長を振出しに農事小組合長、衛生組合長、小學校教育組合長、小山田在郷軍人班長等を勤めり、曾て八代聯隊區簡閱點呼官相良大佐より其忠實なるを賞せらる、大正十四年町會議員に當選せり、豫て農事の傍ら其の副業として畜産業に熱心努力しつゝあり。

加治木町 濱川源太郎氏

君は明治八年十月三日加治木町源左衛門氏の長男に生る、小學校を卒業し明治二十八年熊本砲兵隊に入營、全三十七年、日露戦役の際は野戰砲兵特科隊に編入され看護長となる、除隊後勳七等青色桐葉章を下賜さる、君は縣醸造組合役員、伊佐始良兩郡醸造組合役員、衛生副組合長となり大正十四年町會議員に當選し専ら町政に努力しつゝあり。

濱川源太郎

加治木町 西村休太郎氏

君は明治八年五月十八日直助氏の長男として加治木町西別府に生る、小學校を卒業して直ちに農業に従事し孜々として精勵し居たるが後ち大字青年會長に推され次いで農事小組合長町農會代議員、衛生組合副組合長、大字世話人、大字評議員國勢調査員等をなし相當の成績をあげたり、大正十四年の町會議員改選に當り當選せり。

加治木町 鬼塚仁次郎氏

君は明治六年九月廿七日加治木町仁右衛門氏の長男に生る、柁城小學校卒業後鹿兒島英佛義塾に學び明治三十三年警視廳警部拜命、板橋警察署勤務、全三十四年三月警察官講習所に入り消防警部、深川分署長、本郷、京橋、麻布、霞町分署長となり明治四十三年朝鮮忠清南道唐津署長、賀山署長、洪州署長歴任大正五年十一月辭任、東京芝區赤羽郵便局長となり大正十二年辭し郷里加治木町に歸郷、大正十四年町會議員に當選し能く町政に努力しつゝあり。

西村休太郎



◎加治木町

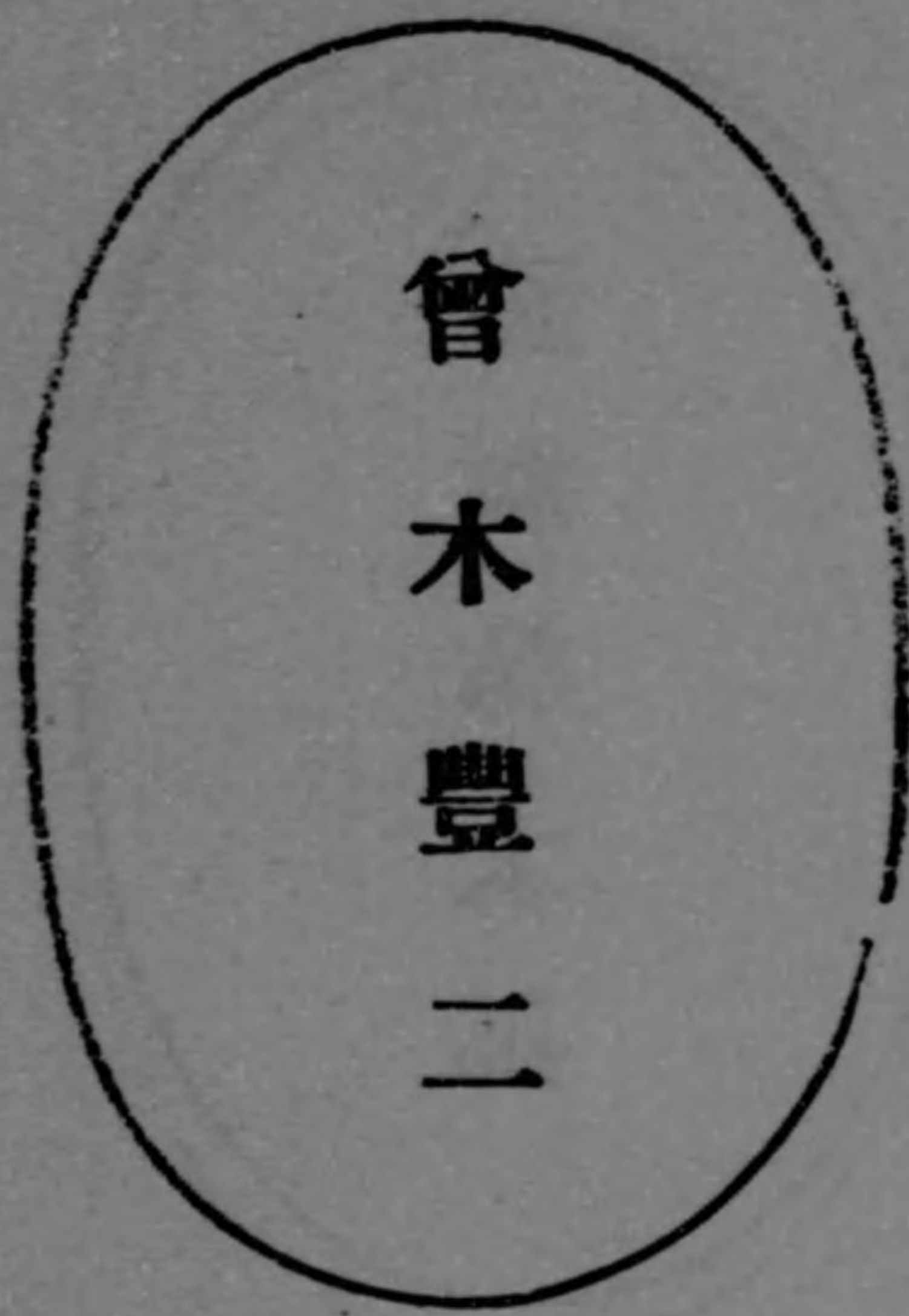
◎加治木町



加治木町 柏木源太郎氏

君は慶應三年一月十九日を以て加治木町に生る、幼にして農業に従事せし事あるが後ち陸軍に志し入營後孜々勤勉の功空しからず陸軍三等主計に昇進して退營せり、歸來再び農事に屬精する所あり且つ公共事業に力を致すもの少なからず大正十四年再び町會議員に當選、自治の爲めに多大の貢献をなすつゝあり

曾木豊二



加治木町 曾木豊二氏

君は明治十年四月九日彦五郎氏の二男として加治木町に生る明治卅一年東京成城中學校を卒業し其年十二月士官候補生として第三聯隊に入營、全卅二年陸軍士官學校に入學全卅四年優等にて卒業直ちに第三聯隊附となり全卅五年少尉に任官、全卅七年日露干戈を交ゆるに當り第二軍に屬して征途に上り南山役にて負傷、全年七月中尉に昇進陸軍幼年學校生徒隊附卅八年第三聯隊大隊附、卅九年歩兵第五十八聯隊副官、四十一年大尉に昇進、四十二年第五十八聯隊中隊長となり、大正

二年八月豫備役となりて歸郷、君は戦功により従六位勳五等に叙せらる、大正三年加治木町在郷軍人會長、全七年加治木町長に就任全十三年辭任せり、其間町農會長、産業組合長、養鶏組合副會長、山林組合委員、在郷軍人會始良郡聯合分會長を勤め大正十四年には在郷軍人會總裁閑院宮殿下より本縣第一回の功勞者として賞賜せられ全十五年には陸軍大臣より軍事功勞者として銀盃を授與さる大正十四年町會議員に當選せり君の夫人は加治木婦人會長なるが夫婦揃ひにて各方面に努力しつゝあり。

加治木町 梅木 太右衛門氏

君は明治十三年十一月三日加治木町に生る、小學校を卒業して農業に従事し後ち兵役服務後明治卅六年渡米したるが明治卅八年三月在米中日露戰役の爲め召集を受け直ちに歸國せしも歸着の際は既に媾和成立の曉にて召集免除となりしを以て其年再び渡米、明治四十四年歸國、而して噶喇郡大崎村に於て三十餘町歩の開墾事業を完成し更に宮崎縣西臼杵郡岡倉及び北海道に各數十町歩の開墾と杉樹の造林に着手完成、大正八年錦江支會北部木田五部落聯合青年會長、農事小組合長、消防組頭、小學校後援會幹事、町有林委員、大字評議員、一錢貯金會副會長、國勢調査員等をなしたるが大正十四年町會議員に當選せり。

◎加治木町



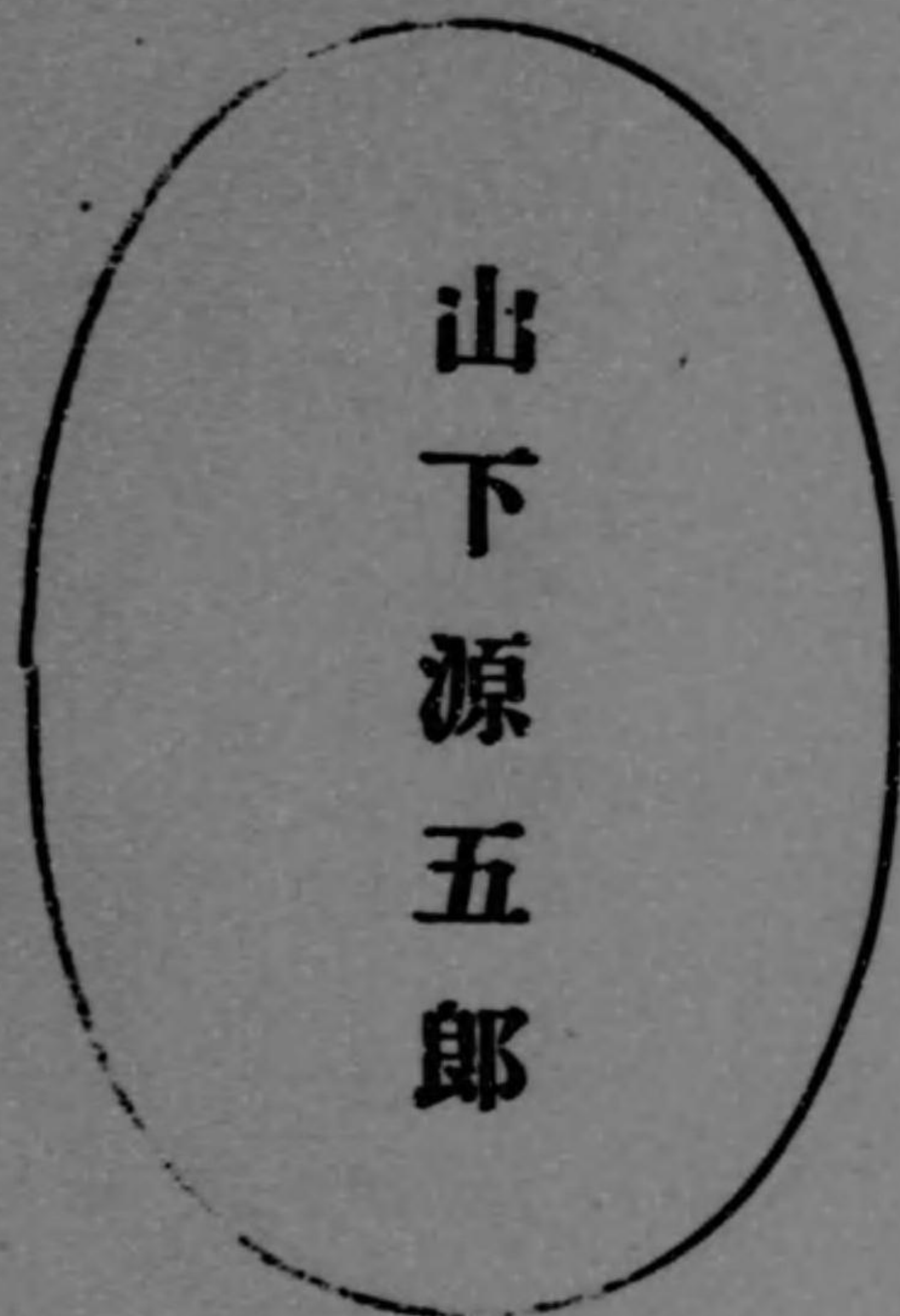
◎加治木町



加治木町 山下市兵衛氏

君は明治廿三年一月廿九日山助氏の長男として加治木町西別府に生る、小學校を卒業後農業に従事したるが明治四十三年近衛歩兵第四聯隊に入營せしも病氣の爲め除隊歸省、其後西別府葛蒲谷青年會長、西別府青年會長、農事小組長、大字評議員、西別府常設員、赤十字社終身社員、加治木町農會代議員、加治木町産業組合幹事、小學校後援會理事、永原尋常高等小學校改築工事監督、西別府安全會及び青年會顧問、國勢調査員、大字共有財産造林監督等をなせしが大正十四年町會議員に當選せり、君は造林と畜産に最も力を盡し本縣第一回馬匹共進會に於ては一等賞を得たるが其外子爵曹根荒助、子爵寺内正毅の兩馬政長官より三回に亘りて賞金を授與せらる。

山下源五郎



加治木町 山下源五郎氏

君は明治六年七月十六日加治木町楠原に生る、小學校卒業後は父祖の業を繼ぎ農業を營み農事小組長、衛生組合長、青年會顧問、婦人會顧問、日木山字議員全常務員となり、農會議員三ヶ年、學校區教育組合長數年、國勢調査員、町産馬組合監查役等に擧げられ町衛生代議員に現任し、大正十年三月町會議員に當選爾來引續き現任して町政に努めつゝあり、長男顯義氏は近衛師團大隊本部附勤務、次男松男氏は大阪中央電信局勤務、三男景二君は家事に従事中。



加治木町 前田平藏氏

君は安政四年十月十六日を以て加治木町に生る、明治十一年七月始良郡柘城小學校教員となり、全十六年始良、桑原、西鴨吹郡書記拜命、全廿一年五月退職せり、斯くて君は町の長老として一般の尊敬を受く、町會議員としては屢々之に任し今尙ほ其の任にあり其の町制實施に至るも君の力與かつて大に効ありと

◎加治木町



加治木町 牧清澄氏

君は元治元年一月十六日加治木町清農氏の長男に生れ育英館を卒業し熊本縣稅務署に奉職、明治二十五年鹿兒島稅務署に轉じ全二十九年伊佐郡大口稅務署長となり更に宮崎縣都城本縣加治木署長を経て、全三十八年鹽務局加治木出張所長となり、全四十年專賣局垂水出張所長、全四十二年加世田專賣局出張所長となり大正三年八月辭職、大正四年五月加治木町長に擧げられ大正七年二月辭し大正二年正七位勳七等に叙せらる、君は稅務署に勤むる事十九ヶ年專賣局に奉職する事九ヶ年能く其職務に精勵、大正十四年町會議員に擧げらる。

◎加治木町



加治木町 宮協助四郎氏

君は明治十二年十月十五日四郎左衛門氏の五男として加治木町小山田に生る、龍門小學校を卒業して以來農業に従事し後ち小山田青年會長に選ばれ次いで衛生組合長、始良郡畜産組合加治木支所小山田世話人、小山田聯合會長、學校教育組合長、大字評議員、町學務委員、土木委員、大字小山田常設員加治木産業組合評定員、加治木溝邊間道路開鑿及び小山田校増築工事監督員、國勢調査員をなし大正十四年町會議員に當選せり、君は普通農事の副業として畜産及び煙草耕作を熱心獎勵し自らも大いに精勵しつゝあり。

加治木町 東川内長左衛門氏



君は明治元年八月十三日與助氏の長男として加治木町小山田に生る、農事小組會長を振出し大字常設員、衛生組合長、青年會長、大字評議員、學校教育組合長、國勢調査員等をなす、大正十年村會議員に、全十四年町會議員に當選し町村自治の爲め多大の貢献をなす君は此の外寺總代として宗門の爲めにも盡す所少なからず君に六男三女あり、圓滿なる家庭の主人公として一般に羨望せらる。

杉田平一郎

加治木町 杉田平一郎氏

君は明治四年一月廿日加治木町木田に生れ、錦江小學校を卒業し造士館に學び中途退學醸造業を營み現在に至る、青年會顧問、衛生組合長、小學校後援會顧問、醸造聯合會評議員、伊佐、始良郡醸造組合評議員、性應寺門徒總代等をなす、大正六年町會議員に當選し前後三期に亘り現在に至り能く町政に努力しつゝあり。

◎加治木町

◎帖佐村

養毛三藏



君は慶應元年十二月二十九日帖佐村に生る、曾つて小學校に
教鞭を採りしが辭して村會議員となるもの數年、大正六年村
長に當選せり。

帖佐村長 養毛三藏氏

帖佐村助役 折田熊次郎氏

君は慶應二年正月五日給良郡帖佐村西餅田に生る、明治十六
年十月十五日管原小學校授業生に任ぜられ全十九年九月辭任
全年十月帖佐村西餅田外二ヶ村用掛拜命、全二十一年三月沖
繩縣巡查となりて全廿五年五月辭任、全廿六年七月給良郡農
會書記拜命、全廿八年五月辭任、全廿九年十一月臺北縣巡查
となり全卅年十月巡查部長に昇進全卅二年辭任、全卅二年四
月帖佐村書記となり全卅八年四月庶務主任を命ぜられ大正六
年五月全村助役に推薦せられ引き続き今日に至るまで其の職
に在り良助役として村民の氣受け殊に良好なり。



帖佐村 米滿覺太郎氏

君は安政二年一月二十日帖佐村東飯田に生る、幼時寺小屋に
於て書を學び長ずるに及び専心父祖の業農事に勵精し居たる
が明治二十九年村會議員に撰ばれて村政にたづさわり、次い
で全三十四年再び推舉さる、其の後農事小組合長に推され帖
佐産業組合理事に擧げられ、或は帖佐松原の掘田堤防修理委
員、建昌小學校の後援會理事等に擧げられて各方面に亘りて
努力其の成績の見る可きもの少なからず、大正十四年三たび
村會議員に當選し村道路委員に推され大に活動しつゝあり。

帖佐村 隈元實行氏

君は給良郡帖佐村に生る、夙に本縣廳に入り土木事務を掌る
川内、鹿屋等の本縣土木出張所長として勤務するもの多年、
のち本縣土木課主席となり道路、港灣の施設に向つて君の抱
負を實現するもの枚擧に遑あらず、本縣交通界に寄與せし其
の功績實に偉大なり、のち熊毛郡長に任命せられ郡治に對し
ても又多大の功績を擧げたるが後進の進路を要塞するを層と
せず辭任歸村せり、君は沈毅剛勇にして能く後進子弟を導く
に依り舉村皆々師父の如く尊崇し居れるが大正十四年村民の
輿望を空しくする能はず終に村會議員となる。

◎帖佐村



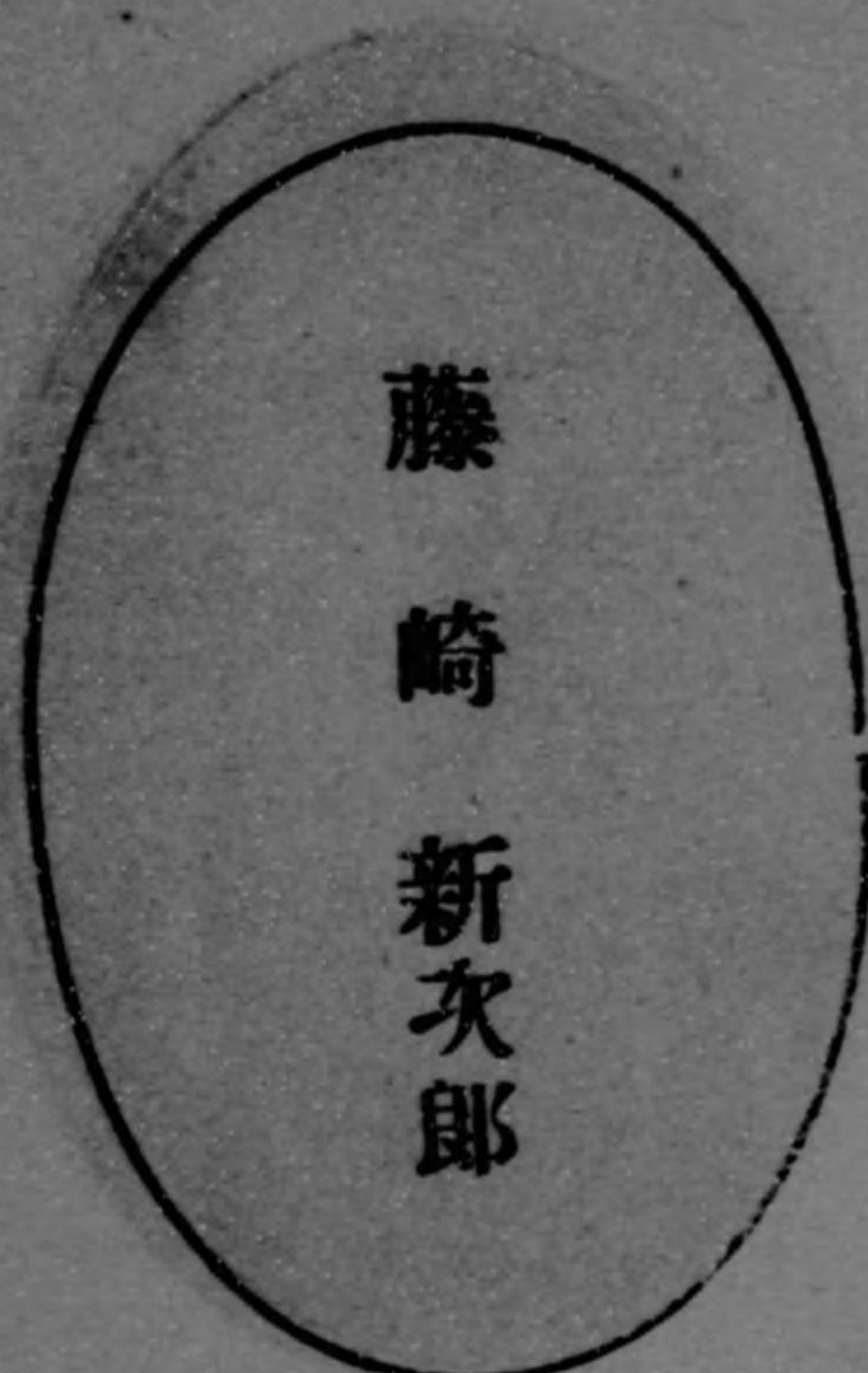
◎重富村



重富村長 花田波之助氏

君は慶應三年十二月二十九日重富村に生る、大正十三年村長に當選、自治の爲めに努力しつゝあり。

藤崎新次郎



重富村助役 藤崎新次郎氏

君は明治三年十一月十五日重富村に生る、曾つて稅務屬たりし事ありしが大正十三年全村助役に擧げらる。

重富村 東郷才藏氏



君は明治二十六年十二月二十三日重富村春花に生る、明治四十年四月育英學院を卒業し大正二年春花青年會理事に擧げられ大正八年に至りて辭し、全十一年春花青年會長及び農事小組合長に推され尙ほ春花灌漑用水組合、春花區會議員に選出され各方面に亘りて多大の成績を收めたり、大正十四年村會議員に當選自治の爲め大に活動せり。

重富村 川邊誠藏氏



君は明治三十年十二月二十日重富村春花に生る、小學校を卒業し直ちに商事見習として鹿兒島市住吉町稻松商店に入り次いで牧園村宇萬膳に於ける淺田、菱田の兩製材所に日用品の供給をなすこと多年大正七年臺灣獨立歩兵第二聯隊に入營、大正九年滿期除隊歸郷、大正十年春花農商組合長に推されて全十二年迄是に任じ、大正十年春花青年會理事に選ばれ春花區協議員、部落摸合主任、教育組合長等各方面に亘りて盡力淺からず、大正十四年村會議員に當選、村出納委員に選ばる因に君は精米業を營めり。

◎重富村



重富村 肥後竹熊氏

君は明治四年九月十九日重富村平松に生る、明治四十年村會議員に挙げられ次いで郡會議員に選出せられて郡參事會員に選ばれ郡政に參畫する所ありしが、大正二年全村長に推薦せられ村治の爲めに貢獻する所少なからず、大正四年に至り縣會議員に選出せられ其の縣政にたつさわるもの一期、後再び村會議員に推薦され引き続き今日に至るまで現任、村治の功勞者として一般に認めらるゝに至る。

重富村 前田長助氏

君は明治十三年九月二日重富村に生る、小學校卒業の後は農事に精勵して怠らず能く一般の範となる、明治四十三年平松煙草耕作組合長となり五人組合の爲めに奮勵し、大正三年平松、城ノ下方限煙草耕作組合長に挙げられて現今に至るまで孜々として働き組合員を指導獎勵して優良の煙草産出に勉め居れり大正十四年村會議員に當選財産常設委員に選ばれる。

前田長助

重富村 小松宗次郎氏

君は明治二十六年九月一日重富村船津に生る、明治四十一年四月育英學院を卒業し農業に従事し大正二年熊本歩兵第二十三聯隊に入營、全四年滿期除隊歸郷、大正五年船津青年會長に推されて全十年に至り、又大正六年より十三年迄船津區長に擧げられ、大正七年重富信用組合監事に選ばれて全十一年に至る間能く精勵し大正十四年村會議員に當選自治の爲めに大に奮闘しつゝあり。



蒲生村長 赤塚源次郎氏

君は始良郡蒲生村上久徳に生る、鹿兒島高等中學造士館に入りしが明治廿五年退學して郷に歸り幾何もなく笈を負ふて東京に遊び修學息らず業卒へて歸村、大正元年始良郡會議員に推され、大正十年蒲生村農會長となり全十三年辭任、大正十年蒲生蠶農社監事、全十一年蒲生製紙組合理事長、大正十二年蒲生電氣利用組合理事に推薦せられ今日に至る、尙ほ君は大正七年十二月蒲生村第六代の村長として就任、大正十一年再選され村治の爲め奮闘其の効績枚舉に遑あらず、全村の今日あるは君の力に待つ所非常に多し、尙ほ君の令弟に赤塚埃國公使あり又た鹿兒島市山下町に辯護士を開業せる谷村源助氏も君の季弟なりと、君の養子赤塚尙友氏は目下京都大學に在りて勉學に餘念なしと。

小山田政一

蒲生村助役 小山田政一氏

君は明治十六年十二月十三日始良郡蒲生村上久徳に生る、明治三十二年縣立加治木中學校に入學し、全三十七年卒業、全三十九年九月北海道札幌農學校に入學せしが病を得て翌年八月退學し、明治四十一年六月高知縣屬となり内務部庶務課に勤務、全四十四年依願退職、大正元年七月蒲生村役場書記となり、大正八年二月助役に推薦せられて今日に至る、尙ほ君は大正十二年二月蒲生電氣利用組合理事、蒲生村農會副會長大正八年常設學務委員、衛生主任として現今に至る迄各方面の事務に努力しつゝあり。

蒲生村 井上吉之助氏

君は明治十四年十二月二十五日蒲生下久徳に生る、明治三十二年海軍を志願して佐世保海兵團に入りしが偶々明治三十七年日露戦争の開始せらるゝや、或は旅順、或は日本海の戦闘に参加して功あり勳八等に叙せられ功七級金鷄勳章を賜ふ、歸省の後は農事小組合長、衛生組合長、煙草耕作組合長各五年、下久徳共有金會計係十一年、下久徳青年會長、下久徳區長各一期之を勤めて、目下蒲生校父兄會幹事、下久徳青年婦人會顧問をなす、大正十四年村會議員に當選せり。

井上吉之助

○蒲生村



蒲生村 伊地知次右衛門氏

君は明治四年二月一日蒲生村白尾に生る、大正元年薄原信用組合長となりて十四年の久しきに亘り奮勵して優良の成績を上げ、薄原、大山小学校學務係四回、農事小組合長及び衛生組合副組長各四年、目下農事協議員、氏子總代、薄原小学校後援會幹事として大に努力し居れり、大正六年村會議員に擧げられ、大正十四年再び村會議員に推選せられ自治の爲め大に奮闘しつゝあり。



蒲生村 羽生巳之助氏

君は明治二年九月六日蒲生村北に生る、明治二十七年三月鹿兒島縣師範學校講習科を卒業し直に育英事業に従事或は訓導として或は校長として前後二十七年、農事小組合長二回、衛生組合組長十年、西浦區會議員二回、寺總代、西浦青年會顧問、西浦養蠶小組合長十年を勤め、大正十年村會議員に當選大正十四年再選さる。

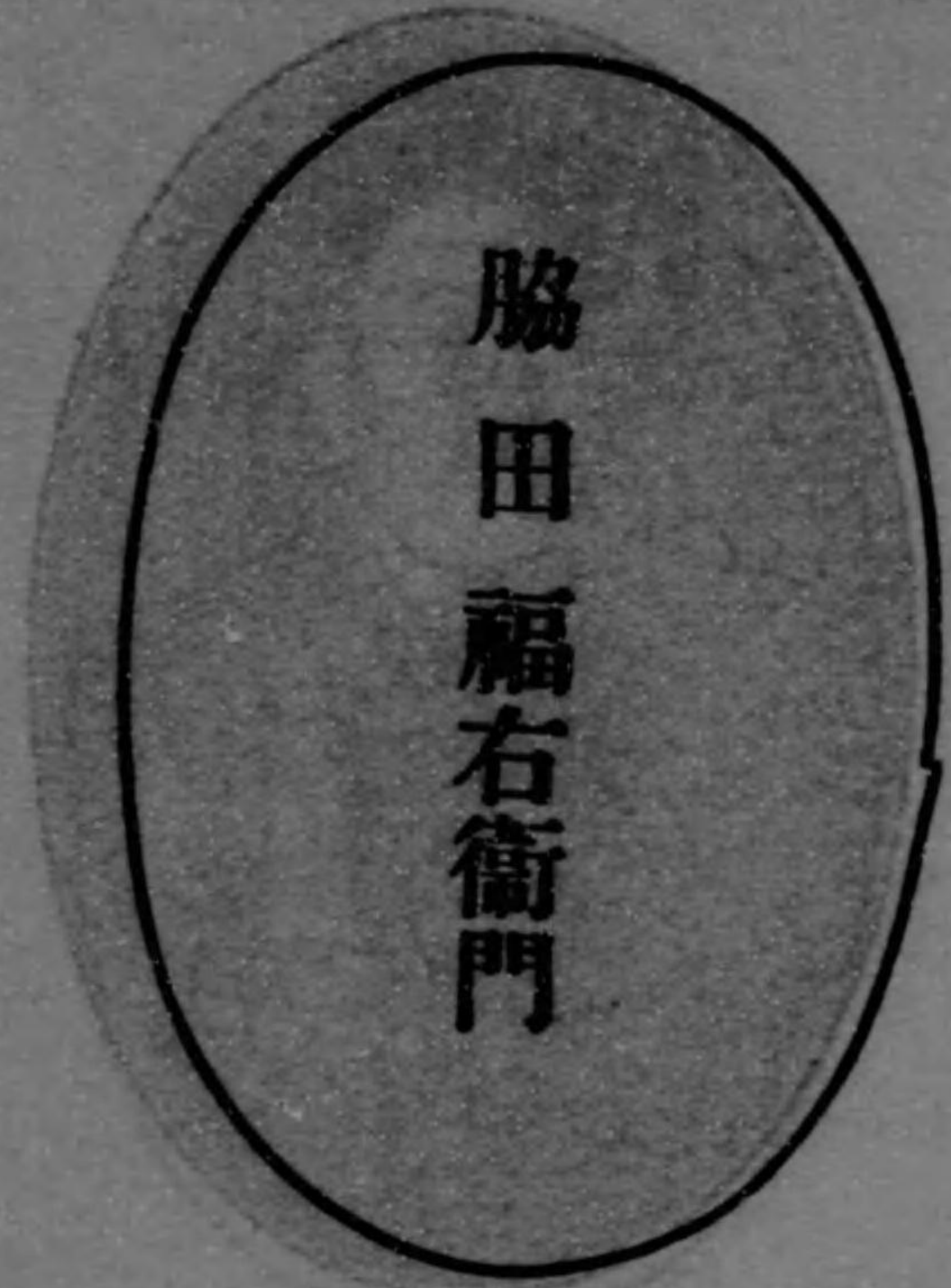
小山田 一丸

蒲生村 新野 仲吉氏



君は明治二十一年一月十二日蒲生村末久に生る、明治三十八年東京第一真專賣局製作課に奉職、明治四十一年臺灣製糖株式會社に轉し、大正八年辭して歸村、大正九年末久上ノ區民總代會長、末久上婦人會及び青年會顧問、消防組合支會長、大正十一年衛生組合理長として今日に至る、此の外末久上區長、農事小組合長、國勢調査員等に擧げられ、大正十四年村會議員に當選し自治の爲めに奮闘しつゝあり。

蒲生村 脇田 福右衛門氏



脇田 福右衛門

君は明治六年五月六日蒲生村上久徳に生る、小學校を卒業して専ら家業に従事し居たるが後ち農事小組合長に擧げられ、次いで蒲生村川東青年會支會長となり、目下川東青年婦人會顧問、蒲生電氣利用組合理事を勤む、村會議員として明治四十年大正二年、大正十年及び大正十四年の四回當選したるが君が村の爲めに盡せる功勞少なからず、目下村道路委員に選ばれ居れり。

○蒲生村

◎蒲生村



蒲生村 川崎正藏氏

君は明治二年二月廿六日蒲生村に生る、明治廿五年鹿兒島縣尋常師範學校を卒業して直ちに蒲生小學校に奉職し訓導として校長として良教育家の名を馳せ大正二年に至り職を辭す此間實に二十一年、明治卅七年蒲生婦人會、大正二年蒲生實業青年會、大正十三年蒲生電氣利用組合創立の際に發起者として幹旋大に勉むる所あり、全四年郡會議員に當選、全年以来學務委員、村會議員、蒲生實業社理事、蒲生紙業組合理事、蒲生電氣利用組合理事として今日に至るまで其の任に在り。

蒲生村 神宮格志氏



君は明治十七年五月十二日蒲生村白尾に生る、明治三十九年宮崎縣立農學校を卒業し全十二年十二月始良郡吉松尋常高等小學校に教鞭を執り、全四十一年四月蒲生尋常高等學校に轉し、全四十二年六月蒲生村立實業補習學校に轉し、全四十三年五月辭任、其間明治四十年四月補充兵として熊本歩兵第二十三聯隊に入營七月退營、明治四十二年十二月農業專科正教員の免許状を受く、明治四十四年新富青年會副會長に推されて七年、區内消防組合組頭として十年、大正二年蒲生村衛生組合理事、大正七年新富區長各三年、大正十一年區民總代全十二年蒲生村農會總代に擧げらる、大正十四年村會議員に當選せり、君は造林、製炭、畜産業に興味を持ち斯業に勉め居れり。

蒲生村 藤裡竹吉氏

吉村正治

蒲生村 吉村正治氏

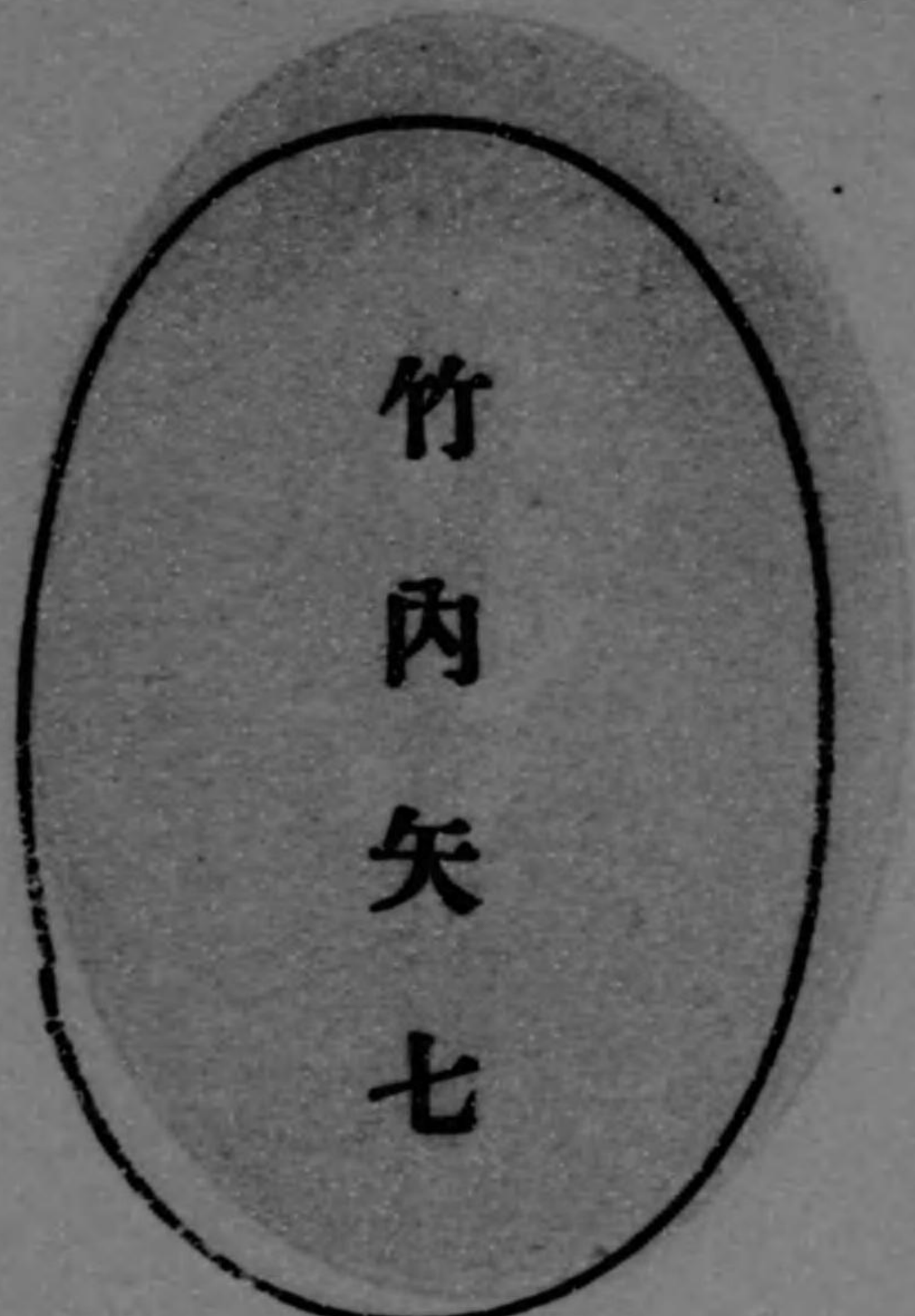
君は明治二十五年八月十日を以て蒲生村北に生る、蒲生村北區長、青年會副會長、農事小組合長、國勢調査員等を勤めしが目下蒲生村北衛生組合長、北青年會、北婦人會等の顧問となりて各方面に活動す、大正十四年村會議員に當選せり、因に君は精米業を營めり。

蒲生村 竹内矢七氏

竹内矢七

君は明治五年十二月一日蒲生村上久徳に生る、明治三十二年愛知縣獸醫學專門學校を卒業して歸村、獸醫業を開業せり、明治四十年始良郡獸醫會の幹事に推舉せられて今日に至るまで能く會務の整理に意をそそぎ一般の期待にそへり、大正十四年村會議員に當選せり。

◎蒲生村



◎蒲生村



蒲生村 谷口助之進氏

君は文久元年十二月十四日蒲生村上久徳に生る、明治十六年三月駒場農科大学を卒業して、翌十七年三月茨城縣局に任ぜられ、明治二十九年農商務省技手に轉任、更に明治三十三年鹿兒島縣技師に轉任し本縣の畜産界に残せし効績淺からず、明治三十八年愛知縣技師に轉任、明治四十二年岡山縣技師、明治四十三年群馬縣技師に轉任し至る所に於て畜産上に残せる効績多大なり大正五年退職歸省せり、君は在職中其の功績に依り從六位勳六等に叙せらる、目下蒲生士族共有社々長、村農會評議員、蒲生小學校父兄會評議員、蒲生在郷軍人會評議員、蒲生蠶農社幹事、蒲生電氣利用組合幹事、始良郡畜産組合議員、蒲生製紙組合理事等各方面に互りて努力し居れり、大正十年村會議員に擧げられ、大正十四年再選せらる。



蒲生村 長野助左衛門氏

君は明治六年十月二十九日蒲生村末久に生る、蒲生士族共有社常議員、村衛生組合理事各二回、末久區長三回及び國勢調査員等をなし目下蒲生製紙組合理事、末久下青年會顧問、消防組合副組長等を勤む、大正十四年村會議員に當選せり。



蒲生村 古川 篤氏

君は明治十二年九月十五日蒲生村漆に生る、明治四十三年蒲生村漆區長に擧げられ、次いで農事小組合長、衛生組合理事等各四回繼續して能く事業の成績を擧ぐ、尙ほ漆區民總代として前後十年、漆信用組合理事及び幹事に擧げられ、目下漆青年會顧問、漆學校後援會幹事に擧げられ、大正十四年村會議員に當選せり。

蒲生村 福岡作兵衛氏

明治五年五月九日蒲生村北に生る、明治二十六年徵兵として入營せしが翌二十七年日清戰役の開始せらるゝや之に参加し更らに明治三十七年日露兩國の戰端開かるゝや召集せられ出征滿州の野に轉戦其功に依り勳七等に叙せらる、歸村の後農事小組合長四回、北區長一回、其の他在郷軍人團評議員、蒲生村農會議員、國勢調査員、北青年會顧問、北婦人會顧問、寺總代及び監査役、灌漑用水係をなす、大正十四年村會議員に當選、蒲生村河川委員に選ばる。

福岡作兵衛

◎蒲生村

◎蒲生村



蒲生村 福元武二氏

君は明治二十二年三月十日蒲生村米丸に生る、農事小組合長として前後四回、煙草耕作組合長として前後九回、其の他米丸區長、米丸青年會長、蒲生校同窓會幹事等に選ばれる、大正十四年村會議員に當選し自治の爲めに多大の貢獻をなすつゝあり。

蒲生村 國生源五郎氏



君は慶應元年一月十七日蒲生村上久徳に生る、明治十二年小學校教員となり次いで明治十八年警察に職を奉じて全二十三年に至り辭任、明治三十一年村役場書記に、全四十一年蒲生村助役に推されて大正二年滿期退職、蒲生製紙組合長にあること十七年能く蒲生紙の聲價を向上せしめたり、其の他農事協調員に擧げられし事あり大正十四年村會議員に當選、河川及墓地整理委員に選ばれる、君は蠶業に熱心にして自ら之に當ると全時に大に之を奨励し居れり、君の長男は農學士にして目下福岡縣に技師として勤務せり。川 犬 瀬 迅

國生周内

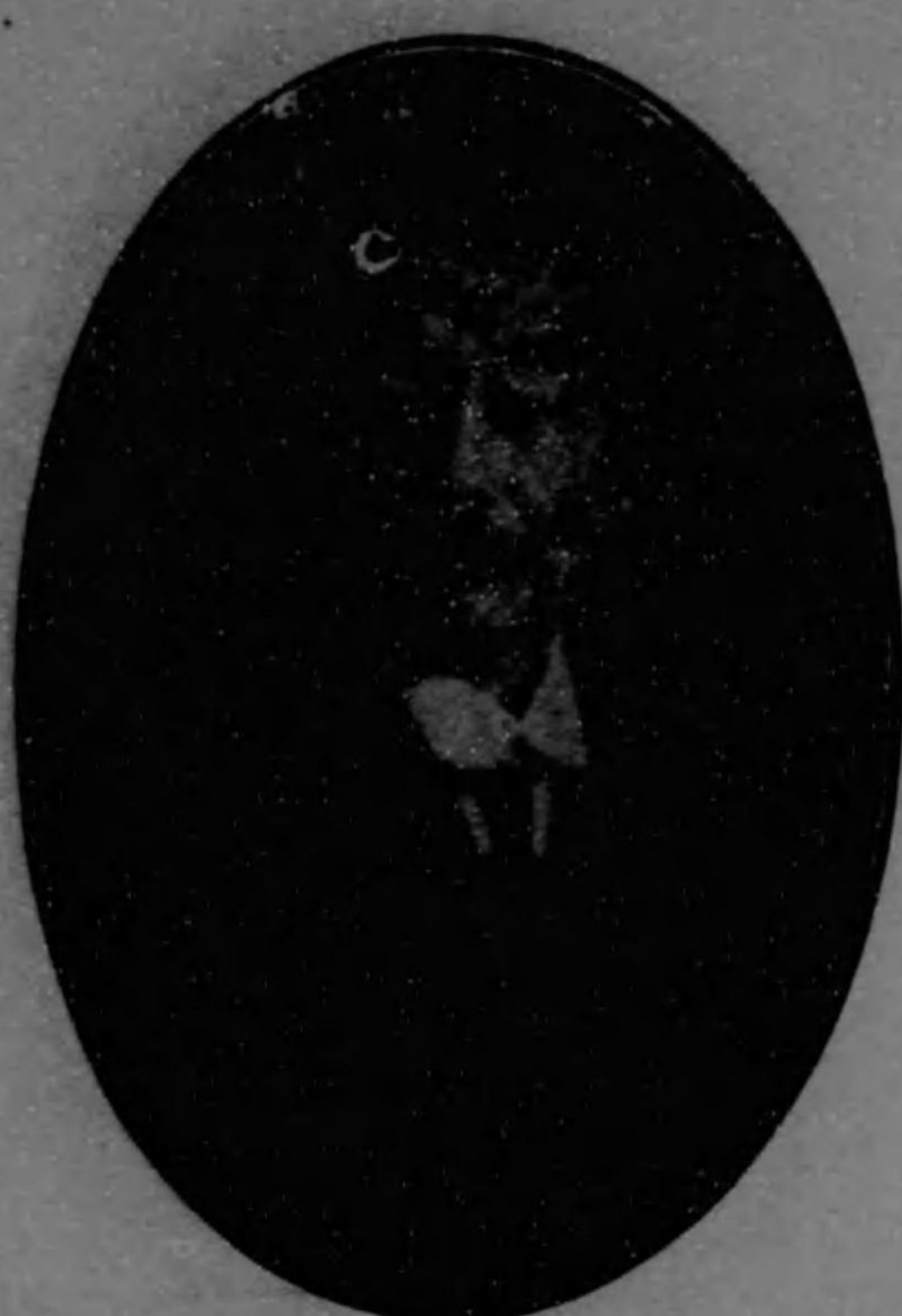
蒲生村 國生周内氏

君は明治十六年二月十五日蒲生村上久徳に生る、全三十五年縣立加治木中學校の第一回卒業生にして、全三十七年樟蔭事務局稅務屬となり專賣局書記として鳥取縣に轉任し其の後縣屬に轉じて金澤、石川、富山、福井、高知の各縣に奉職、大正三年辭任歸村専ら産業に従事す、大正七年蒲生士族共有社理事、大正十二年蒲生製紙組合理事長に推され大正十三年六月辭す、大正十三年村農會長、蒲生電氣利用組合理事、煙草耕作組合長に選ばれて現任せり、村會議員として大正六年の選舉以來引き續き今日に至るまで繼續當選、村學務及び土木委員に選ばれる。

蒲生村 酒匂珩氏

君は慶應元年正月二十五日蒲生村上久徳に生る、明治卅六年蒲生村助役に擧げられ、全三十八年蒲生村長に推選せらる、全年蒲生士族共有社長に推され、明治四十二年縣會議員に當選、縣政に參畫し全時に鹿兒島新聞社の常任幹事に擧げられ明治四十四年再び蒲生村長に擧げらる、斯くて村治に縣政に其の力を傾倒すること少らず、其の後君は蒲生蠶農社監事鹿兒島縣授産社常任委員、蒲生士族共有社監事として今尙ほ其の事業に參畫す、大正十年村會議員に選出され大正十四年再び當選し、村墓地整理及び村學務委員に選ばれる。

◎蒲生村



◎蒲生村

坂元佐一



君は明治十六年十月四日蒲生村白男に生る、君は明治三十六年徴兵として入營せしが翌三十七年日露戦役の開始せらるゝや従軍し戦功により勳七等に叙せられ功七級金鷄勳章を賜ふ歸村の後は村農會評議員、農事小組合長各七年、衛生組合部長二回、白男里區評議員、白男里青年會顧問、蒲生學校同窓會幹事、全校父兄會幹事、加治木武徳會支部常議員、白男里婦人會副會長、白男、久下、久徳三部落灌漑用水組合委員、國勢調査員等をなす、大正十四年村會議員に當選、村道路、河川、森林委員に選ばれる。

蒲生村 森田六左衛門氏

君は明治六年七月五日蒲生村漆に生る、小學校を卒へて農業に勵精し居たるが明治二十七年熊本歩兵第十三聯隊に入營し日清戦争に参加し尙ほ明治二十七年日露干戈を交ゆるや出征其功に依り勳七等に叙せらる、在郷軍人團長として十六年、農事小組合長一回、漆區長二回、區會議員三回を勤む、大正七年成清鑛業株式會社に入りて高峰金山用度係となりて大正十一年六月に至り全鐵山事業中止の爲め鑛區の監督をなし居れり、大正二年村會議員に當選、大正十四年再選され自治の爲め貢献しつゝあり。



山田村長 池田伊十郎氏

君は明治九年八月十八日山田村に生る、全村役場に入りて書記となり、後學務委員に擧げられ、更に全村助役に推薦されて能く村長を補佐し村政に努力せしが大正十二年九月全村長に推舉せらる。

山田村助役 池井貞房氏

君は明治二十五年三月三日始良郡山田村下名に生る、明治四十二年四月八日鹿兒島市立商業學校に入學、大正二年全校全科卒業、大正二年五月大阪山口銀行文書係を命ぜられ、全年九月全行を辭し直ちに歸郷して全年全月鹿兒島縣農工銀行書記となり全九年十二月退職、大正十年八月村書記となり全十二年九月退職し、全年十月山田村助役に推薦せられて今日に至るまで其事務に勤勉怠らず、大正十四年九月山田村青年團理事に推薦されたり。

◎山田村



◎山田村



山田村 橋山良知氏

君は明治二十年十月十五日山田村北山一七一番地に生る、畜産業に興味あり選ばれて始良郡畜産組合山田支所長として斯業の發達獎勵に努力すること少なからず全村の畜産事業の發達せるは恐らく君の力に俟つ所多かるべし、北區會議員、村農會評議員、北山青年會、及全婦人會の顧問たり、大正十四年村會議員に當選村自治の爲めに大に貢献しつゝあり。

山田村 西 安右衛門氏



君は山田村下名に呱呱の聲をあげたるが明治二十八年より四十二年迄村附屬員となり、明治二十九年村農會議員に選ばれ衛生組合長として十五年、農事小組長二十五五年、灌漑用水係二十五年、國勢調査員に擧げらる、尙ほ君は大正六年より下名光樂寺惣代、大正元年より下名常設議員、山田産業組合評議員として今日に至る、村會議員としては明治四十二年、大正六年、大正十四年の三回當選自治の爲め多大の力を致し居れり、君は副業として自動車及び客馬車の營業をなして交通に資せり。

外園 嘉左衛門



◎山田村

山田村 外園嘉左衛門氏

君は明治六年十一月四日山田村邊川に生る、小學校卒業後は専ら農業に従事し明治四十三年邊川共有地委員長に推されて現任遺憾なく其共有地を支配し、大正二年村會議員に當選し能く村自治の爲め盡す所あり、其の他大正六年村農會代議員に推選され衛生組合長、農事小組長、邊川區長、村衛生組合代議員、邊川婦人會顧問に擧げられ、大正十四年再び村會議員に當選村道路委員に選ばれる。

山田村 田代敬之丞氏

君は明治二年六月山田村一二〇二番地に生る、明治四十二年北山區會議員に推されて今日に至り、又た北山區長として前後四回之を勤め、尙ほ北山青年會及び婦人會の顧問たり、其の外村農會議員、山田産業組合理事、北山區書記として努力し、村會議員としては大正十年當選、大正十四年の改選に再選され村内各方面の事業に對して奮戦大に勉めつゝあり。

◎山田村



山田村 中野喜太郎氏

君は明治十一年十一月十五日山田村北山一四五〇番地に生る。明治三十年東京錦城中學を卒業して、明治三十四年熊本歩兵第二十三聯隊に入營、明治三十七八年日露の國交断絶して干戈相見ゆるに至り出征して功あり、功七級金鷲勳章並に勳八等白色桐葉章を下賜せらる、明治三十九年鹿兒島大林區署に入り、大正九年十一月森林主事を拜命、大正六年勳七等に叙せらる、辭任後歸村して山田産業組合理事となりて一期間を勤め目下北山區長、鹿兒島縣農會技手囑托、村衛生組合副組合長をなす、大正十四年村會議員に當選大に自治の爲め努力しつゝあり。

山田村 上堤喜吉氏



君は明治十二年十一月八日山田村木津志三四九番地に生る、農事小組合長を勤むるもの實に二十年、其の他木津志區長六年、目下山田産業組合評議員、山林組合理事、木津志共濟組合長、木津志安全組合長、村農會評議員等をなす、明治三十七八年の日露戰役に參加して功あり勳八等に叙し白色桐葉章を賜はる、大正十四年村會議員に當選せり、君は又た副業として水車業を營む。

山田村 大重市左衛門氏



君は慶應三年八月二十八日山田村上名に生る、農事の傍ら部落共有財産事務員として四ヶ年、衛生組合長として前後二回農事小組合長二回、學務委員二回、上名青年會長二ヶ年目下上名青年會及び婦人會の顧問、村農會代議員、消防組合副組長、山田漁業組合理事等をなし、大正十四年村會議員に當選し村納稅等級審査員に選ばれる。

山田村 大戸喜六氏



君は明治十一年一月山田村上名五〇一番地に生る、目下山田産業組合幹事、部落共有財産委員をなし居れるが、農會代議員、衛生組合理事、里瀬部落青年會顧問等に當りて能く各般の處理をなす、大正十四年村會議員に當選し村自治の爲めに多大の貢獻をなしつゝあり。

◎山田村

◎山田村

小川 半之丞

君は明治二年十一月山田村北山二一番戸に生る、君は北山區
會議員として十六年、部落學務委員として十一年、農事小組
合長として六年、米穀検査員として五年、村農會代議員とし
て三年、尙ほ明治三十七八年の日露戦役に參加して功あり勳
八等に叙し白色桐葉章を下賜せらる、大正十四年村會議員に
當選大に自治の爲め努力し居れり。

山田村 小川 半之丞氏

山田村 藏 敷 七左衛門氏

君は明治二年十月十五日山田村上名一九五四番地に生る、小
學校卒業後は専ら農事に精勵し農事小組合長に推薦せられて
二期能く其の事業を助成し、衛生組合理部長を勤むること前後
二回、上名區長、上名青年會、上名婦人會顧問をなす尙ほ山
田産業組合理事、上名部落學務員、村農會代議員は今に至る
まで之にたつさわる、大正十四年村會議員に當選せり。



山田村 山口 甚兵衛氏

君は明治八年一月十八日山田村北山三二五五番地に生る、農
事小組合長八年、村衛生組合理部長六年、北山區會議員六年、
北山青年會長、北山上青年會長各四年、北山區書記として大
正六年より全九年に至り、北山産業組合理事、國有林造林部
人夫長、兩度の國勢調査員、北山及び上北山青年會、全婦人
會の顧問等をなす、村會議員としては大正十年及び大正十四
年の二回當選せり。

山田村 松元 勇次郎氏

君は明治二年七月十二日山田村上名一四九五番地に生る、小
學校を卒業して農業に従事し居たるが後撰ばれて農事小組合
長となり、衛生組合理部長前後各二回、目下農會代議員、上
名青年會顧問、山田産業組合理事等を勉め居れり、兩度の國
勢調査員となり、大正十四年村會議員に當選村自治の爲め大
に努力しつゝあり。



◎山田村

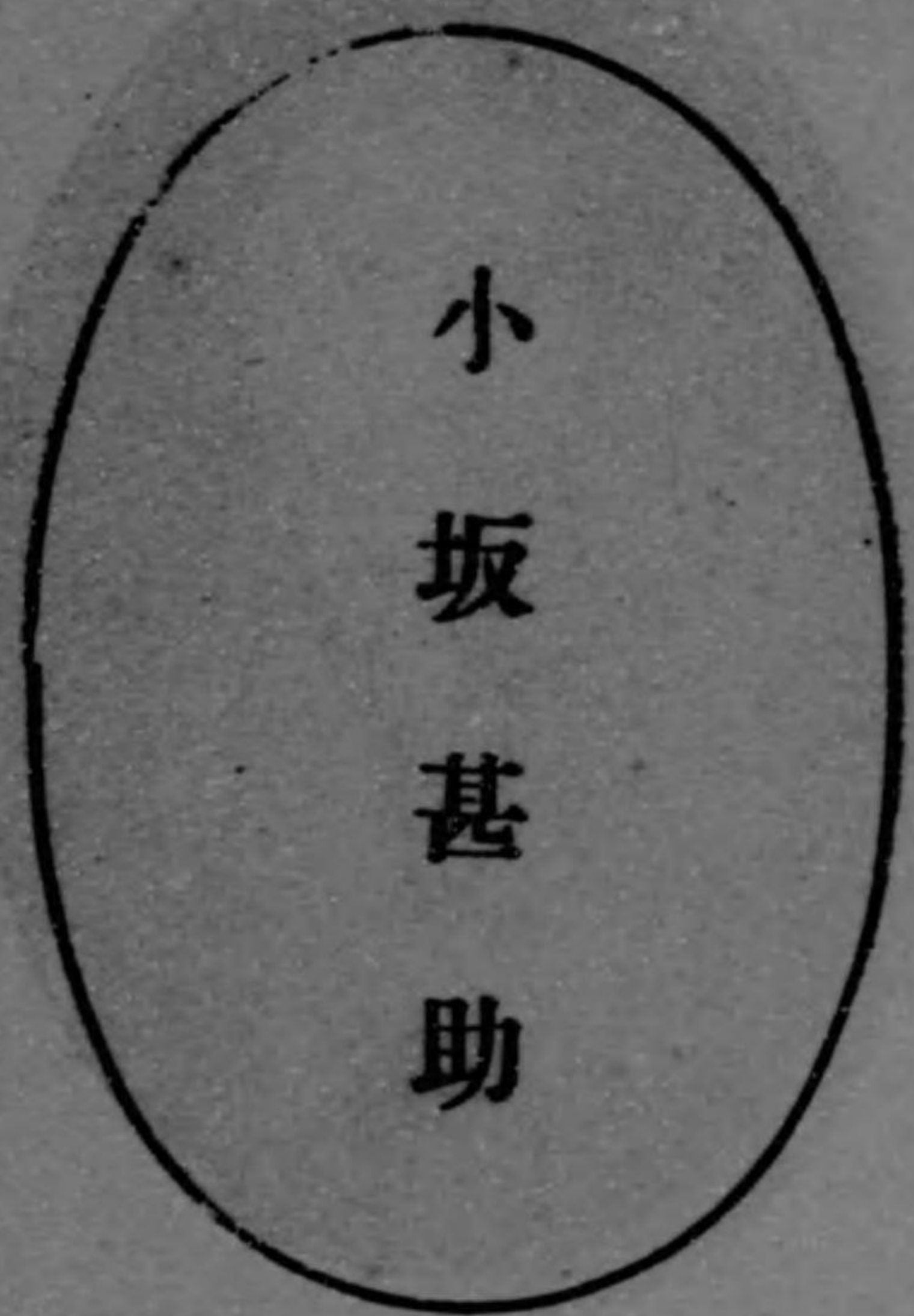
◎山田村



山田村 福岡孝左衛門氏

君は明治八年一月五日山田村木津志三三一九番地に生る、君は日清、日露兩戰役に參加して各地に轉戦能く其の任務をはたし其の功に依り勳七等に叙し青色桐葉章を授けらる、明治三十三年大阪府の警察に入り十三年間能く職務に屬み、辭任歸村後は農事小組合長、衛生組合長、國勢調査員、木津志區長等をなし、大正十四年の村會議員に當選自治の爲め多大の貢獻をなしつゝあり。

小坂甚助



山田村 小坂甚助氏

君は明治十六年十二月十二日山田村大山五二〇番地に生る、小學校を卒業して農事に屬精し三十八年徵兵として入營後直に戦地に赴き奮戦したる其功に依り勳八等に叙し白色桐葉章を下賜せらる、歸郷後は大山青年會長、農事小組合長、衛生組合長、大山區長、大山在郷軍人團長、山田村在郷軍人團評議員、大山區常設議員、三ヶ部落共有財産取締役、農會議員等に擧げられ、大正十四年村會議員に當選、君の長男は第一師範學校二部を卒業して目下育英事業に従事し居れり。

山田村 有村作右衛門氏

君は安政五年八月二十三日山田村木津志六十一番戸に生る、明治三十八年木津志區長となりて全四十年に至り、農事小組合長六年、衛生係として二十六年間、目下村農會代議員、木津志區會議員をなす、村會議員としては明治四十二年、大正六年及び大正十四年の三期當選せり。

山田村 城光寺藏助氏

君は明治九年十一月十八日山田村下名三〇三番地に生る、農事小組合長として前後四回就任し、村衛生組合部長二回、下名常議員十年、下名區長二回、村農會代議員十五年、下名青年會顧問等をなす、大正元年より田地灌漑用水組合長となり、山田産業組合評議員、國勢調査員等に擧げられ、大正十四年村會議員に當選す、君の長男は縣立工業學校を卒業して目下海軍省に勤務し居れり。

城光寺藏助



◎山田村

◎山田村

山田村 瀬戸山良敏氏

君は慶應三年十二月山田村に生る、明治二十一年度を負ふて東上し明治法律學校に學ぶ、全三十一年村會議員に當選以來引き續き今日に至りよく村治に貢献しつゝあり尙ほ君は郡會議員となり或は村長に擧げられ、全三十六年縣會議員に當選縣政に參畫せるもの二期に及ぶ君は政界のみならず經濟界に力を致し明治四十五年農工銀行監査役次いで取締役に選ばれる郷里にありては村聯合青年會長、村農會長に推され更らに縣農會、畜産組合聯合會の評議員に擧げらる、目下始良郡畜産組長として斯界の爲め努力しつゝあり。

瀬戸山良敏

溝邊村長 野間豊助氏

君は明治十年二月十九日西南役の當時同村崎森に颯々の聲を擧げし人、玉利小學校を卒え笈を負ふて加治木に學び、明治三十年歩兵第四十五聯隊に入營、同二十三年滿期除隊後歸郷せり、日露干戈を交ゆるに當り遠く滿洲の野に衛生部員として出征し、一等看護長に昇進勳七等青色桐葉章を下賜され歸郷せり。全三十九年溝邊村役場書記、全四十四年助役に擧げられ大正五年村長に當選せしが、村會議員としては大正二年全十四年に兩度當選、大正十五年再び村長に推され今日に及べり。

野間豊助

溝邊村助役 二見嘉吉氏

君は明治十八年四月十五日同村有川に生れし人にして、同村尋常高等小學校より、加治木補習學校に進み、熊本工兵第六大隊に入營、四十年十一月歸郷、四十四年同村役場書記となり稅務、勸業係、更に收入役となり、大正十一年助役に推擧せられ、大正十四年村會議員として選ばれたり。

二見嘉吉

◎溝邊村

岩元甚八

君は明治二年八月六日同村麓に生る、溝邊尋常高等小學校に學び、加治木補習校を卒業、同村役場書記となり、収入役に選ばれ三十五年八月辭せり、君は内外の徳望特に厚き人にして大正二年より今日迄で四期間を連續村會議員として村政に盡力し、嘗つては郡會議員、參事會員たりし事もありて、その功績や枚擧に遑あらず、就中畜産業には寢食を忘れる程にて始良郡畜産組會議員、溝邊畜産組會議員、畜産組合溝邊支所長等の任に在りし時の君の努力は大方の知る處なり。

溝邊村 岩元甚八氏

岩元篤正

君は明治十七年十一月十五日同村森崎に生れし人、溝邊小學校に學を了えて、三十五年海軍を志し佐世保海兵團に入團十一ヶ年護國の務めに過し大正三年歸郷せり、日露の役には功により勳七等瑞寶章を賜はり海軍機關兵曹に進級せり、砲術をよくし嘗つては砲術學校教官たりし事もあり、歸郷後は、青年會長、學務委員、衛生副組長として村開發に資し、大正九年には國勢調査員に擧げられ、大正十年より二期通しての村會議員として努力しつゝあり。

溝邊村 岩元篤正氏



溝邊村 岩元弘氏

君は明治二十年正月十二日同村竹子に生れ、小學校卒業後は農業にのみ専念しその發展に日も之れ足らざる有様にて屬み報効農事小組長、衛生部長、農會議員、地主惣代、共正會會計などを勤む大正十四年村會議員に當選せり。

岩元與右衛門

君は明治八年十月九日同村森崎に生れ玉利小學校に學びし人父祖に習ひて農事を營み、農事小組長、地主惣代、畜産組合世話係、教育組長、衛生部長等の榮譽職に推され、大正十四年村政に與るべく村會議員として當選せり。

溝邊村 岩元與右衛門氏

今吉與助

溝邊村 今吉與助氏
君は明治十八年十月四日同村麓に生れ、同村小學校に學び、三十八年近衛騎兵隊に入營し同四十年に歸休兵として除隊歸郷後は専ら農事に勵めり。青年會長、農事小組合長等を経て大正十年同十四年再度の改選に村會議員として選ばれ、尙ほ青年團相談役、婦人會顧問たり。

溝邊村 原田貞夫氏

君は明治十七年八月七日同村竹子に生る、小學校を卒業後同村役場に書記として入り、大正二年辭して溝邊信用組合理事となり、青年會長としては青年諸氏を奮起せしめ、小組合長としては郡より表彰される迄の優良なる小組合たらしめる等與つて力ありき、尙ほ共正會書記より、副會長、國勢調査員、衛生組合副組合長となり、大正十四年村會議員に當選し、學務委員、農會議員として村利を計りつゝあり。

外山源七

溝邊村 外山源七氏
君は慶應三年七月廿二日同村麓に生る、溝邊小學校を卒えて明治三十年六月京都府巡査を志して拜命したるも、事情ありて三十三年九月辭して歸村せり、村農會長たる事四ヶ年、明治四十二年六月米穀検査員となり、大正四年十月勸業委員を囑託され、溝邊村衛生組合長、農會評議員等に擧げらる老年なるも尙壯者を凌ぐの意氣ありて大正十四年村會議員に當選せり。

溝邊村 園田鎮氏

君は明治十五年十一月十二日同村麓に生る、同村尋常高等小學校を卒え、熊本輜重兵第六大隊に入營し、日露戰役には從軍し、勳八等白色桐葉章一時金貳百圓を下賜され、凱旋と同時に歸郷せり、大正八年より三ヶ年同村役場書記、大正十年大正十四年兩度の改選期に當選村會議員として村政に盡しつゝあり、大正九年國勢調査員に擧げられ、大正十二年七月村農會副長となり次いで十三年には村農會長に推さる、尙ほ溝邊信用組合理事たり。

園田鎮



溝邊村 上原四郎左衛門氏

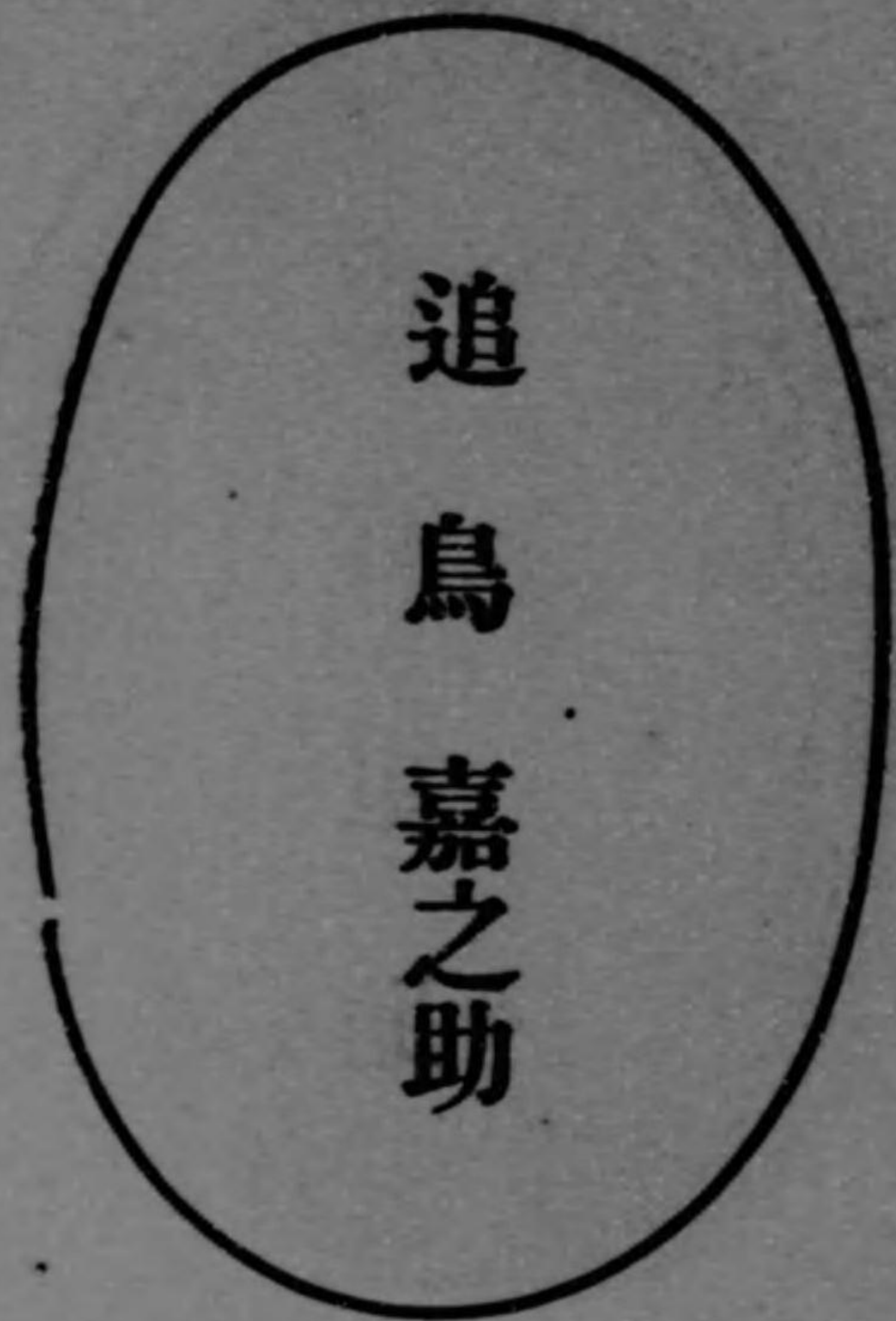
君は明治元年二月十日同村麓に生る、溝邊尋常高等小學校を卒え、明治二十一年熊本歩兵第二十三聯隊に入營、同二十四年滿期歸郷せり、溝邊村役場書記よりして、收入役に就任したり、君は日清、日露兩役に出征し、勳七等青色桐葉章、一時金參百圓を下賜され、陸軍歩兵軍曹に昇進せり、また教育に意を注ぐの人にして、學務委員、教育組合長、公正會長、衛生組合長等に選ばれ、明治三十九年には村長に就任し一期間在任せり、村會議員としても、明治三十九年、大正十年、大正十四年の三度の改選に當選し今日に及べり。

溝邊村 大野榮次氏



君は明治十七年十一月十五日加治木町宇日木山に生れ、後溝邊村崎森に轉籍せる人、中野小學校に學び三十七年熊本歩兵二十三聯隊に入營日露の役に出征し、功に依り勳八等白色桐葉章を下賜されたり、多年青年會長、農事小組長、衛生部長、畜産組合世話人などに推されて勞を惜しまず盡力し、大正十四年四月選ばれて村會議員となる。

溝邊村 追鳥嘉之助氏



君は明治十五年二月五日同村三纏に生れ、同地小學校卒業後は父祖に従ひて農事に餘念なき人にして、青年會長、衛生部長、區長、農會評議員、溝邊信用組合理事、煙草耕作組合總代、同情會長などの要職にたづさはり、大正六年、大正十四の兩度改選に當選し村會議員たり。

溝邊村 前田重雄氏



君は明治二十二年十二月五日同村三纏に生る、同村尋常高等小學校卒業後は一意父祖の業を繼ぎて、農業にいそしみ、修養を積み來りたり、ために青年會長、聯合青年會長、農事小組長、教育組合長、衛生組合長、婦人會長、婦人會相談役、大字自治會長、學務委員、畜産組合評議員などの要職に在り、大正九年國勢調査員に擧げられたり、大正十四年四月選ばれて村會議員となる。

溝邊村 松田 矢七氏

君は明治十四年六月一日同村有川に生れ、溝邊尋常高等小學校を卒え、父祖の業を繼いで農事に勵みつゝあり、青年會長農事小組合長、衛生部長、農會評議員、溝邊信用組合評定員等の任を勤め、特に婦人會には意を用ひ相談役にして同時に青年會の顧問たり、大正十年、大正十四年の村會議員改選に兩度共に當選し、又同村衛生組合副組合長をもなす。

溝邊村 重富 重助氏

君は明治十五年十一月三日同村有川に生れ、性來温順至誠の人、溝邊尋常高等小學校に學び、加治木補習學校を卒え、進みて鹿兒島博約義塾に學び、教員免狀を受けて三十五年小學校教員となり、一意教育に心を注ぎつゝありしも、日露の役起りしたため、補充兵として出征せしかど、未だ終局を見るに至らずして病を得したため、恨を呑みて除隊歸郷するの止むなきに至る、明治三十九年同村役場書記として大正九年まで十年間勉め、大正十年及び大正十四年兩度の村會議員改選にも當選す、又畜産組合支所長、溝邊信用組合長として現任。

重富 重助

溝邊村 末光 定司氏

君は明治二十一年二月八日同村麓に生る、溝邊尋常高等小學校を卒え、陸軍現役志願兵として熊本歩兵第二十三聯隊に入營、滿十ヶ年を兵營生活に送り、歸郷後は専ら農業を勵み、青年會長として青年を指導し、在郷軍人分會班長として、農事小組合長として、教育組合長として、日夜寢食を忘れ克くその大任を致し、大正九年國勢調査員に擧げられ、大正十年及大正十四年の村會議員改選期には兩度共に當選せり。

○横川村

川崎武志

横川村長 川崎武志氏

君は明治十年六月廿四日横川村に生る、全村助役として村治に與かるもの二期、大正十一年全村長に推選せられ村治の爲に多大の力を致しつゝあり。

横川村助役 指俣武熊氏

指俣武熊

君は明治十一年六月二十三日横川村に生る、村役場に入り書記となり或は學務委員となり、大正七年全村助役に擧げられしより今日に至るまでよく村長を補佐して村治に努め居れり。



横川村 石野田 秀氏

君は明治二十六年十二月三十日横川村中野に生れ、横川尋常小學校に學びて縣立鹿屋農學校獸醫科に入り同校卒業後現住地に獸醫業を開業す、大正十二年西薩殖産銀行横川代理店主任となり大正十四年村會議員に當選せり。

横川村 石野田 清氏



○横川村

君は同村字下野に生れ、農業にいそしみ熱心なる奮闘家なり、青年會長、區長、農事小組合長、衛生部長、婦人會顧問等に推され、殊に煙草耕作には最も意を注げりために煙草耕作組合總代となる、農會議員、國勢調査員等を経て大正十四年選ばれて村會議員となる。

◎横川村



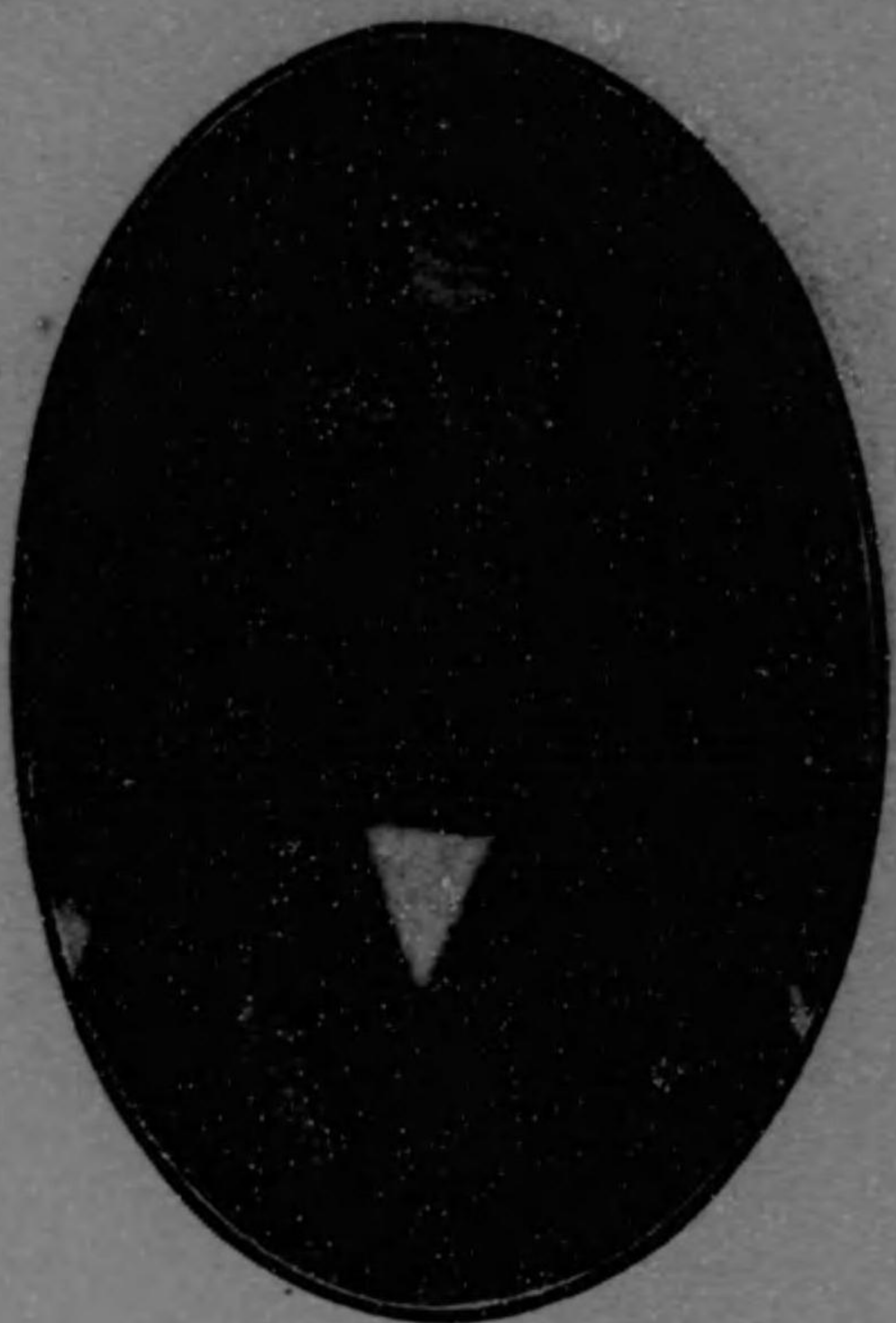
横川村 市來虎千代氏

君は明治五年横川村上野に生れ、小學校卒業後は、父祖に従ひて農事に屬み報効農事小組合長、村農會議員、上野衛生組合長、國勢調査員に擧げられ大正二年村會議員に當選し十四年再選せらる。

横川村 池田善兵衛氏



君は明治二十七年八月二十日横川村中野に生る、四十年縣立加治木中學校に入り四十五年同校を卒業し、大正三年一年志願兵として熊本歩兵第二十三聯隊に入營せしが病を得て歸郷の止むなきに至り歩兵軍曹に昇進せり、實業青年會々長、公設消防組小頭、在郷軍人分會副長、在郷軍人分會會長、公設消防組々頭、報効會長、國勢調査委員、横川村實業青年會相談役顧問、全村義勇消防組顧問たり、大正十二年君が長たる在郷軍人横川分會は模範分會として帝國在郷軍人會長川村景明及第六師團長袖原完藏氏より表彰状を授與されたり、大正十四年村會議員に當選せるが君の持つ抱負は少壯議員として囑目さる。



横川村 市山藤右衛門氏

君は明治十六年六月十五日横川村上野次村家に生れしが、十四年市山家を相続す、三十五年志願兵として佐世保海兵團に入團す、日露戰爭には參加して勳八等瑞寶章を賜はり特別善行證を附與せらる、四十三年一等機關兵として滿期歸郷し農業に従事、報効農事小組合長、衛生部長、國勢調査員、柿ノ木報徳會長、安良小學校後援會委員、村農會議員等に擧げられ大正十四年村會議員に當選す。

横川村 羽田彦次氏

君は同村字下野に生れ、小學卒業後は父祖の業を繼いで農事に屬み來りし人、青年會長、區長、報効農事小組合長、國勢調査員などに擧げられ、大正十年、大正十四年兩度の村會議員改選期に於て當選せし少壯議員にして、思慮深遠にして英明の士なれば將來を大いに注目さる現在衛生組長たり。

羽田彦次

◎横川村

◎横川村



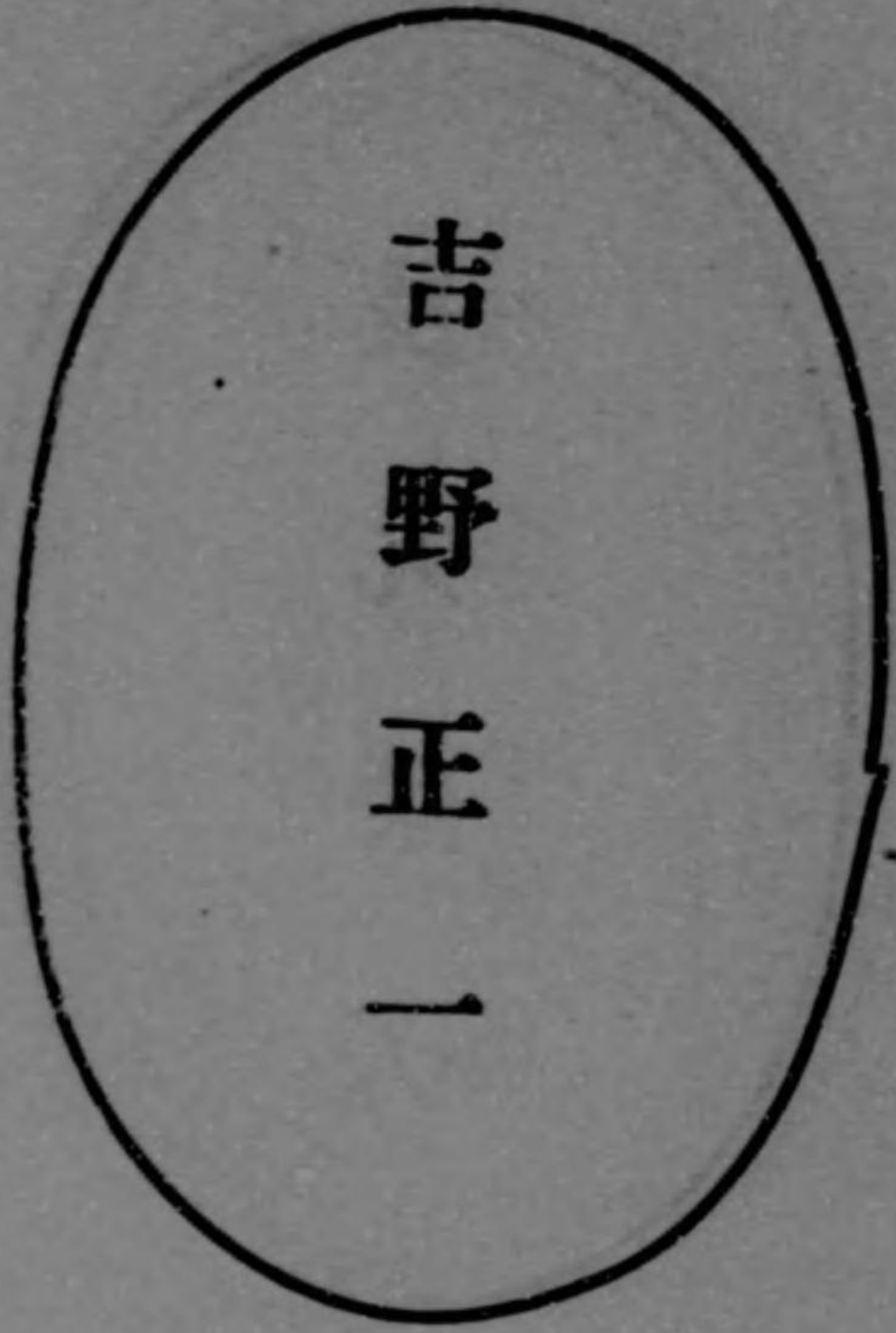
横川村 早淵金之助氏

君は明治九年十二月九日横川村上野に生る、山ヶ野小學校を卒え二十九年鹿兒島歩兵第四十五聯隊に入營し三十二年上等兵に進級満期歸郷せり、全年横川村書記となりしが日露の役に召集され歩兵第二十三聯隊に編入され出征殊勳ありて功七級金鷄勳章並勳七等青色桐葉章を下賜され歩兵軍曹に進級せり、横川衛生組合長、山ヶ野小學校後援會委員等に擧げられ大正十年、全十四年の兩度村會議員に當選、學務委員、土地整理委員として努めつゝあり。



横川村 時任甚七氏

君は慶應三年十一月二十一日國分町海江田家に生れしが、明治十八年時任家に入り養子となる、國分小學校を卒え國分小學校雇教員として奉職したるが十九年辭して京都に出で松岡塾に學び、二十一年京都巡査を拜命したるも全年辭して歸國し鹿兒島稅務署課部に勤務し二十三年宮崎に轉じ二十五年辭して歸り横川村に轉籍し米穀商を營む、大正九年横川運輸株式會社々長に就任し大正十年全十四年の兩度村會議員に當選し、土地整理委員、貸付整理委員たり。



横川村 吉野正一氏

君は明治十七年一月一日横川村上野に生る、山ヶ野小學校を卒え加治木中學校に入り三十八年同校を卒業し、上京して明治大學に學び四十年同校を卒業歸郷し大正三年山ヶ野郵便局長に任命さる、大正十四年村會議員に當選村治の向上を計りつゝあり。



横川村 田口敏氏

君は明治二十年五月四日横川村上野に生る、横川小學校卒業後熊本縣立球摩農學校に學び四十二年同校を卒業し福山小學校に奉職せしが四十三年辭して、農業に従事し梨園を經營し品質の向上を計りつゝあり、大正十四年村會議員に當選し學務委員として教育普及に熱心なり。

◎横川村

奈良木 正助

横川村 奈良木正助氏
君は明治十一年十月二十日横川村宇中野に生る、横川尋常高等小學校を卒業し三十一年横川村役場書記となり三十九年辭す、明治三十九年全四十二年、大正二年、全六年、全十年、全十四年の六期に亘り村會議員として村治に努め、郡畜産組合代議員にして林野整理委員たり。

横川村 長丸 榮次氏

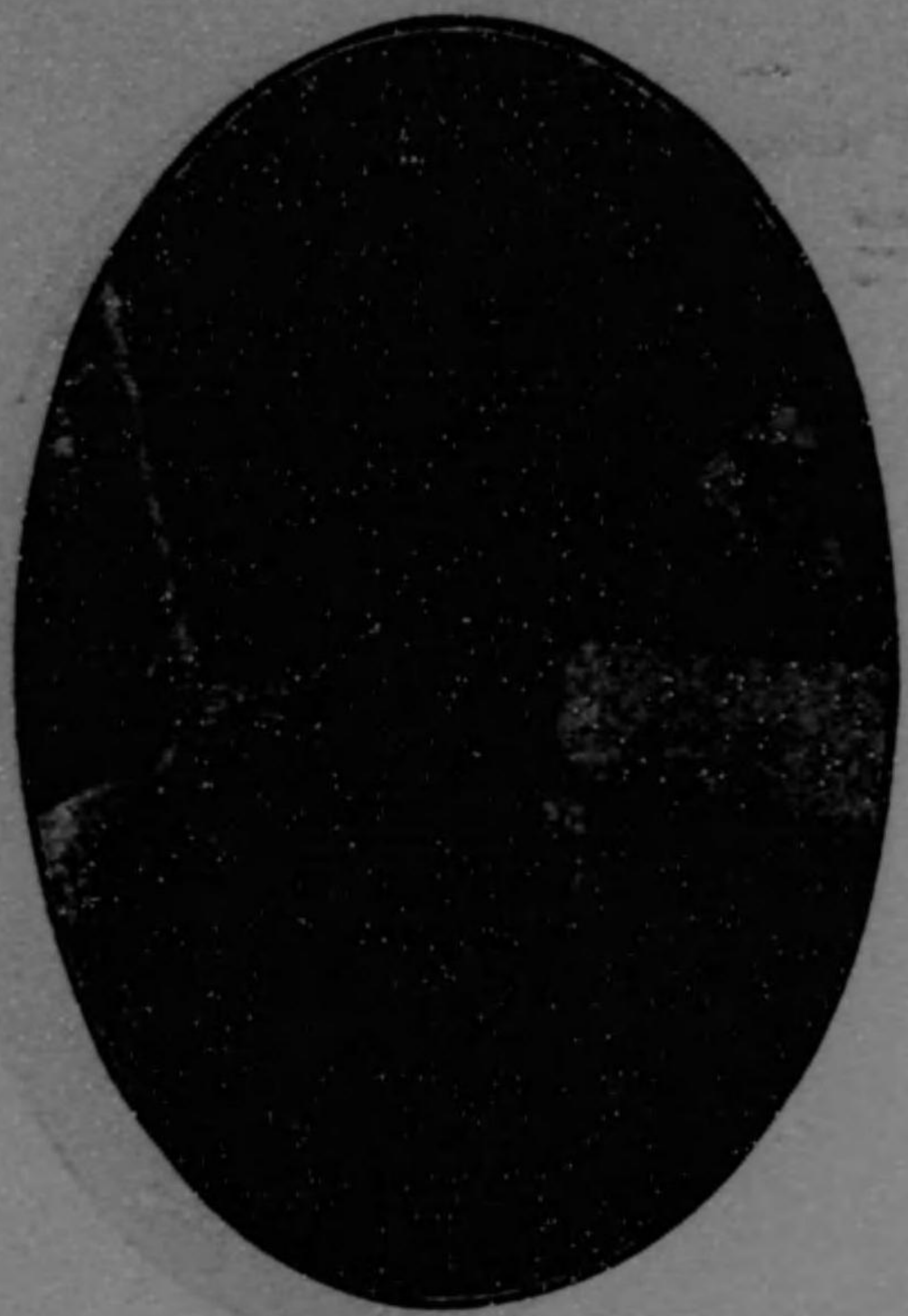
長丸 榮次
君は明治十八年二月一日横川村上野に生る、小學校卒業後は専心農業に屬み、古城青年會長、報効農事小組合長、村農會議員等に擧げられ大正十年村會議員に當選十四年再選され山林委員たり。

横川村 中村傳之助氏

中村 傳之助
君は明治四年三月二十日横川村中野に生れ、幼年の頃より農業に屬み報効農事小組合長、村附屬員、衛生部長、三村牛馬商取締人、木場、植村耕地整理委員に擧げられ大正十四年村會議員に當選せり。

横川村 上田庄三郎氏

上田 庄三郎
君は明治四年三月十五日横川村上野山下家に生れしが、三十八年上田家に入りて全家を相続す、横川村衛生組合長、報効農事小組合長及附屬員、自治會議員等に擧げられ大正十四年村會議員に當選す。





横川村 山本 榮 藏氏

君は明治七年三月十五日横川村上野に生れ、横川小學校を卒業し、
え家業を繼いで農業を勵み、報効農事小組合長、横川村書記
島津嶺山精練所監督等に歴任し大正十四年村會議員に當選せ
り。



横川村 佐野 卯之助氏

君は慶應三年八月十一日横川村上野に生れ、小學校卒業後は
農業傍ら鑛業を營ひ、鑛業同業組合委員をなす、大正二年、
全六年、全十年、全十四年の四期村會議員に當選し、國勢調
査員に擧げられ、村財政整理委員、土地整理委員、學務委員
に現任せり。

上 田 郁

栗野村長 上 田 郁氏

君は明治十一年八月十九日栗野村に生る、村役場書記、村農
會長、收入役、村會議員として各方面に向ひ大に努力したる
が大正九年全村長に擧げらる。

姫 木 清 次

栗野村助役 姫 木 清 次氏

君は明治十七年五月四日栗野村に生る、曾つて教鞭を取り小
學校訓導及び校長となりし事ありしが辭して全村役場書記と
なり、大正十年全村助役に推薦せらる。

◎栗野村

馬場迫 時雄

栗野村 馬場迫時雄氏

君は明治三十二年八月二日栗野村末永に生れ、栗野小學校卒業後縣立鹿屋農學校に入り大正六年全校を卒業、全十年大阪府衛生課に勤務、全十一年辭し郷里に歸る、末永青年會長、上場小學校後援會長等に擧げられ大正十四年村會議員に當選し少壯議員として將來を囑目さる。

老谷 三之助

栗野村 老谷三之助氏

君は明治十三年九月廿二日栗野村木場に生れ、老谷小學校に學び後農業を管ひ老谷青年會長、農事小組長、老谷區長、農會議員、衛生代議員、郡畜産組合代議員、北部馬牛商取締役、霧島神宮警防組合長、眞光寺門徒總代等に歷任し大正十四年村會議員に當選し専ら村政に努力せり。

假屋園 袈裟吉

栗野村 假屋園 袈裟吉氏

君は明治九年六月廿六日栗野村北方に生れ、栗野村小學校卒業後明治廿九年工兵第六大隊に入營、全三十二年滿期除隊、全三十四年本縣巡查拜命、加世田、鹿兒島署等に勤務し全三十七八年日露戰役に出征平和克復と同時に除隊功に依り功七級金鷄勳章七等青色桐葉章下賜さる、再び巡查を拜命し、全四十四年一月職を辭し郷里に於て農業を管ひ在郷軍人分會長、栗野村書記、兵事係、收入役、加治木區裁判所栗野出張所書記、北方青年會長、區長、衛生組長、大正十四年國勢調査員となり大正十年村會議員に當選以來引續き現在に至り學務委員、土木委員に選ばれる、尙ほ栗野村畜産組合長婦人會長自治研究會長等をもなせり。

栗野村 龜澤新助氏

君は明治十八年四月十六日栗野村木場に生れ、栗野小學校卒業後明治三十九年工兵六大隊に入營し除隊歸村農業を管ひ、永谷青年會長、農事小組長、永谷區長、在郷軍人會理事、大正九年及び大正十四年國勢調査員に擧げられ、大正十四年村會議員に當選し専ら村政に努力す。

龜澤 新助

◎栗野村

◎栗野村



栗野村 田島權藏氏

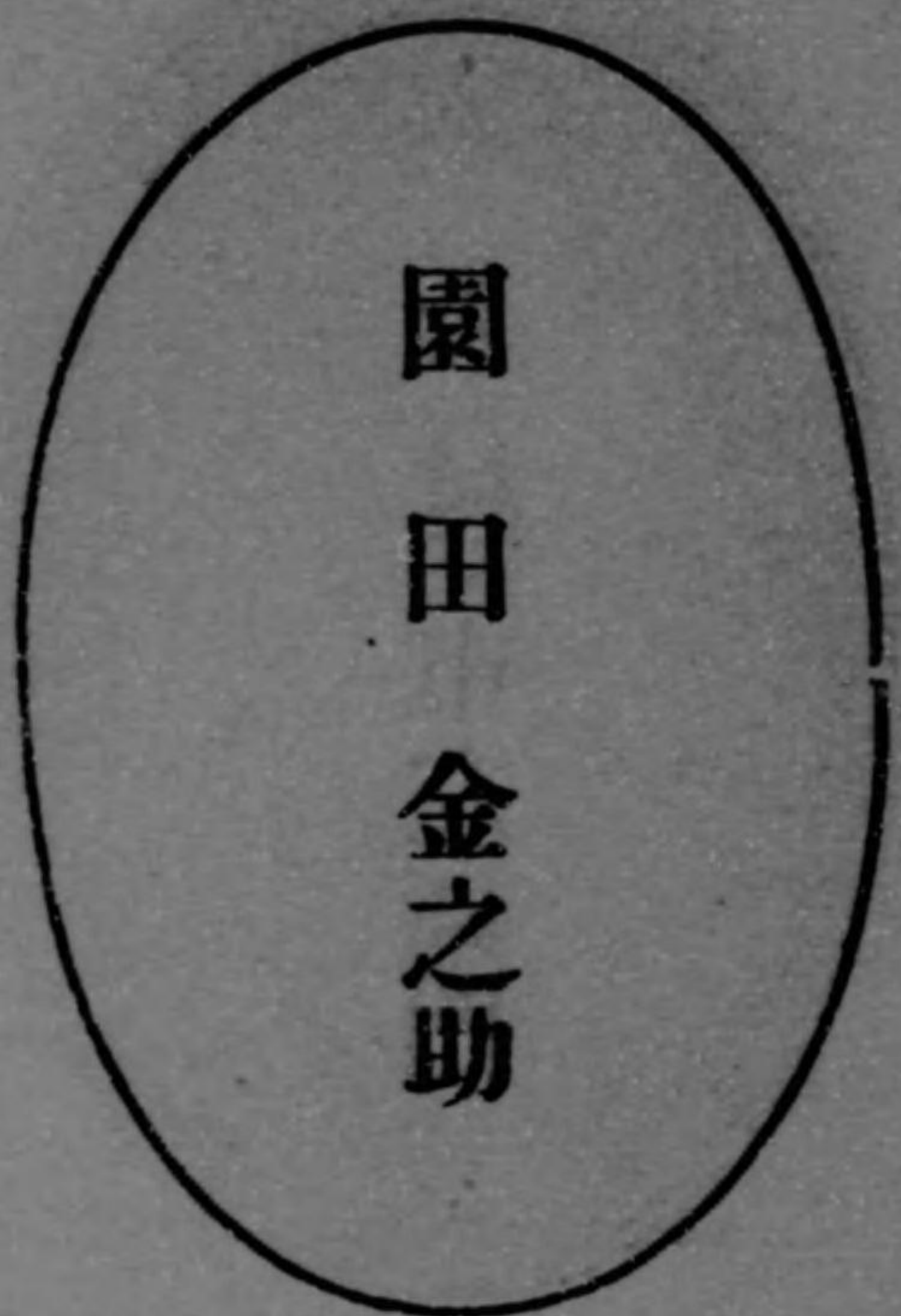
君は明治二十三年四月廿八日置郡阿多村に生れ、阿多小學校卒業後鹿兒島大林區署に奉職し明治四十年辭し全年朝鮮京城鐵道局に勤務、全四十五年辭して歸郷、大正元年栗野村木塙に移住し材木商兼吳服太物商を經營す、君は文筆に長じ雄辯家として知られ營業調査委員、會社重役等に任ず、大正十年村會議員に當選し専ら村政に努力せり、尙ほ學務委員、土木委員、出納検査委員等に選ばる。

栗野村 田代春美氏



君は明治卅年十二月廿八日栗野村北方に生れ、村小學校卒業後縣立志布志中學校を卒業し更に東都に遊學し大正六年郷里に歸り家業に従事す、大正十四年國勢調査員、南薩銀行栗野代理店主任となり、大正十四年村會議員に當選し自治の爲め多大の貢獻をなしたあり。

栗野村 園田金之助氏



君は明治十年六月三日栗野村稻葉ヶ崎に生れ稻葉小學校卒業後父祖の業を繼ぎ農業を營む、青年會長、農事小組合長、區長、區會議員、全議長、農會代議員となり大正十年村會議員に當選以來引き續き現任、土木委員、學務委員に選ばる、尙ほ稻葉ヶ崎小組合は日本農會及び縣農會より表彰されし事あり、是れ皆君の努力に待つ所多し。

栗野村 永田幸一氏



君は明治十六年十二月十六日横川村猿渡家に生れ横川小學校卒業後明治三十八年栗野村永田家を相続し、日露戰役に補充兵として出征し平和克復と共に歸村、農業に従事す、幸田區長、錦織寺門徒總代となり大正十四年國勢調査員に擧げられ大正十四年村會議員に當選し目下村政に努力し居れり。

◎栗野村

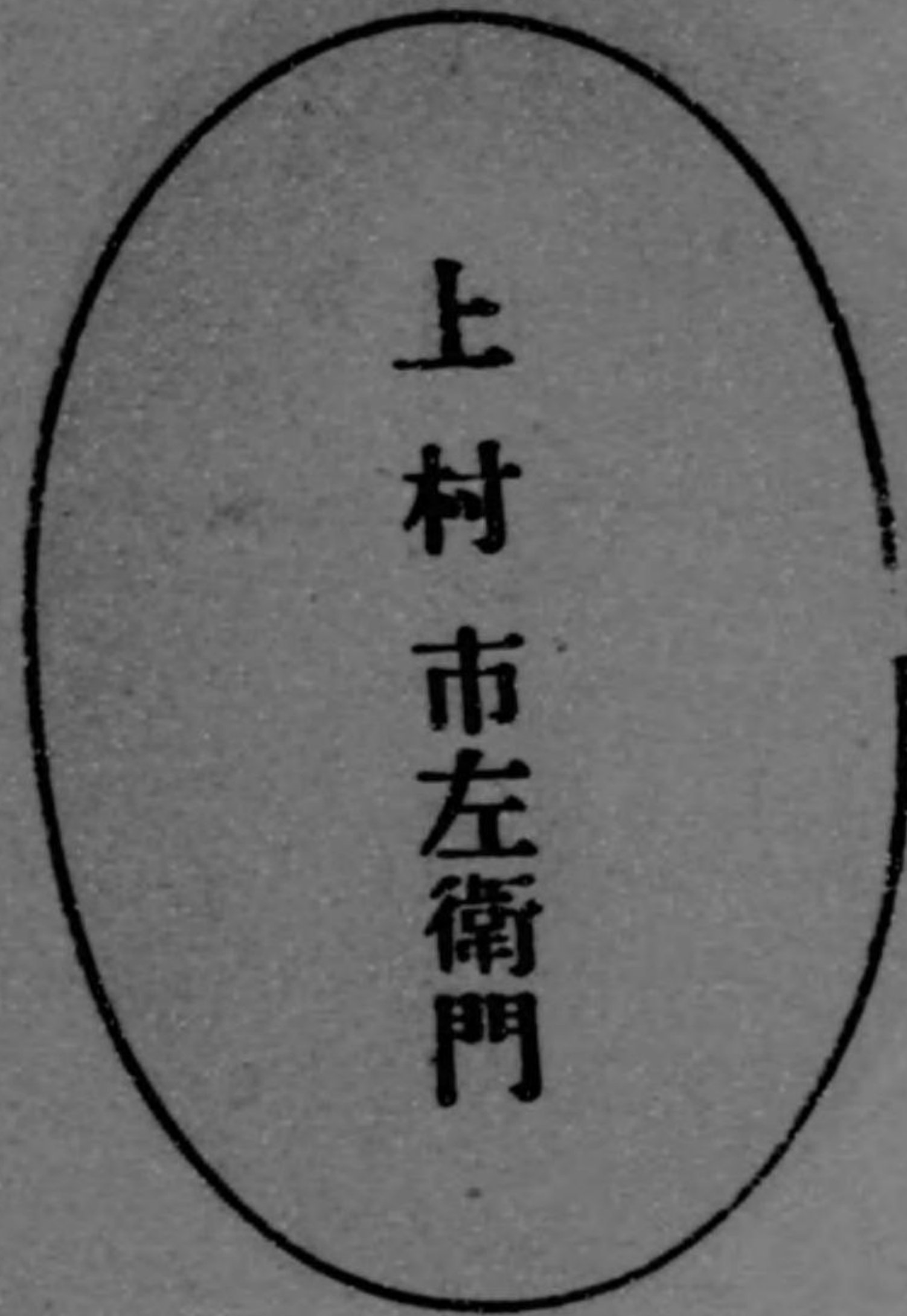
◎栗野村



栗野村 中水流正吉氏

君は明治十三年五月三日栗野村田尾原に生れ、栗野小學校卒業後農業を営み田尾原青年會長、農事小組長、田尾原區農會代議員、區會議員、國勢調査員等を歴任し大正十四年村會議員に當選目下村政に努力せるが尙ほ衛生組合代議員をもち居れり。

上村市左衛門



栗野村 上村市左衛門氏

君は明治十九年一月十日栗野村に生れ、栗野小學校卒業後明治卅九年歩兵第二十三聯隊に入營し三ヶ月にして除隊歸郷す青年會評議員、農事小組長、區會議員、衛生副組合長となり大正十四年村會議員に當選能く村政に努力しつゝあり。

栗野村 前田嘉左衛門氏



君は明治十四年十一月廿一日栗野村に生れ、植村小學校卒業後農業を営み報効農事小組長、區會議員、農會代議員、區長等を歴任し大正十四年村會議員に當選し専ら村政に努力す。

栗野村 藤垣矢熊氏



君は明治廿年九月十八日栗野村末永に生れ、栗野小學校卒業後父祖の業を繼ぎ農業を営む、末永報効農事小組長となり縣立農事試験場製茶講習を受け郡内各村に茶業教師となる、大正九年及び十四年國勢調査員に擧げられ、大正十四年村會議員に當選し目下村政に努力し居れり。

◎栗野村



栗野村 福元善太郎氏

君は明治三年四月八日川邊郡川邊町に生れ全時に父母と共に現住地に轉籍し父祖の業を繼ぎ農業を營ひ、農事小組合長、衛生組合部長、區會議員、錦織寺門徒總代、郡產馬組合議員を経て大正十四年村會議員に當選し専ら村政に努力す、村民の信望厚し。

栗野村 郡山三治氏



君は文久元年十二月十九日栗野村木場に生れ父祖の業を繼ぎ農業を營ひ明治三十七年村會議員に當選するや引繼ぎ當選村政に努力す、村民の信望厚く栗野村木場共有地常任理事として現在に至る。

栗野村 天辰喜之助氏

明治十年十月二日加治木町太田山家に生れたる君は、明治四十年天辰家の養子となる、加治木小學校卒業後明治三十三年大阪府巡查拜命、全三十七年辭して歸郷同時に現住地に移轉し材木商を營ひ、村公設消防組頭となり大正十年村會議員に當選以來引繼ぎ現在に至る尙ほ土木委員に擧げられ能く村政に努力しつゝあり。

栗野村 綾織武助氏

君は明治十二年二月三日栗野村木場に生れ栗野小學校卒業後明治三十二年歩兵第二十三聯隊に入營し、全三十五年滿期、全卅七年日露戰役に出征勳八等白色桐葉章一時金貳百圓を下賜さる、歩兵伍長に進級して歸郷、のち栗野村書記、農事小組合長となり大正十年村會議員に當選し以來引き續き當選村政に努力せるが尙ほ君は農會議員をも兼ね任ぜり。

天辰喜之助

綾織武助

◎栗野村

木佐貫 幸

君は明治二十七年九月廿四日栗野村北方に生れ、大正三年鹿兒島縣立鹿屋農學校を卒業し一年志願兵として全年熊本騎兵第六大隊へ入營し大正五年正八位に叙し三等獸醫に任じ全時に滿期除隊となる、郷里に於て獸醫を開業せり、大正十年村會議員に當選以來引き續き當選能く村政に努力せり、尙ほ君は青年副會長、在郷軍人分會長、土木委員等をなし居れり。

栗野村 木佐貫 幸氏

中村重治

吉松村長 中村重治氏

君は明治九年八月廿四日吉松村川西に生る、幼にして柘城及び鹿城の私塾に學び後郷里に於て教鞭を執ること前後八年、明治三十八年村會議員に擧げられ、全三十九年日露戰役の功に依りて勳八等白色桐葉章並に金三百圓を下賜せらる、全四十四年郡會議員、大正二年全村助役に擧げらる、全六年村長に當選以來引き續き現在に至りよく村治の爲め揮身の努力をなす、尙ほ君は大正十二年吉松尋常高等小學校の校舍改築をなし、更に全十四年には講堂の新築を了へたり。

吉松村助役 和田守信氏

君は明治四年十二月廿五日を以て吉松村に生る、村役場に入りて書記となり執務するもの多年、後收入役に擧げられしが大正十年六月全村助役に推薦せられ、よく村長を補佐して自治の發展に勉めつゝあり。

和田守信

◎吉松村

◎吉松村

指宿哲二

君は明治二十二年四月二日吉松村川添前田篤二氏の次男として生れしが大正四年指宿家の養子となり其家を継げり、農事小組合長とし四期、衛生組合長として四期其の任に在り、大正二年古川耕地整理委員として十八町の工事を完成し、講堂建築監督として百七十一坪工費一万七千圓の工事を竣成し大正十二年土地調査員に擧げられ部落有の統一を圖り全十三年に至りて完了す、尙ほ産馬改良の必要を感しサラブレット系の種牡馬「公園」を飼育するもの五年に亙り其の目的の達成に努む、大正十四年選ばれて村會議員となり、自治の發展に向つて全力を注げり。

吉松村 指宿哲二氏

吉松村 時任正氏

時任正

君は明治十一年十一月十五日吉松村麓に生る、小學校を卒へて直ちに笈を鹿兒島に負ひ博約義塾に學びしが業了へて歸村明治三十二年歩兵第二十三聯隊に入營し滿期除隊後は郷里にありて産馬組合支所長として八年、農會長として六年、其の他郡産馬組合議員、報効農事小組合長等をなす、曩に日露戦役の起るや直ちに應召、遼陽、沙河の戦闘に参加し右肩に貫通銃創を負ふて廢兵となり歸村せしが戦功に依り勳八等に叙し青色桐葉章を下賜せらる、尙ほ君は其の小組合長の殿座績佳良の故を以て村より表彰されし事あり、大正十四年村會議員に當選自治の爲めに大に貢献しつゝあり。

◎吉松村

大重守助

吉松村 大重守助氏

君は明治十七年十二月十九日吉松村に生る、高等小學校を卒業し明治三十八年歩兵第二十三聯隊に入り伍長に進級して滿期除隊、全四十年村役場書記となりて大正七年に至り辭任、全四十二年青年團長に推され全時に在郷軍人分會副長に擧げられ共に大正七年に至るまで其の任に在り、全年七月門前吉松機關庫事務員となりて今日に至る、大正十四年村會議員に當選自治の爲めに努力しつゝあり。

吉松村 龜澤甚次氏

龜澤甚次

君は明治十四年五月十日吉松村川西に生る、明治三十一年師範學校乙種講習科を卒業し吉松尋常高等小學校の准訓導奉命全卅四年師範學校の小學校教員講習科を卒へて栗野村國見尋常小學校の訓導次いで校長として五ヶ年勤続、全卅九年横川村安良校訓導、全四十二年栗野村老谷校訓導兼校長、全三十三年牧園村萬壽寺校訓導其の年五月辭任直ちに笈を負ふて東上せしが幾何ならずして歸村、實業界に雄飛せんと志し吉松橋畔に印刷所を經營す、君は大正七年より圓乘寺總代に擧げら

◎吉松村

れ今尙ほ其の任にあり、大正十四年村會議員に當選せり、而して一日も安靜を保つことなく各方面に向つて大に活躍し居れり、君は風流の道に造詣あり大日本歌道奨励會に入り兼題「雨後蟬」にて（鳴神は音をひそめて蟬のなく聲のみ高し山本の里）と詠して受賞尙ほ華道の嗜みあり、池の坊の奥を極め居れりと。

吉松村 吉留作太郎氏

君は明治八年三月十五日を以て吉松村中野に生る、吉松小學校第一回の卒業生なるが騎兵聯隊に入營し日露國交の斷絶して干戈を見るに至るや直ちに應召從軍せしが戦功に依り勳八等白色桐葉章を下賜せらる、明治廿五年の代議士選舉の際には激甚なる本縣黨争の渦中に入り民黨として活躍せしが終に投票の憂目を見るに至る、大正六年以來引き続き村會議員に當選自治の發展に努め居れり、尙ほ信用組合理事として重きをなす、君の實兄寛夫氏は判檢事より和歌山縣警察部長に轉せしが後病を得て他界せり、又た君の男左内氏は劍道の修練深く京都武徳殿に於て二段の免許を受く。

吉留作太郎

吉松村 長井實近氏

君は明治六年六月廿四日吉松村麓に生る、明治卅四年全地に於て醫術の開業をなす、君の斯業に熱心誠實なることは多く其の比を見ず患者日に加りて全地方に於ける斯界の牛耳を執れり、大正二年鐵道醫を囑托せられ、全六年郡會議員に當選全九年より二期に亙りて家督相續調査委員に選ばれる、大正十年村會議員に當選以來引き続き再選し學務委員に選ばれる、尙ほ其の外公共事業に向つて盡瘁せし君の功勞は實に多大にして、没す可らざるもの多し、君は政友本黨の吉松村幹事なり。

吉松村 中水清二氏

君は明治二十年二月五日吉松村川添に生る、吉松高等小學校を卒へて農業に従事せしが明治三十八年區長に擧げられ衛生組長として二期勤績、報効農事小組合長八年、又た馬場下、古川、川原耕地整理事業に對する監督として能く之を完成せしが其の整理面積は三十町歩に亙れり、大正十年村會議員に當選、全十四年再選せり尙ほ全年國勢調査員に擧げらる、君の公共事業に盡せるもの枚擧に遑なし。

中水清二

◎吉松村

永野清助

吉松村 永野清助氏

君は明治十八年十月五日吉松村川添に生る、小學校を卒へて農事に屬みたるが、のち報効農事小組合長に推され其の任にあるもの前後四回、大正六年區長に擧げられ、其の他大字協議員、第一回國勢調査員となり尙ほ川内川堤防工事委員として前後二回五年に亘りて能く其の任を果せり、大正十四年村會議員に當選、自治の爲めに努力し居れり。

村岡喜兵衛

吉松村 村岡喜兵衛氏

君は明治五年二月八日を以て吉松村原口に生る、小學校を卒業して後は一意農事に力を致せしが更に原口に温泉場を經營して一般の便を圖り居れり、而して君は報効農事小組合の創立當時より組長として活動し現今に至るまで尙ほ繼續し居れるが其の功勞を表彰されし事あり、大正十四年村會議員の改選に際し多數を以て當選、自治の爲めに多大の力を致しつゝあり。

宇都武二

吉松村 宇都武二氏

君は明治六年三月十日日置郡阿多村宮崎に生る、川邊郡枕崎の櫻山高等小學校を卒業したるが、明治卅六年鐵道開通の當時機關庫事務員として現住地に來り大正三年十二月辭任の上吳服商を營ひ、先きに吉松驛前の小組合長となりしが、大正十四年村會議員に當選せり、君は獨り自治の爲めのみならず公共事業の爲めに盡力せる所多し。

能勢傳藏

吉松村 能勢傳藏氏

君は明治十八年八月一日鹿兒島市生産町に生る、名山小學校に入り後ち都城小學校に轉せしが卒業後明治三十八年第四十五聯隊に入管上等兵に進級して滿期除隊直ちに宮崎縣田頭に於ける前田正名氏の開墾事業にたつさわる、明治四十二年三月現住地たる吉松村に移住せり、全四十二年私立消防組を創立し自ら組頭となりて其の公設に至るまで其の任に當る、大正十四年村會議員に選出されたるが君は鐵道關係の營業に従事して成功せり、而して一面在郷軍人分會の役員となり其の他の公共事業に盡瘁せるもの多し。

◎吉松村

◎吉松村

山口 喬 樹

吉松村 山口 喬 樹氏

君は明治七年四月二日を以て吉松村に生る。區長となり青年會長となりて其の任にあるもの實に二十年、村會議員としては屢次當選し其の長期に亘ること君の右に出づる蓋し少なからべし、斯くて君の社會公共の爲めに盡瘁せし所鮮少なからず、暫時經濟界に雄飛せんとし起業銀行の代理店を引受け多大の損失を被る、君は政治家にして縣政界の爲めに盡す所多く明治二十五年總選舉の際は壇上に獅子吼して官憲の忌諱に觸れ鐵窓の裡に呻吟せるもの實に百日に及ぶ政治集會の度毎に君の演説を聞かざるもの殆んど少し、而して君は本黨本縣支部の幹事なり。

吉松村 山下 榮右衛門氏

君は明治十九年六月一日吉松村山下に生る、小學校卒業後は家業に従事し居たるが明治三十九年水兵として佐世保海兵團に入り、全四十三年一等水兵に進級海軍經理學校に入學全四十四年十月海軍筆記に任ぜらる、歐洲戰爭の起るや大正六年一月聯合軍陸兵輸送援護の爲め驅逐艦に搭乘して地中海方面に出動し全年十一月歸還君は青島戰に参加し其の功に依り勳七等青色桐葉章金二百二十圓、歐洲戰の功に依り一時金六百六十圓を下賜せらる、其の年十二月滿期除隊となりて歸村在郷軍人分會理事の任にあり、大正十三年一月起工して温泉の經營をなす、大正十四年村會議員に當選せしが自治の爲めに全力を注ぎ居れり。

山下 榮右衛門

吉松村 松 永 榮 吉氏

君は明治七年十月五日鹿兒島市西田町に生る、初め松林小學校に入り名山小學校に轉して高等科を卒へて實業に従事せしが明治卅二年鹿兒島肥料合資會社の横川出張店主任として敏腕を揮ひ、全卅九年現住地たる吉松村に移住して鐵道工事の請負業に従事せしが鹿兒島本線表木山驛の工事は君の手に依り竣工せしものなり、其の他パラスの請負等をなせり、君は先きに吉松驛前の小組合長たりしが目下其の相談役に推さる大正十四年村會議員に當選、村の爲めに多大の力を致しつゝあり。

吉松村 前田 彌 八 郎 氏

君は明治六年五月五日吉松村磐若寺に生る、小學校を卒業して農事に精進せしが、のち農事小組合長として前後六年、區長、前後三回にして十年此の間大典記念造林川西、大平、西海寺の村有林、川東、小鹿倉の國有林造成に對しては監督として専ら其の任に當り面積千町歩餘の増植をなしたり、此の外日枝神社子總代としては君の父壯之助氏時代より引き續き其の任に當り又關乘寺總代大字協議員に推されし事もあり大正十年村會議員に當選、全十四年再選よく自治の爲めに力を致せり。

松 永 榮 吉

前田 彌 八 郎

◎吉松村

◎吉松村

増山 生之助

吉松村 増山 生之助氏

君は明治十八年十月十日吉松村に生る、小學校を卒へて農業に屬みしが明治四十一年報効農事小組合長、全四十三年衛生部長、大正元年青年團の班長、大正八年區長に擧げられ何れも數期に亙りて其の任に在り、尙ほ南方神社總代に選ばる、大正十四年村會議員に當選し自治の爲めに多大の貢獻をなし居れり。

吉松村 溝口 兼重氏

溝口 兼重

君は明治十一年五月吉松村四枝村岡兼俊氏の次男として生れ溝口家の養子となる、小學校を卒へて家業に従ひたるがのち區長に擧げられて中津川、高嶋の竹林造成、上段國有林の植栽に従事するもの前後六年に亙る、報効農事小組合長としては十一ヶ年動續して其の功績を表彰さる、其の外郷社八幡神社の氏子總代をもなす、大正十四年村會議員に當選自治の爲めに其の力を致せり。

富田 重信

牧園村長 富田 重信氏

君は明治十二年八月二十九日牧園村に生る、夙に警察界に入りて巡査部長となり辭任歸村、大正十四年村會議員に擧げらる、全年村長に推され村治に努力しつゝあり。

牧園村助役 橋口 郁介氏

橋口 郁介

君は明治十三年八月二十五日牧園村に生る、嘗つて村農會書記となり後村役場書記に轉ぜしが大正十二年助役に擧げらる。

◎牧園村

◎牧園村



牧園村 猪木袈裟助氏

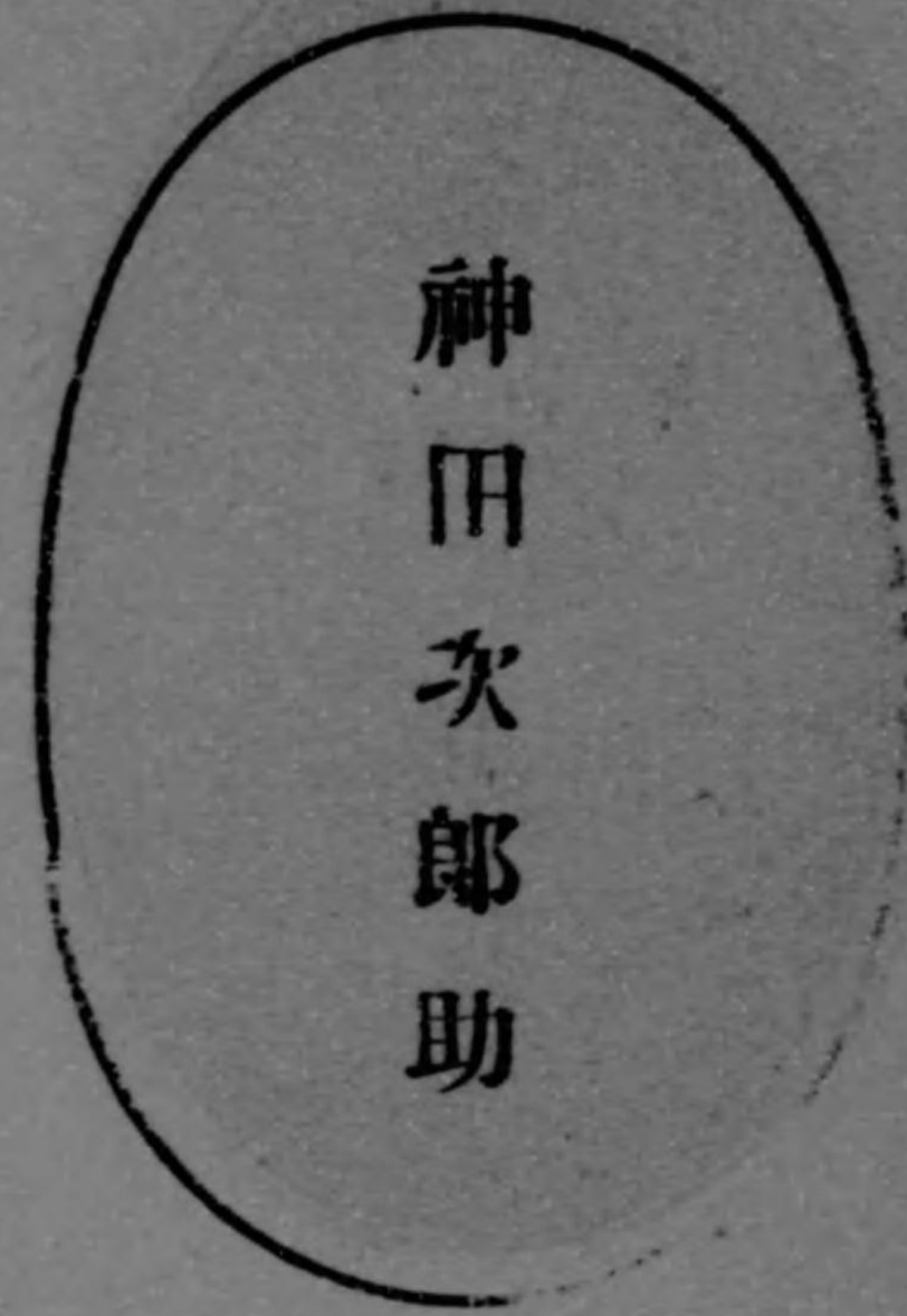
君は明治十年十月十七日牧園村に生れ牧園尋常高等小學校を卒へ明治三十三年より牧園及び横川等に教鞭を執りしも病の爲め辭任農事に従事し報効農事小組長、區長、大正二年村會議員に當選以來引續き現在に至る、戸數調査定委員、青年會評議員、農會評議員、衛生副組長、婦人會評議員、武徳會横川支所委員、區會議員に任す、又君は畜産獎勵金を受け農事教育共に大に力を致しつゝあり。

牧園村 床波宗熊氏



君は明治十七年四月十一日牧園村に生れ小學校卒業後明治三十七年歩兵第二十三聯隊に入營し、全四十年歸休除隊農業に従事し青年會長、農事小組長、區長、在郷軍人會分會幹事及び副班長、小學校後援會理事、産馬組合牧園支所監査役となり大正十四年村會議員に當選、造林委員、學務委員等に選ばる。

神田次郎助



牧園村 神田次郎助氏

君は明治三十五年五月廿日牧園村下郷に生れ牧園尋常高等小學校卒業後父祖の業を繼ぎて農業を営む、府馬青年團長、上万籍警防組合長、農事小組長、牧園村産馬組合世話役、農會議員、大正十四年國勢調査員、造林委員を歴任し大正十四年村會議員に當選し専ら村政に努力し一般村民の信頼厚し。

牧園村 田島助太郎氏



◎牧園村

君は明治二年十一月十三日牧園村下中津川に生る、簡易科卒業後白尾川塾に學び更に博約義塾に學びて明治十八年卒業歸郷の上普通農事は元より植林につとむる所あり、明治三十八年には模範桑園を造り養蠶業を営み今日に至る、大正八年學校教育組合長となり次いで青年會長に推さる、君は大正九年精米業を開始したるが今尙ほ盛んに全業に勵め居れり、而して大正十四年の改選に際し村會議員に當選、専ら自治の爲め努力し居れり。

◎牧園村



牧園村 永田 實氏

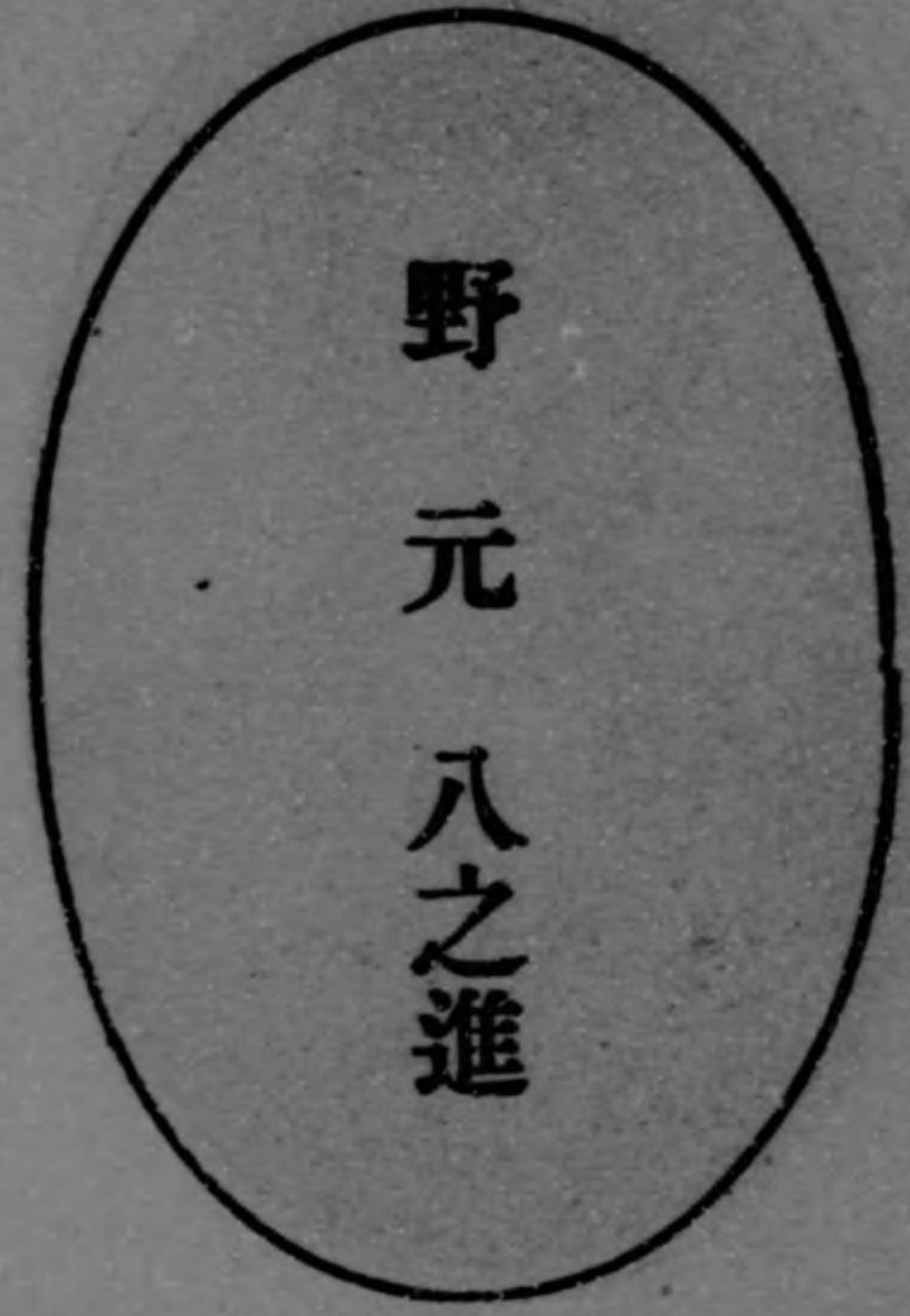
君は明治十九年十二月六日牧園村持松鎌田郷太郎氏の二男に生れ長して永田家を襲ぐ、明治四十年熊本歩兵第二十三聯隊に入管、四十二年歸郷在郷軍人班長となる、其の後小組合長、農會議員、青年會支部長、衛生部長等を勉めしが大正十四年村會議員に當選以て今日に至る。

牧園村 長崎 末吉氏



君は明治二十年二月五日牧園村に生れ全村小學校卒業後明治四十年歩兵第二十三聯隊に入管せしが病氣の爲め除隊歸郷、坂元青年會長、報効農事小組合長、衛生組合長、區長、區會議員、坂元婦人會顧問、正福寺門徒總代、産馬組合支所監查役、保護者會員、造林委員を歴任し大正十四年三月村會議員に當選専ら村政に努力す一般村民の氣受よし。

野元 八之進



牧園村 野元 八之進氏

君は文久元年十月川邊郡川邊町に生る、大工業の父に伴はれて牧園村上中津川に來住し幼より父の業を助く長じて區長に推されしが次いで小組合長、衛生組合長、産馬組合監查役をつとめ煙草作は牧園村に於ける始祖にして一二等の賞を受けるもの數多し尙ほ杉竹の造林に熱心範を村民に示す、大正十四年の改選に際し衆望の歸する處村會議員に當選以て今日に至る。

牧園村 黒岩 東吉氏

君は明治二十二年十月四日牧園村に生れ全地小學校を卒へ中學校に入りしも半途退學東上明治四十二年東京醫學專門學校を卒業し、今四十四年現在地に於て醫業を開く、牧園村學校々醫を囑托され大正十年村會議員に當選引續き現在に至り道路委員に選ばれる。

◎牧園村



◎牧園村

安樂 權右衛門

君は明治十四年四月十五日牧園村安樂に生る、安樂家は全地の舊家にして代々熊野権現の社司を勉む、曾父作次郎氏の時代に物せし由來記今尙ほ保存せり、君は明治三十四年の補充兵にして日露戦役の際は満州の野に出征し功に據り勳八等に叙し白色桐葉章並一時金を賜はる、歸來青年會長、消防組頭等を勉めしが大正十四年村會議員に當選大に努力しつゝあり尙ほ君は農業の傍温泉宿屋を営む。

牧園村 安樂 權右衛門氏

牧園村 有村 鋼 吉氏

君は明治三十年一月廿五日牧園村三体堂に生れ全地小學校を卒業し私立鹿兒島學校に入り、後本縣巡查拜命、大正八年四月職を辭し大正九年都城銀行牧園代理店書記拜命、佛教青年會總務大正十四年國勢調査員となり、全年三月村會議員に當選せり。

牧園村 澤 七 郎氏

君は慶應三年十二月七日島津藩士田島嘉藤次氏の三男として生れしが澤家の養子となり、牧園村下中津川に居住す、幼時真田義行氏に武道と漢籍を學び長じて普通農事に従事するの傍産馬、養蠶業を屬ひ明治三十年第一軍に従ふて渡臺歸郷後は武徳會鹿兒島支部評議員、衛生組長、農事獎勵委員、在郷軍人東部評議員、村造林委員となり尙ほ横川警察署北部五ヶ村武徳會支部設置に功績あり、中津川河線變更を企畫して荒蕪地を開拓する等其功没す可らず、大正十年以來引續き村會議員に當選大に村の爲め貢献しつゝあり。

牧園村 宮原 左 熊氏

君は明治十八年十月廿八日牧園村万壽に生れ牧園小學校卒業明治四十年十二月牧園村書記拜命、大正五年五月辭し大正七年學務常務委員となり大正六年村會議員となり引續き現在に至り能く村政に努力す、君は道路調査委員を兼任し居れり。

◎牧園村

◎牧園村



牧園村 宮原 種 滿氏

君は明治二十七年十月十七日牧園村に生れ全地小學校を卒業して鹿兒島學校に入り後農業を營む、大正三年歩兵第二十三聯隊に入營し歩兵伍長に昇進、大正五年滿期除隊歸村、在郷軍人會牧園分會副會長、牧園信用組合常務理事となる、大正十年村會議員となり、引續き現在に至る又君は村農會副會長をもなせり。

牧園村 森 山 重 志氏



君は明治二十八年九月廿一日始良郡横川村に生れ横川尋常高等小學校を卒へ父を助けて商業を營む、大正九年牧園村驛前に移住せしが大正十四年村會議員に當選し能く村政に努力す君は最も若手議員として囑望せらる。

松 元 清 彦

西農山村長 松 元 清 彦氏

君は明治十七年二月十八日西農山村に生る、全村産業組合長たるもの多年よく其の事業を完成せり、大正十三年八月村長に推さる。

西農山村助役 西 田 金 左 衛 門 氏

君は明治五年十月十一日西農山村に生る、全村收入役に推され居たるが、大正十四年十一月助役に擧げらる。

西 田 金 左 衛 門

◎西農山村

○西襲山村



西襲山村 濱田 貞二氏

君は明治十一年六月二十六日西襲山村中西光寺に生る、小學校卒業後直ちに渡米大に爲す所あらんとせしも病氣其の他事故の爲め素志を果さず、終に明治三十八年村役場に入りて書記となる、後小組合長、青年會長、婦人會長、煙草耕作組合長、産業組合理事、國勢調査員、村會計検査員等をなせしが大正十年以來村會議員として貢献しつゝあり、尙ほ柑橘、植林の獎勵を怠らず殊に村役場書記在職中地租係なりし爲め官有不要存置林拂下の際は委員に擧げられたり。

西襲山村 米丸 畷助氏



君は明治十一年八月八日西襲山村嘉例川徳丸利右衛門氏の三男として生る、明治二十七年米丸家の養子となるが小學校卒業後は専ら農業に従事し居れり、而して小組合長、農會代表者、附屬員、不要存置林拂下委員、道路委員等を勤め大正十四年の改選に際して村會議員に當選せり。

西襲山村 竹下 秀熊氏



君は明治十五年九月五日西襲山村西光寺に生る、明治三十五年縣立加治木中學校卒業、其の年熊本歩兵第二十三聯隊に入營日露戰役に參加し功に依りて勳七等青色桐葉章を賜ふ、明治三十九年軍曹に進級歸郷、西襲山尋常小學校教員となり明治四十一年鹿兒島大林區署に入り山林主事となりしが大正十三年病を得退職歸郷、大正十四年村會議員に擧げらる君は曾て薩摩興業株式會社に勤務せし事もあり、目下部落有財産の統一に心血を注ぎ居れり。

西襲山村 上野 七次郎氏



君は明治十年五月六日西襲山村朝日に生る、明治三十年歩兵第四十五聯隊に入り日露戰役の際は豫備役として出征大石橋海城、鞍山站、首山堡等に轉戰其功に依り勳七等功五級金鷲勳章を賜ふ、明治三十九年軍曹に進級除隊歸郷の後は青年會長、小組合長、衛生部長、農會代表者、學務委員、竹林組合副組長、信用組合理事、農會議員、國勢調査員、原野整理委員を勤め尙ほ日當山酒造株式會社取締役として酒造の改良に勉むる所ありたるが大正六年村會議員に當選以來引き續き今日に至る。

○西襲山村

祁答院 健之助

君は明治二十三年九月十日西叢山村に生る、明治四十三年熊本歩兵第二十三聯隊に入り上等兵に進級して大正元年滿期歸郷、其の後在郷軍人會幹事、小組合長、附屬員、農會議員、西叢山報徳教育組合支部長、不要存置林拂下委員、山の湯温泉評議員、青年會長、學務員、道路委員をなし大正十四年村會議員の改選に當り衆望の歸する處當選の榮を荷へり尙ほ君は普通農事は元より、養蠶に多大の努力をなしたあり。

西叢山村 祁答院 健之助氏

西叢山村 福元 咳太郎氏

君は明治十四年四月二十五日西叢山村嘉例川中福良に生る、普通農事の傍、養蠶と製茶に熱中し居れるが明治三十七年小組合長を初めに附屬員、農會議員、道路委員、不要存置林拂下委員、産業組合監事、部落有山の湯經營委員、衛生組合長をなし大正十四年の改選に際し村會議員となる。

福元 咳太郎



西叢山村 兒 玉 喜 春 氏

君は明治六年一月九日西叢山村に生る、長じて陸軍教導團に入り明治二十六年卒業日清戦役に出征して勳八等瑞寶章及び一時金を下賜さる、尙ほ臺灣征討に参加して勳七等青色桐葉章を賜ふ、明治三十二年曹長に進級其年歸郷、明治三十七年日露戦役に参加し少尉に進級せしが功に依り勳六等に叙し單光旭日章と下賜金あり、明治三十八年歸郷、明治四十三年在郷軍人分會長、大正六年村會議員次いで大正八年八月より二期に亘りに村長の職に在りしが大正十四年再び村會議員に當選せり君は尙ほ此の外産業組合理事、國勢調査員等各方面に努力能く其の功を收む。

西叢山村 下 村 藤 市 氏

君は明治二十一年四月十四日西叢山村嘉例川に生る、小學校卒業後は専ら父祖の業を享けて農業に従事す、明治三十八年小組合長に擧げられ次いで農會議員、農會代表者、附屬員、不要存置林拂下委員、青年會長等を勉めたるが大正十四年の改選に於て村會議員に當選大に自治の爲め努力したあり。

下 村 藤 市

東叢山村長 鹽川彌九郎氏

君は文久元年十一月十五日東叢山村重久の島田家に生れ鹽川家の養子となる、明治十二年田口小學校の教員となり次いで東叢山戸長役場に勤務、明治十三年巡查教習所生醫視第一方面拜命、全十六年退職、全十七年西嶺郡東叢山郷重久外四ヶ村戸長役場用係、全年十月西嶺郡東叢山尋常小學校校長兼務、全廿二年東叢山村役場書記全廿六年四月辭任、全卅一年國分葉煙草專賣局に入り、全卅一年辭任、東叢山村役場書記、全卅四年收入役に擧げられ全卅八年五月辭任せり、全四十年三月村會議員に當選、全四十二年五月之を辭して其年六月收入役となる、大正二年四月重久施業森林組合理事、大正六年助役に全十年村長に推薦せられ大正十四年再選、君は明治廿七年小學校備品費として金員寄附の爲め木杯一個を下賜されたり。

鹽川 彌九郎

東叢山村助役 荒田虎一氏

君は慶應元年十一月七日東叢山村重久に生る、明治五年東叢山郷校を出て全十二年鹿兒島山下校に學び歸りて田口校に教員となり辭任、出處して今藤塾に漢學を修め明治十六年卒業歸村東叢山小學校教員となる、全廿二年福島縣伊達郡に赴きて養蠶業の實地研究をなし全廿三年歸來全業に従事今日に至る其間學務委員、産業組合幹事、森林組合監事をなし村會議員の如きは明治廿五年以來引き續き今日に至る、大正十年助役に推薦されて現任、大正十三年には縣の撰拔にて滿洲軍慰問團に加はり大正十四年二月廿七日秩父宮殿下の霧島御登山案内役を勤め全山に宮殿下御登山記念碑建設委員長代理として其業を完ふせり。

東叢山村 石踊源助氏

君は明治十二年十二月五日東叢山村田口に生る、明治三十二年輜重兵として入營日露戰役に參加して功あり勳八等白色桐葉章並に一時賜金を受く、明治卅三年附屬員夫れより小組合長、農會議員、龍泉寺會計等を勤めしが大正十四年の改選に際して村會議員に當選せり。

荒田 虎一

石踊 源助

◎東襲山村

西丸傳四郎

東襲山村 西丸傳四郎氏

君は明治十八年五月廿二日東襲山村松永に生る、明治三十四年高等小學校卒業後専ら農業に従事したるが明治四十三年農會議員となり次いで産業組合信用評定委員、松永區會議員、附屬員を勤めしが大正十四年村會議員の改選に際し芽出たく當選せり。

東襲山村 本田親吉氏

本田親吉

君は明治五年七月五日東襲山村重久に生る、君の家は代々獸醫を業とし君は實に第十三代の獸醫なり小學校卒業後明治廿二年大阪獸病院に入り廿四年大阪府立獸醫學校に入學せしが長崎獸醫學校に轉校して廿七年卒業直ちに歸村開業せり明治卅九年縣畜産牛馬組合東襲山支所長となり次いで始良郡畜産組會議員、衛生組長、始良郡獸醫會長等を勤め、大正十四年村會議員の改選に當り芽出たく當選せり。



東襲山村 川畑喜熊氏

君は明治五年三月四日東襲山村田口に生る、明治廿七年鹿兒島縣師範學校を卒業して東襲山、太田尋常小學校訓導兼校長となりしが明治卅五年臺灣に赴き臺北第一尋常小學校々長に任ぜられ明治四十一年歸村再び太田尋常小學校長となりて大正十年辭任、大正十二年田口耕地整理組長となり學務委員をも兼ね大正十四年二月廿七日秩父宮殿下、全年四月伏見宮殿下の霧島御登山に際しては案内者として隨行せし爲め酒肴料を拜受せり、大正十四年村會議員の改選に際し芽出たく當選せり。

東襲山村 吉松武志氏

君は清水村高山藤藏氏の二男にして明治十七年五月廿五日全家に生れ長じて東襲山村田口吉松家の養子となる、明治卅九年縣立鹿屋農學校を卒へ直ちに重久、太田尋常小學校に教鞭を執りしが明治四十一年揖宿郡指宿村農業技手に聘せらる四十年辭任歸村専ら農業に従事せり其間高千穂電氣及び燒酎株式會社等を創立したるが大正八年郡會議員に推され農會議員、青年會長、學務委員、村教育會委員等を勤め大正六年村會議員に當選以來今日に至る迄尙ほ繼續當選し居れり。



◎東襲山村

◎東襲山村



東襲山村 中園權四郎氏

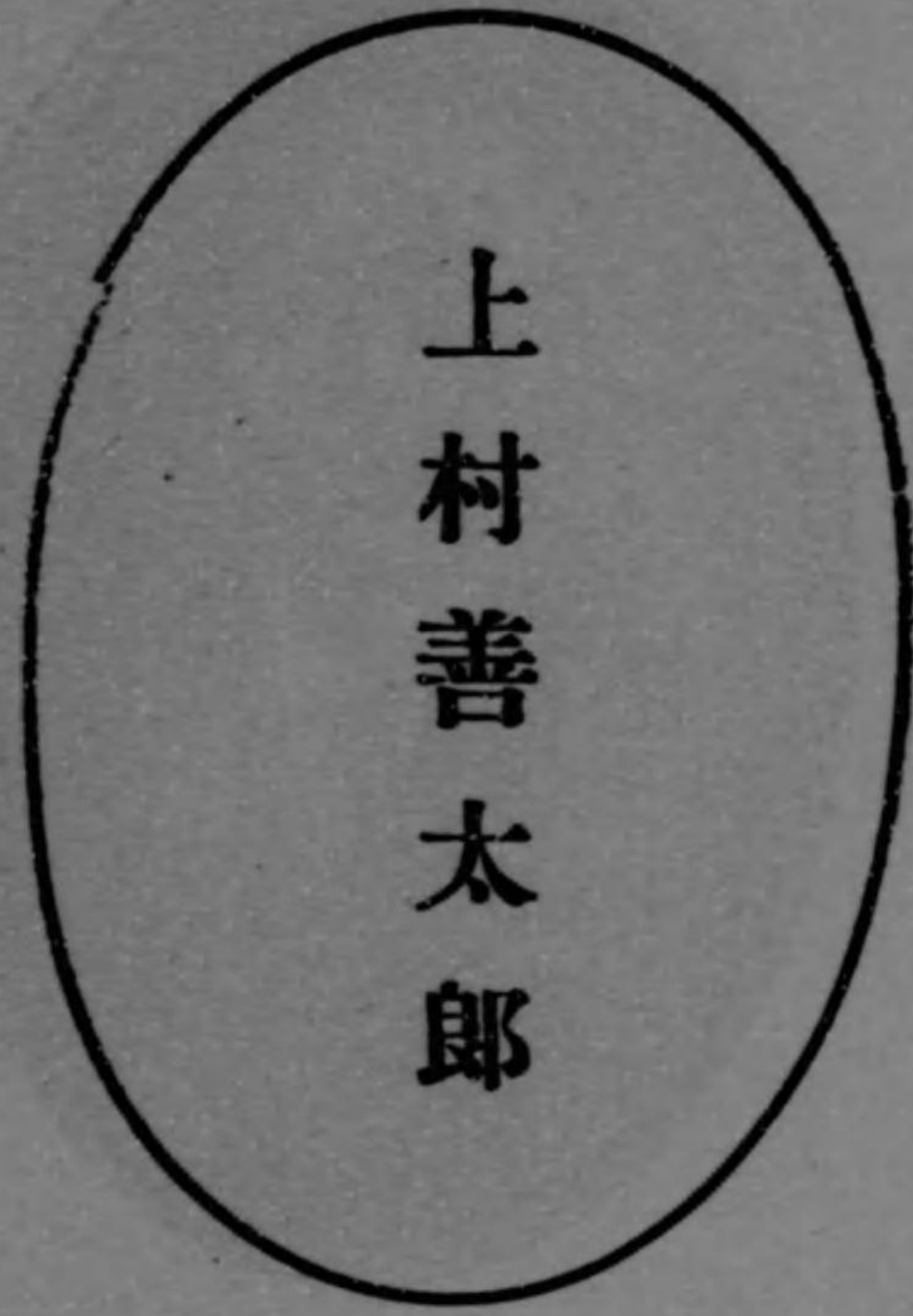
君は明治九年十月二十日東襲山村大窪に生る、日露戦役の際には佐世保要塞に徴されしが後滿州に出征し功に據り勲八等白色桐葉章並に一時金を賜ふ、歸郷の後は農會議員、土地總代原野整理員、國勢調査員、大田校後援會委員、畜産組合監查役等をなし大正十四年村會議員に當選今日に至る。

東襲山村

上村善太郎氏

君は明治八年十二月廿八日東襲山村田口に生る、農事の傍精米業及び肥料商を営めるが明治四十二年植田小組合長となり次いで附屬員、農會議員、土地總代、霧島造林監督、衛生部長、龍泉寺世話役、田口耕地整理組合委員等をなしたるが大正十四年の改選に際して村會議員に當選せり。

上村善太郎



東襲山村

小川善利氏

君は明治十一年四月七日東襲山村大窪に生る、明治卅三年宮崎縣獸醫學校を卒業し直ちに熊本騎兵第六聯隊に入營卅六年陸軍三等獸醫に進級して歸郷、日露戦役に參加して二等獸醫に進級戦役の功に依り從七位勲六等旭日章並に一時賜金あり卅九年に至り郷里に於て獸醫業を開く、後在郷軍人東襲山村分會副會長、小組合長、區會議員、土地總代、始良郡畜産組合議員、全東襲山村支所長、農會評議員、國勢調査員、青年會長等をなしたるが大正十四年村會議員に當選せり。

東襲山村

窪田甚太郎氏

君は明治六年二月五日東襲山村田口に生る、大窪小學校卒業後は専ら農業に従事し居れるが明治廿七年農會議員に推され次いで小組合長、附屬員、村役場書記を勉めしが明治四十四年熊毛郡農業技手となり大正二年辭任、歸村農會議員、衛生組長、國勢調査員、小學校後援會創立委員、道路委員、耕地整理組合副組長、尙ほ部落の相談役として各方面に努力し居れるが大正六年村會議員に推選爾來今日に至るまで尙ほ繼續當選し居れり。

◎東襲山村



牧之瀨雄市

君は明治廿一年七月十二日東叢山村松永に生る、東叢山高等小學校卒業の後は専ら農業に従事し殊に煙草作に精通せり、君は小組合長に推されたる後農會議員、區會議員、煙草耕作組合總代を勤めしが煙草組合にては二十五ヶ年全作繼續の褒賞を受く、大正十四年村會議員の改選に際して芽出たく當選せり。

東叢山村 牧之瀨雄市氏

福元熊太郎

君は明治二十年六月十三日東叢山村松永に生る、幼にして両親を喪ひ小學校卒業の後他に使役さること十年克己不拔の精神は終に全地有数の資産家となりしが大正四年農會議員に推され次いで區會議員、産業組合總代、煙草耕作組合指導員を勤め大正十四年村會議員に當選せり、而して君は頗る公心に富み其所有地が小學校の敷地に撰定さるるや至極廉價を以て之を提供して惜まず尙ほ花瓶等を寄附せり故に村民大に之を徳とす。

東叢山村 福元熊太郎氏

東叢山村 兒玉實雄氏

兒玉實雄

君は明治二十年三月廿六日東叢山村松永に生る、君九歳の時父甚兵衛氏は日清戦役に参加して戦死せり君は東叢山村高等小學校を卒業して直ちに鐵道に入りしが明治四十年熊本歩兵第二十三聯隊に入營翌四十一年朝鮮守備の爲めに派遣され明治四十二年上等兵に進級して滿期歸郷せしが朝鮮守備の功に依り一時賜金を受く、明治四十二年在郷軍人會評議員となり大正元年村役場書記に任ぜらる大正三年辭任して専ら農業に従事し尙ほ煙草耕作に精勵せり、尙ほ温泉業を營み又た生命保險會社員として活動を怠らず大正十四年村會議員に當選したり、君は先年全村の發起にかかる阿蘇山森林視察團に加はりて得る所多しと云へり尙ほ目下メタン瓦斯の事業に従事し居れるが青年議員として大に活動し居れり。

◎東襲山村



東襲山村 木野田孫右衛門氏

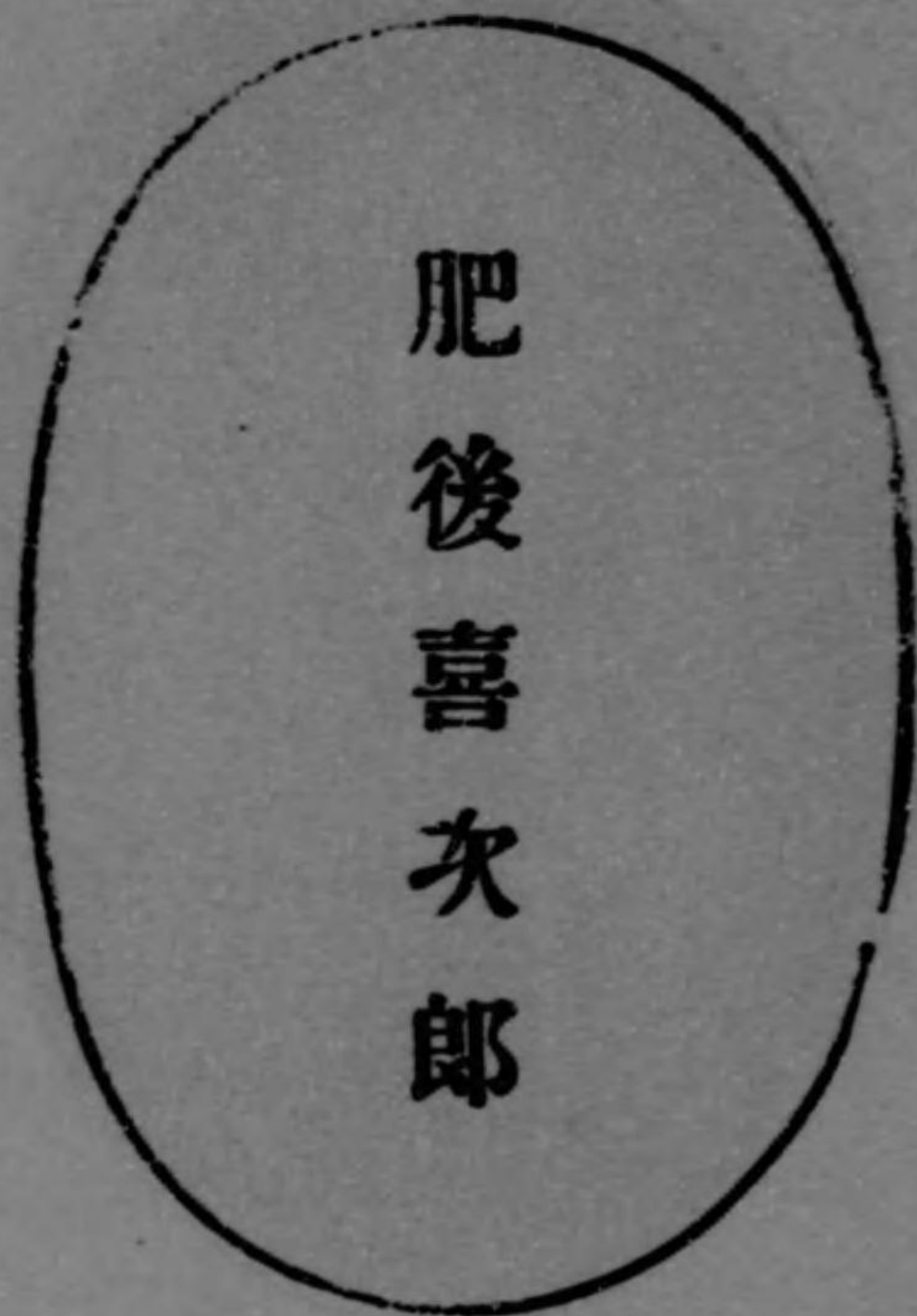
君は明治十九年四月七日東襲山村上重久の資産家孫七氏の長男として生る、東襲山高等小學校卒業後實業講習會に入り明治卅六年より東襲山、永水、太田各小學校に教鞭を執る辭任後明治四十三年小組合長に推され次いで農會議員、附屬員、共勵會々長、畜産組合世話役、永水區會計役を勉めしが大正十四年村會議員に當選せり、君は普通農事の傍養蠶業に多大の努力を惜まず尙ほ製茶業に精勵し居れり。

東襲山村 新村權之丞氏



君は明治四年八月廿八日東襲山村大窪に生る、産馬業に熱心なるが明治廿六年縣の畜産組合評議員となり次いで始良郡産牛馬組合監査役を勤め明治卅年には自ら種馬を購入して産馬改良を圖り大正二年始良郡産牛馬組合支所長に推される其の他小組合長、農會議員、大窪耕地整理組合長、學務委員、土地總代、學校後援會員、國勢調査員、産業組合理事等を勤めしが大正二年村會議員に當選以來今日に至る迄繼續し居れり。

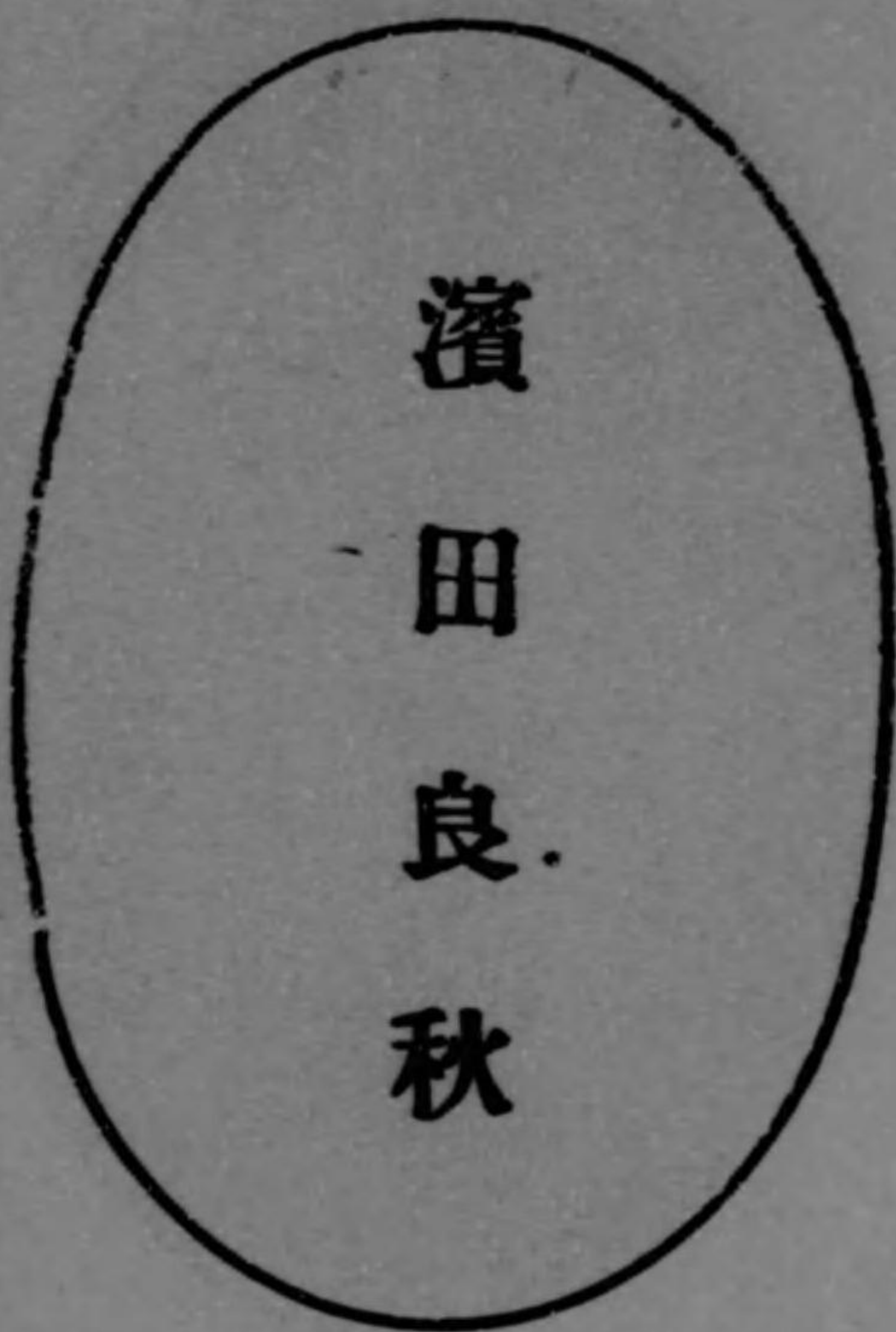
肥後喜次郎



清水村長 肥後喜次郎氏

君は明治九年二月二十日清水村弟子丸に生る、明治三十四年清水村會議員となり、同卅六年學務委員に選ばれる全三十七年任期滿了全三十七年再び村會議員に當選せしも全三十八年辭す全四十年三たび村會議員に當選全四十一年清水村學務委員となり全四十四年清水村助役全四十五年二月辭任、全月東國分村村長となり大正十三年辭任、全年清水村長となりて目下現職にあり。

清水村助役 濱田良秋氏



◎清水村

君は明治十五年四月十四日清水村弟子丸に生る、全四十一年清水村役場書記拜命、大正三年依願退職となる更に大正七年清水村役場書記となり全年八月辭任大正九年清水村學務委員となり、全十二年再任全十三年清水村助役に推選せられ今日に至る。

◎清水村



清水村 堀中 齊 蔵氏

君は明治十六年一月二日清水村に生る、全三十年鐵道院鹿兒島本線に勤務、日露戦役の際は軍用鐵道部員として朝鮮鐵道に勤務せしが功に依り一時金五十圓を下賜さる、歸村農事小組合長、村附屬員、産業組合總代、戸數割調査員、青年副會長煙草小賣會評議員、植小賣人地方委員等に任す、又た鹿兒島電氣會社の工事監督となりし事もあり、大正十四年村會議員に當選せり。

清水村 中馬 仲 熊氏



君は明治十八年一月二十日清水村に生る、全三十六年佐世保海兵團に入營、日露戦役に參加せしが功に依り勳八等旭日桐葉章並に金八十圓を下賜さる、大正二年勳七等瑞寶章を賜はる、全三年一等兵曹に進級して滿期歸村、大正十一年農事小組合長、大正十四年村會議員に當選せり。

清水村 鶴田 袈裟次郎氏



君は明治十七年五月二十七日清水村に生る、家計困難僅かに夜學舎に通ふて勉學す、のち農事小組合長、煙草耕作組合總代、煙草犯則豫防組合長、附屬員に任す、大正十二年清水小作人組合評議員、全十三年日本農民組合始良郡聯合會の政治部員とし活躍す、全十四年村會議員の改選に際し無産者代表者として立候補し難なく當選し地主獨占の村政改革運動に奔走し居れり、十五年日本農民組合本縣聯合會の會計係に選ばる。

清水村 永吉 吉之助氏



君は明治十九年五月二十日清水村山之路に生る。小學校を出で明治卅九年熊本第二十三聯隊に入營、全四十九年陸軍憲兵上等兵其の年九月朝鮮守備となり同時に伍長に進級專越憲兵分隊附拜命春川憲兵隊に轉じ大正四年朝鮮總督府警部に轉じ江原道旌善憲兵分隊出納官吏取扱全四年帳簿金櫃の検査委員拜命、全七年憲兵軍曹に進級勳八等白色桐葉章下賜せらる。全八年十二月滿期歸郷年金下賜全十年精米業を開く大正十四年村會議員に當選學務委員に選ばる、尙ほ君は二回共に國勢調査員をもなせり。

◎清水村



清水村 永園袈裟吉氏

君は明治十九年三月十四日始良郡清水村弟子丸百十八番地に生る、明治廿六年四月清水村立尋常高等小學校へ入學卒業後は専心普通農事及び煙草耕作業に従事し其の間弟子丸農事小組合長、青年會長に擧げられ大正二年四月始良郡清水村役場書記となり、全三年四月末辭任、全三年横川村農業技手に全五年辭任、全六年清水村會議員當選、全七年清水村煙草耕作技手全十二年清水村農會總代次いで副農會長に擧げられ、全十四年同村村會議員に當選して目下村自治の爲め大に努力し居れり。

清水村 上原 茂氏



君は明治十五年九月二十五日清水村川原に生る、川原尋常小學校卒業後補習科に入り業了へて明治卅五年熊本歩兵二十三聯隊に入營、全卅六年上等兵に進級、全卅七年日露戰役に出征せしが負傷の爲内地に送還され治癒後は熊本留守隊附となる、全三十八年伍長に進級再び滿洲に出征、全卅九年滿期除隊と同時に軍曹に進級、戰役の功により勳八等白色桐葉章並に従軍記章一時金二百圓下賜さる。全三十九年川原煙草耕作組合長、小組合長、附屬員、大正十二年農民組合總代となりて今日に至る、其の他産馬組合世話役、信用組合評定委員、國勢調査員をも托されたり、全十四年村會議員に當選自治の爲めに碎身努力し居れり。



清水村 口町次郎吉氏

君は明治十二年二月清水村に生る、郡田尋常小學校卒業後青年會長たること五ケ年、明治四十一年より大正二年迄小組合長、大正三年より四年迄村附屬員、大正七年より全十一年迄戸數割調査員、大正十年より今日に至るまで煙草耕作組合總代、大正十二年日本農民組合清水支部に入りて農會議員となり猶ほ信用組合理部長を勤むること二ケ年、大正十四年村會議員に當選以つて今日に至る。

清水村 山下七右衛門氏

君は明治二十七年四月十二日清水村郡田に生る、清水尋常高等小學校を卒へて後は大正三年より全五年まで青年會長、大正七年より全八年まで小組合長、大正十年より全十三年迄村の附屬員、大正十四年村會議員に當選、大正十三年より日本農民組合支部員となり更らに選ばれて評議員となる。

山下七右衛門

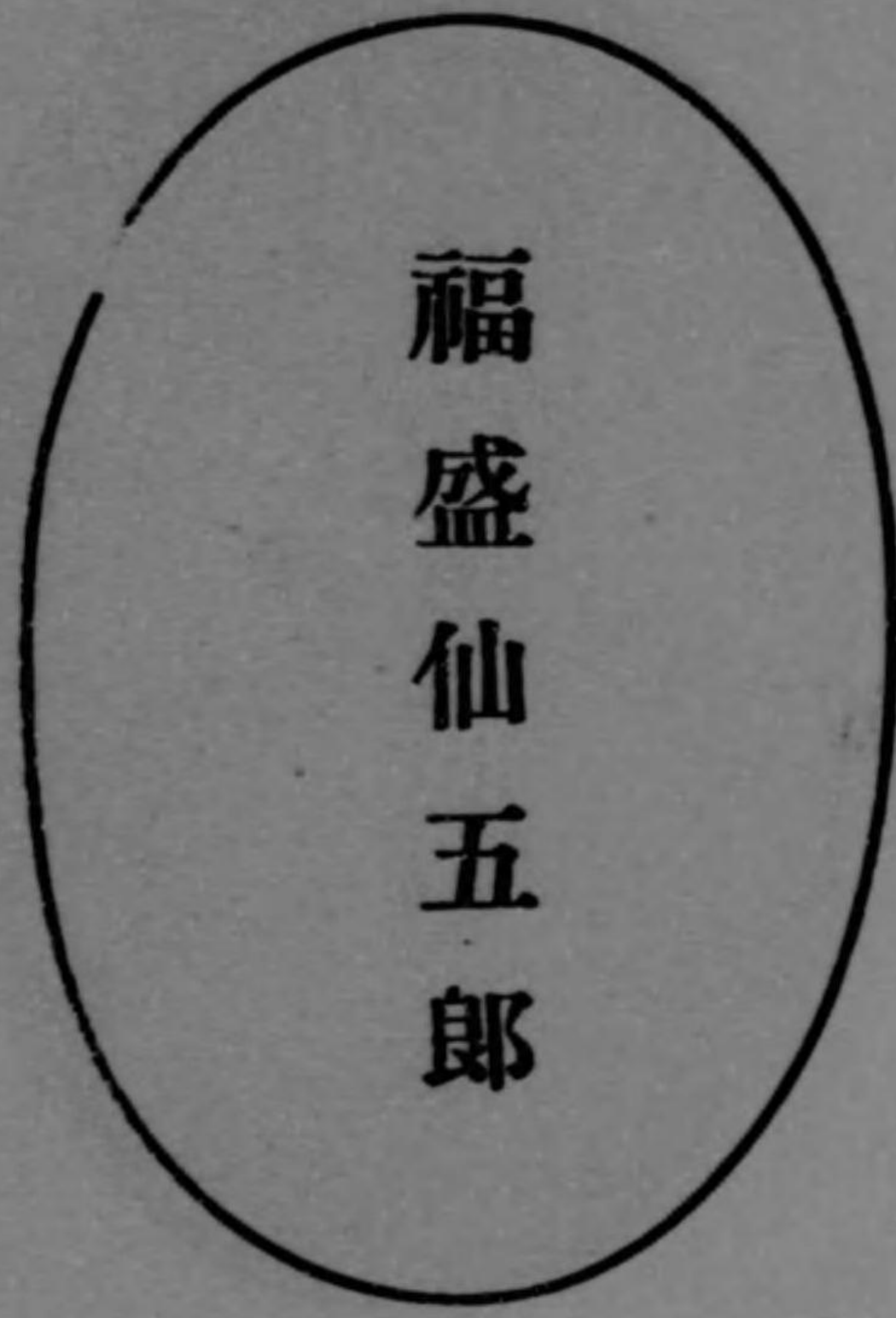
清水村



清水村 安田 贊氏

君は清水村の資産家安田才藏氏の長男として明治十三年八月生る、清水尋常小學校卒業後全卅三年大村聯隊に志願兵として入營全卅五年伍長に進み全卅六年病氣にて除隊歸村同時に軍曹に進級、全卅七年日露戰役に參加、全卅九年滿期歸郷勳七等青色桐葉章並びに一時金參百圓下賜さる歸郷後在郷軍人副會長となり更に村役場書記、収入役、助役となる、大正十四年十月村會議員に當選今日に至る。

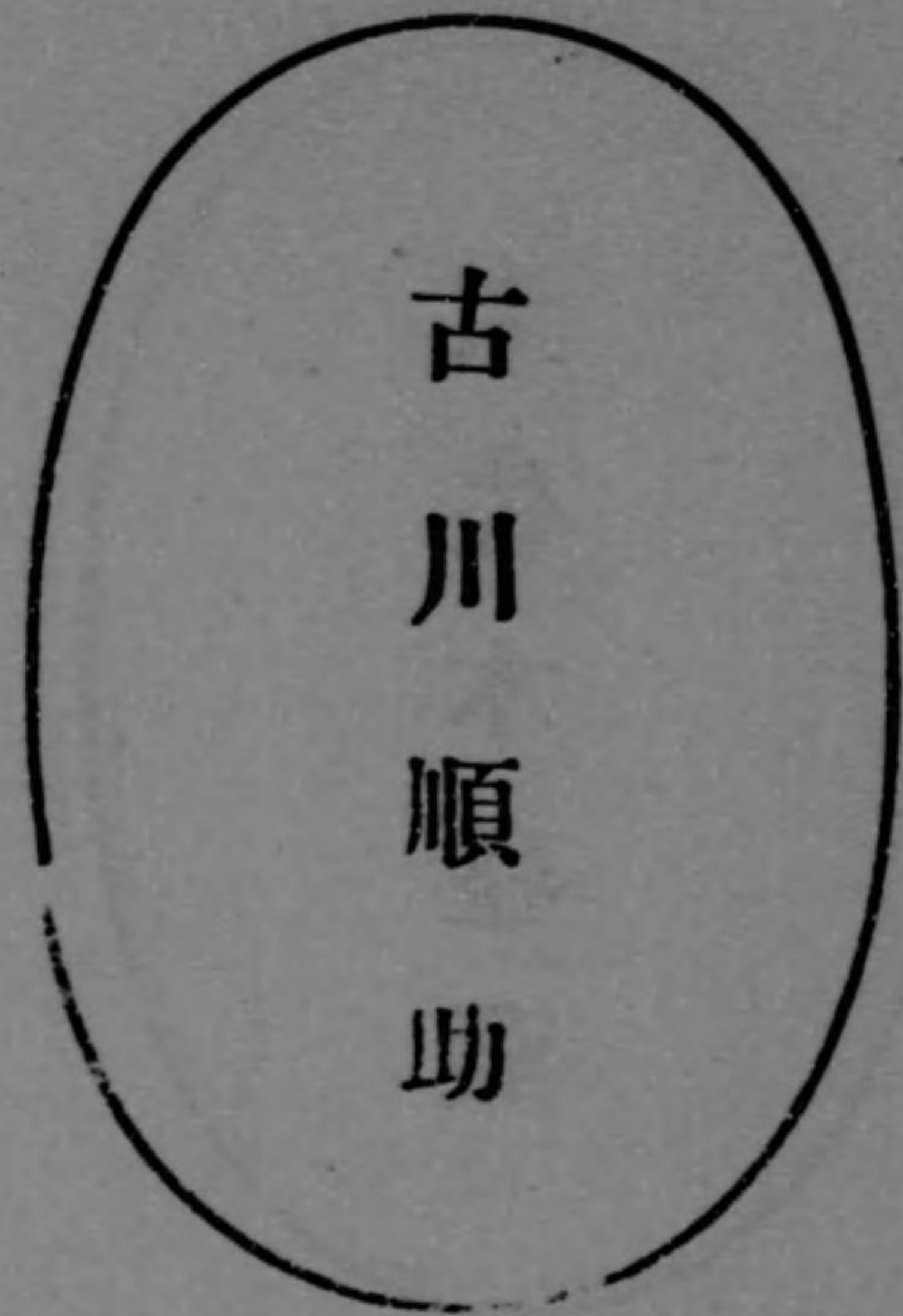
福盛仙五郎



清水村 福盛仙五郎氏

明治十一年七月十五日清水村姫城に生る、明治三十一年熊本歩兵二十三聯隊に入營全三十二年歸村、全三十七年召集に應じ野戰隊補充として出征名譽の負傷を受け全三十八年六月歸郷、勳八等白色桐葉章並びに一時金百五十圓下賜さる、後小組合長、附屬員、産業組合議員、國勢調査員等に選ばれ、大正十四年村會議員に當選す、君は性温良篤實にしてよく村政に精勵せり。

古川順助



清水村 古川 順助氏

君は明治五年九月清水村に生る、性不羈快活にして城壁を設けす父を明治十丑役に喪ひ慈母に鞠育せらる、暫時教鞭を取りしが辭して笈を負ひ京都に學ぶのち大阪府巡査となり明治廿九年辭任歸村、村役場、專賣所等に奉職、明治三十二年本縣警察界に入り在職十七年にして辭す、大正六年清水村助役に擧げられ、次いで村長に推さる大正十三年任期滿了、全十四年村會議員に當選せり。

清水村 兒 玉 重氏

君は明治十六年十一月四日清水村に生る、全卅六年熊本第二十三聯隊に入營翌年上等兵に進級、全卅七年日露戰役に出征負傷して内地に送還せられ初年兵の教育係拜命、全卅九年下士に昇進、同時に滿期除隊勳八等白色桐葉章一時金二百圓下賜さる。木原在郷軍人分會班長、農事小組合長、附屬員、信用組合評定員となり、大正十四年十月十日村會議員に當選大正九年及び全十四年には國勢調査員に尙ほ戸數割調査員にも推さる茶業養蠶を業とし以つて今日に至れり。

清水村



◎清水村

迫田 喜左衛門

清水村 迫田 喜左衛門氏
君は明治十五年八月五日清水村字山之路徳田家に生れ迫田家の養子となる、清水尋常小學校を卒へ明治卅五年始良郡農事組合産業肥料作物の講習を受け、全卅七年より二ヶ年清水川原にて製茶業を修め明治卅八年より煙草耕作組合囑托となり全四十一年より四十五年迄全村區内附屬員、全四十二年川邊郡知覽村普通農事煙草耕作教師、全四十五年より大正十二年迄専ら農事に盡し、大正十二年日本農民組合の評議員、大正十四年十月十日村會議員に當選尙ほ農民組合長として今日に至るまで活動を繼續し居れり。

木佐木 盛藏

清水村 木佐木 盛藏氏
君は明治元年六月一日清水村弟子丸に生る、初等科及び別科卒業明治十七年清水尋常小學校教員奉職以來清水、木原、郡山、川原各校の教員として全廿六年まで十年教育に従事し辭任後村役場書記、收入役、助役として明治三十三年に至る辭任の後清水木原に開墾事業を起して今日に至る、明治四十二年來村會議員として引續き當選其の間小組合長、農會總代、農會議員として盡瘁する所多く、全村の功勞者として尊崇的となり村内の徳望を一身に荷ひ居れり。

清水村 新屋敷 袈裟助氏

新屋敷 袈裟助

清水村 新屋敷 袈裟助氏
君は明治五年五月廿日中野休右衛門の三男として清水村字川原に生る、新屋敷家の養子となる、村の附屬員を勤むると二回、煙草耕作組合員總代として明治四十二年より四十四年迄盡す所あり、大正二年以來村會議員に擧げられ自治に對して多大の貢獻をなし居れり、而して君は此の外猶ほ大正十一年より信用組合の監査役をなし又た戸數割調査員に選ばれ至誠至公の審査をなして大に村民の期待に酬むつゝあり。

清水村 新盛英 夫氏

清水村 新盛英 夫氏
君は明治十二年五月二十日清水村に生る、明治三十三年本縣巡查拜命、翌年辭任、全卅五年清水村農會書記、全年村役場書記兵事係となる、全卅九年日露戰役の功に依り銀杯一個下賜、其の他附屬員、煙草耕作組合總代、村會議員、國勢調査員、煙草耕作指導補助員、村是調査補助員、各小學校舎増築工事係、勸業委員、教育組合長、農會議員、信用組合理事、青年會長等の任にあり各方面に努力せしが教育組合よりは特に茶器の賞を受けし事あり、村會議員としては今尙ほ其の任にあり。



◎清水村

○國分村

大山吉助



國分村長 大山吉助氏
君は明治元年二月二十九日國分村に生る、村會議員として村政に盡すもの多年大正十年推されて村長となる。

國分村助役 服部休次郎氏

君は明治五年八月九日國分村向花小助氏の長男に生る、國分小學校卒業後専ら郷塾に學び農事に精勵し明治三十一年國分郵便局に勤務す、翌三十二年局長代理となり、全三十九年退職君の勤勉は上司の認むる所となり在職中賞を受くること實に八回に及ぶ、全三十九年三月煙草專賣局に入りて十七年間各課に勤務し能く其の成績を擧げ二十回の多きに亘りて賞を受く、大正十一年專賣局創立二十五年の記念に當り、功績者として銀杯を授與せらる、全年休職全十二年鹿兒島銀行書記全十四年村會議員の改選に際し當選せり、大正十五年全村助役に推薦せらる。

國分村 岩切喜助氏

君は明治十五年十月十五日國分村上小川なる太左衛門氏の長男として生る、明治三十五年鹿兒島中學校を卒業し笈を負ひ東京に出で明治三十六年徴兵適齡に達し直に歸國熊本に入營し、全三十七年日露國交斷絶干戈相見る至りしかば直ちに征途に上りて滿州各地に轉戦して功ありて勳八等に叙し功七級金鷄勳章並に白色桐葉章を下賜せられ全三十九年滿期歸郷其の年八月米國に渡航して大正八年に至り歸省、大正十四年村會議員に當選、尙ほ全年産業組合理事となり同志俱樂部の創立せらるゝや其の委員に推さる。

國分村 林嘉三次氏

君は始良郡國分村に生る、國分高等小學校を卒業して東京藥劑專門學校に入り藥劑師試験に合格し明治三十八年歸村の上藥種商を開業す、暫時にして國分村公設消防組々頭となり四十年の久しきに亘り其の任に在り、大正七年より造林事業に着手したるが既に數十町歩の植栽を了せり、大正十四年村會議員に當選自治の爲め渾身の努力をなす。

○國分村



◎國分村



君は明治五年一月國分村國分八郎左衛門氏の長男として生る君は蠶業の先覺者にして斯道に造詣淺からず明治三十四年熊本市に於て開會せる九州沖繩八縣聯合共進會にて審査員を囑托せられ鹿兒島縣地方蠶種審査會委員及び鹿兒島縣蠶種貯藏組合理事、鹿兒島蠶種同業組合副組長、鹿兒島縣蠶種株式會社取締役等を勉む、君は嘗つて米國博覽會に繭の出品をなし賞状及び銅章を授與せられし事あり、明治四十二年郡會議員次で參事會員となる縣立國分高等女學校の如きは君が郡會議員在職中建議者として大に奮勵し終に其の建設を見るに至れるものなり、大正十年村會議員に當選以來現在に至る、其他農會議員をもなす煙草耕作に對しても多大の力を致せり。

國分村 星原 靜一氏



君は國分村上小川に私塾を開きて村内子弟を教育せし貞陵氏の長男として明治十年一月二十日全所に生る、上小川尋常高等小學校及び東國分尋常高等小學校に教鞭を執ること各三年明治四十三年國分村農會副會長となり、大正元年全村助役に舉げられ大正五年再選さる、大正七年上小川産業組合長に推されて今日に至る、尙ほ大正二年村會議員に選出され大正十四年に至るまで四回繼續當選せり。

國分村 川東 喜衛氏



君は慶應元年八月八日國分村野口なる製裝太郎氏の三男に生る、明治十八年一月横須賀海兵團に入團全二十一年撰拔されて横須賀機關學校に入校して全廿三年卒業軍艦筑波號に乗組みて各國に航海し引續き志願して明治二十六年に至る負傷の爲め其年九月除隊郷里に歸りたるが當時既に三等機關士に進級せり、歸郷後は専ら農業に従事したるが明治三十六年代書業を始め今日に至る、而して君は明治二十六年青年會長に撰ばれ次いで煙草耕作組合總代、農事獎勵員、農會議員等に推さる、大正十四年村會議員に當選せり。

國分村 吉元 喜平太氏



君は明治三年七月四日國分村喜平次氏の長男に生る、國分小學校を卒業、のち煙草製造及び販賣業を營み明治二十七年以來第六師團に煙草の納入をなす、煙草專賣法の施行に際し君は政府より煙草製造を委託せられ大正元年まで繼續せり、明治四十二年國分興業合資會社の業務擔當社員として事業を經營す、尙ほ造林に意を注ぎ明治二十九年以來杉、檜八十町歩松百町歩餘の植栽をなす、又た君は横川、牧園兩村の煙草耕作指導員に聘せらる、農會總代、煙草耕作總代として今日に至る、村會議員としては大正二年より引き續き現任せり。

◎國分村

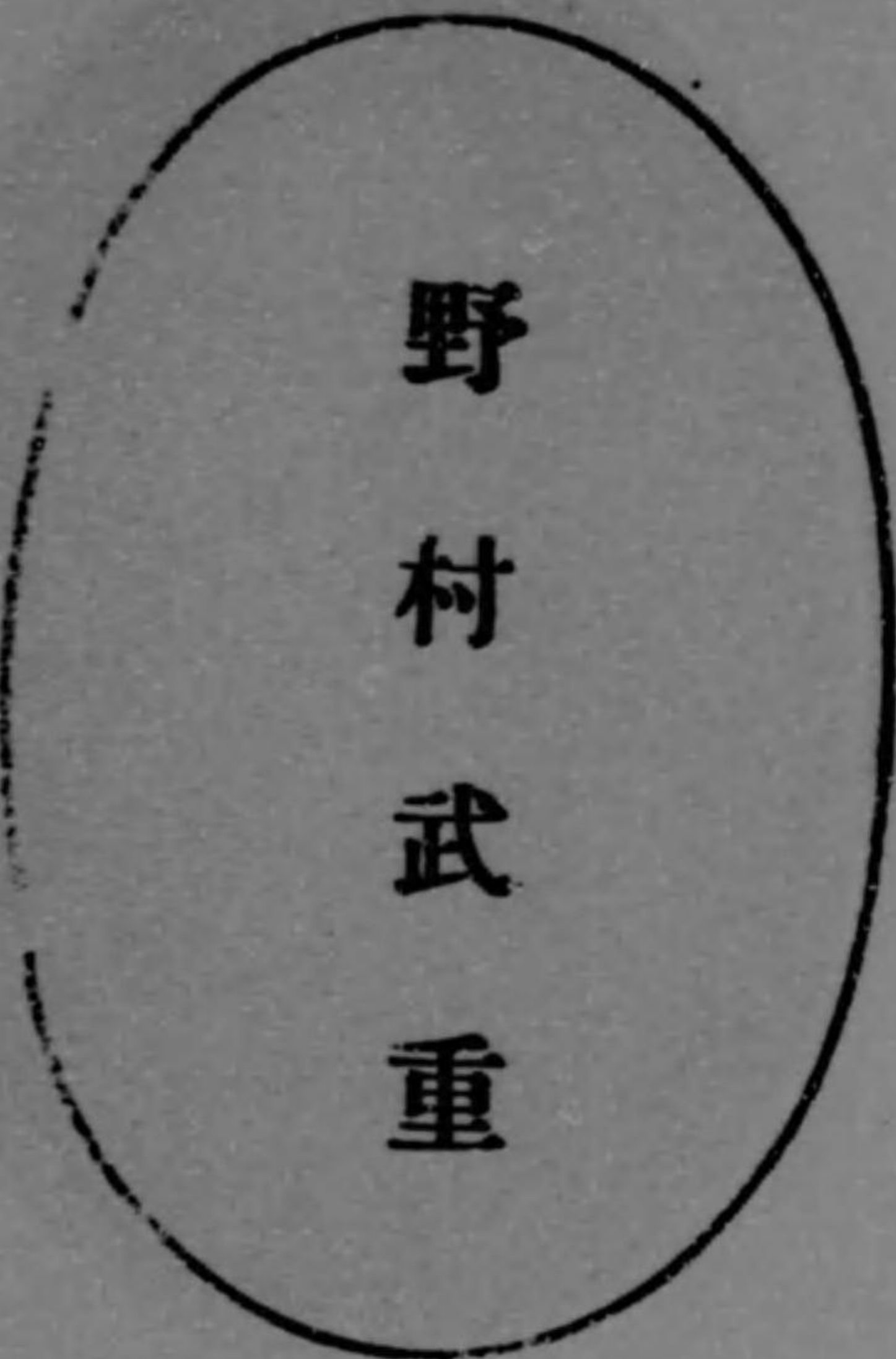
○國分村



國分村 東 金次郎氏

君は明治七年九月十二日國分村府中金作氏の長男に生る、向花簡易小學校を卒業して直ちに農業に従事す、明治二十九年の頃既に造林の必要を感じて植栽せしもの多し、君は明治三十九年渡米して勤儉力行多くの資財を得て明治四十四年歸省す其の年直ちに農事小組合長に推され大正五年に至るまで組合事業に盡瘁し、大正七年農會議員に撰ばれ大正十二年に至り更に煙草耕作組合長に推される村會議員としては大正二年の改選に於て當選大正十四年再選せらる。

國分村 野村武重氏



野村武重

君は明治三十一年三月十四日國分村麓虎之助氏の四男として生る、大正七年縣立加治木中學校を卒業し、全九年に明治大學を卒へ大正九年志願兵主計生として熊本歩兵第二十三聯隊に入營、全十一年見習主計となりて退營、全十三年三等主計に進級せり、大正十一年滿期歸郷し今年六月在郷軍人副分會長、翌十二年分會長及び青年團長に推され今日に至る、又た無報酬にて精華學校の教員となりて學生の訓育に勵み尙ほ報徳會の支部長をも勤む、大正十四年村會議員の改選に際し衆望の歸する處芽出たく當選大に自治に奮勵しつゝあり。

國分村 藏元小右衛門氏



君は明治十四年四月十五日國分村上小川に生る、小學校を卒業して實業に従事せしが明治三十四年歩兵第二十三聯隊に入當、現役中日露戰役に從軍滿州各地の戰闘に参加し戰功に依り章勳年金等を下賜せらる下士に昇進して全四十二年除隊歸村、のち煙草耕作組合總代、信用組合理事、水利組合議員農會總代等に擧げられ何れも其の任を全ふせるが大正十四年村會議員に當選せり、尙ほ君は信用組合監事として現在各方面に向つて多大の力を寄與しつゝあるの傍米穀及び肥料商の家業を盛大に經營し居れり。

國分村 松坂小八氏



○國分村

君は明治五年十月五日國分村向花喜八氏の長男に生る、明治二十五年熊本歩兵聯隊に入營、明治二十七年日清戰役に參加したるが一時金二十五圓を賜ふ、全三十七年日露役に當り直ちに征途に上り各地に轉戰數次、勳八等に叙し白色桐葉章一時金二百圓を下賜せらる、全二十九年善行證書、全三十九年には下士滴任證を授與さる、君は明治四十五年耕地整理組合評議員を振出しに農會總代、評議員、附屬員、煙草耕作組合長學務委員等をなし、大正十四年村會議員に當選せり、君は造林の急務なるを覺り大正三年以來逐年植林の造成に勉む。



國分村 松下啓藏氏

君は安政六年十二月二十三日國分村上川石塚七郎氏の二男に生れ、出でて松下家を襲ぐ、明治三十二年來學務委員として大正二年に至る、明治四十四年國分女學校書記大正十二年辭任、此間君は就學獎勵の爲め全力を傾倒し幻燈會を催ふして父兄の向學心を鼓吹し保護者を起し赤貧の子弟には文房具費を補助し校舎の増築、敷地の擴張等に際し多大の貢献をなせしが明治四十年本縣知事は其の効績を認め金三十圓を與ふ明治四十四年には文部大臣に其効績を認められ金百圓を賞賜せらる此の際文部大臣の撰奨を受けしもの全國を通して僅かに三人なりしが君又た其内に在り、明治四十五年國分村は君の功勞に酬ゆる爲め花瓶一個を贈呈す、君は曾て大阪、宮崎及び本縣の警察界に入りし事もあり、村會議員としては明治三十六年、全四十四年、大正十四年の三度當選此の如く各方面に多大の貢献をなつゝあり。



國分村 上村正次郎氏

君は明治十七年六月十二日重富村松尾豊助氏の二男に生れ國分村向花叔父上村家の養子となる、辯護士松尾榮一氏の次兄なり、小學校を卒へ實業に従事し後長崎縣巡查となり二ヶ年にして辭任、明治四十一年國分酒造株式會社の監查役兼支配人となりしが、全四十四年解散清算人に撰ばれる、學務委員、始良郡鹽組合長、全東部精米組合長、大正四年鹿兒島縣酒造組合代議員、船伊酒造組合評議員、西産業組合常務理事、聯合青年會副會長等をなす全十四年村會議員に擧げらる。

國分村 古賀仁右衛門氏

君は明治十三年五月二十七日國分村宇本金太郎氏の長男に生る、國分小學校を卒業して農業に従事し傍ら菓子商を營ひ、明治二十七年青年會副會長に擧げられ、大正七年國分町及び國分驛馬車組合の創立に際して其の世話人となり、大正十二年農會議員に推されて共に今日に至る、大正十四年村會議員の改選に當り衆望の歸する處芽出たく當選自治の爲めに盡し居れり。

古賀仁右衛門

◎國分村



國分村 清田袈裟右衛門氏
君は明治十一年三月十五日國分村新町清田金助氏の二男に生る、明治三十一年熊本工兵第六大隊に入營、全三十三年臺灣守備として渡臺全年十月土匪討伐隊に編入せらる十一月滿期歸郷に際し看護長の適任證を附與せらる、明治三十七年日露戰役に際し、應召工兵第六大隊補充隊に編入二月十日出征、全三十八年陸軍一等看護長に進級、全三十九年歸省戰功に依り勳七等に叙せられ功七級金鷄勳章青色桐葉章を賜ふ、青年副會長、會長、在郷軍人會評議員、其の他學務委員となる、大正十四年村會議員に當選せしが大に各方面に向つて努力しつゝあり。

國分村 鹽川金右衛門氏



君は明治十八年七月二十一日國分村新川に生る、國分高等小學校及び全補習科を卒業して専ら農業に精勵し居たるが明治三十八年熊本歩兵第二十三聯隊に補充兵として入營、日露戰役に參加し戰功に依り勳八等に叙せられ瑞寶章並に一時金七百圓を下賜せらる、明治三十九年滿期歸郷、翌四十年青年會長を始めとし農事小組合長、附屬員、農會總代、全評議員、煙草耕作組合總代、報德會支部長、産業組合評議員等となし各方面に活動したるが大正十四年推されて村會議員となる。

西國分村長 藪田新太郎氏



君は明治十七年三月十八日西國分村に生る、明治三十七年縣立加治木中學校卒業直ちに東洋協會專門學校に入り全四十年卒業、全四十一年韓國財政顧問附財政官補、全四十五年朝鮮全羅南道潭陽郡にて農事經營に着手して今日に至る、大正八年歸村、全十二年全村長に擧げらる。

西國分村助役 越口袈裟次郎氏



君は明治五年七月八日西國分村に生る、明治廿九年陸軍砲兵工科學校を卒業す、在營十七年砲兵上等工長に進み從七位に叙し勳七等を賜はる、退營後大正二年西國分村收入役に擧げられ、全十年全村助役に推薦せられて今日に至る。

◎西國分村

◎西國分村

西井上盛吉

君は明治十九年十月二十日西國分村三九〇番地に生る、明治三十九年久留米歩兵第五十六聯隊に入營、全四十一毎滿期歸省したるが其の後直ちに衛生組合理部長、村學務委員、小田區青年會長、農事小組合長、村農會議員、小田區長、在郷軍人團幹事等に推され何れも充分の成績を擧げ大正十四年村會議員に當選せり、君は竹林の造成に努力し大正十四年八月始良郡主催の竹林品評會に於て成績優良の故を以て賞状を授よる。

西國分村 西井上盛吉氏

西國分村 富森伊之助氏

君は明治八年十一月十三日西國分村内に生る、村農會議員を勤むる事前後四回、衛生組合理部長二回、醸造組合理議員二回、明治四十二年、大正二年、全十年、全十四年の四回村會議員に當選し自治の爲めに盡すこと少なからず、其の他大正四年には國分産業組合理事に推され今尙ほ幹事として組合事業にたづさわり、大正六年には官幣大社鹿兒島神宮の委員を囑托され現在に至り、尙ほ明治三十二年以來焼酎製造業を営むの傍ら製米、製粉業を盛大に經營しつゝあり。



高木時吉

君は明治二十五年九月十五日國分村喜三次氏の長男に生れ富隈小學校を卒へ更らに始良郡國分私立精華學校に入り卒業後父祖の業を繼ぎ農業を営む大正二年九月鹿兒島無盡合資會社創立より業務監督となり大正十一年十一月より全會社々長に進み現在に至る、尙君は青年會長、村農會副會長等に現任し大正十四年三月村會議員に當選村政に努力し教育組合理會長及び理事に任す。

西國分村 高木時吉氏

西國分村 高島市兵衛氏

君は福岡縣の出身にして曩年西國分村に移住せしが大正元年以來製材業を営み材木の取引を盛大に行へり現今にては全地屈指の商店として認めらる、尙ほ大正十四年村會議員に當選せしが自治の爲めに多大の貢献をなしつつあり。

高島市兵衛

◎西國分村

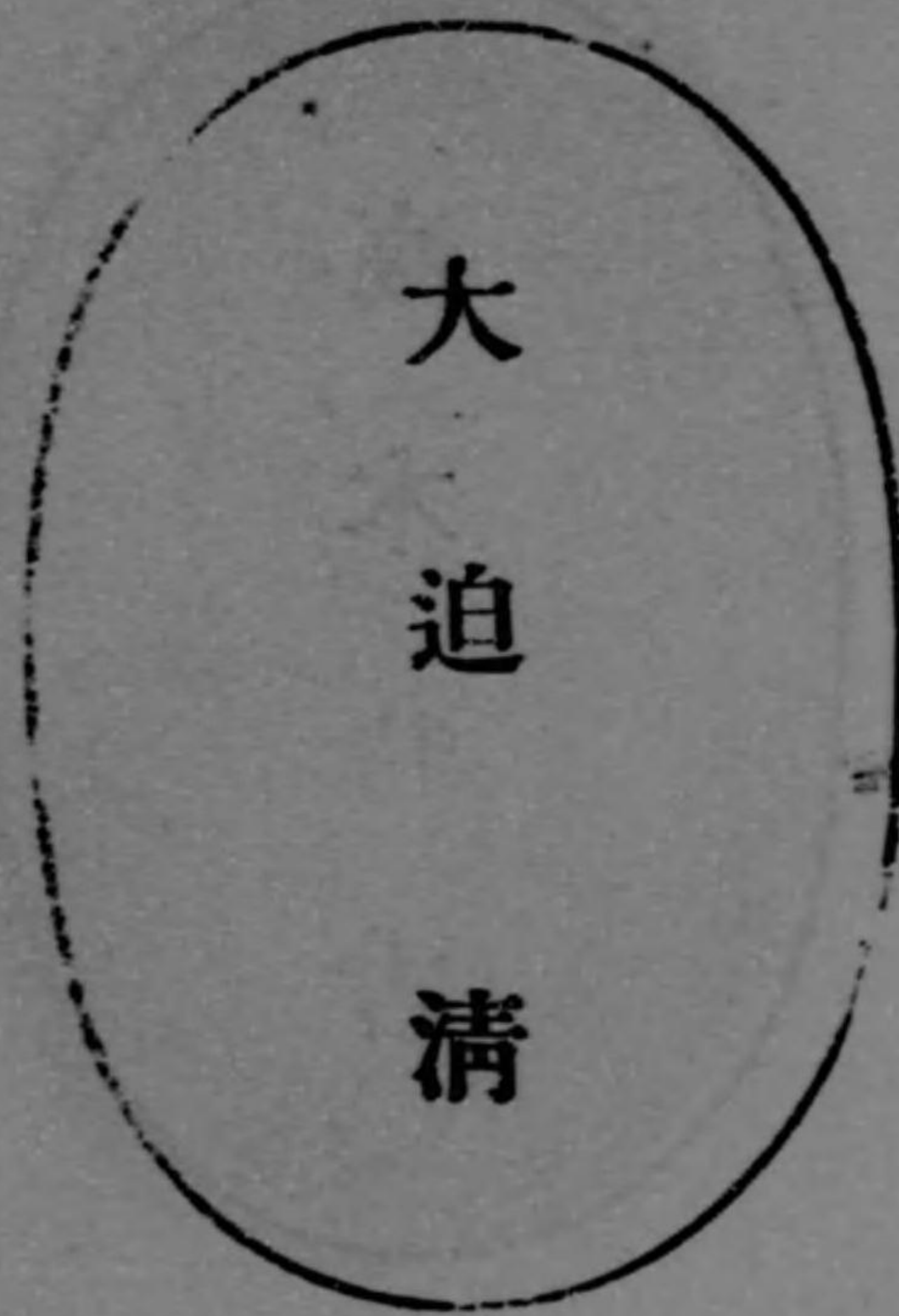
◎西國分村



西國分村 永富仲兵衛氏

君は明治十三年十月二十五日西國分村内に生る、小學校を卒業して後には専ら父祖の業をつぎて農事に屬み内青年會長、内區民總代、衛生組合部長、村會議員等に選ばれて各方面に亘り能く其實績を擧ぐ、大正六年村會議員に當選以來引き續き大正十四年の改選にも當選し町村自治の爲め努力する所少なからず其他君は大正六年官幣大社鹿兒島神宮の囑托委員となり今日に至る、尙ほ大正四年より産業組合理事となる等大に各方面に貢献しつつあり。

大迫清



西國分村 大迫清氏

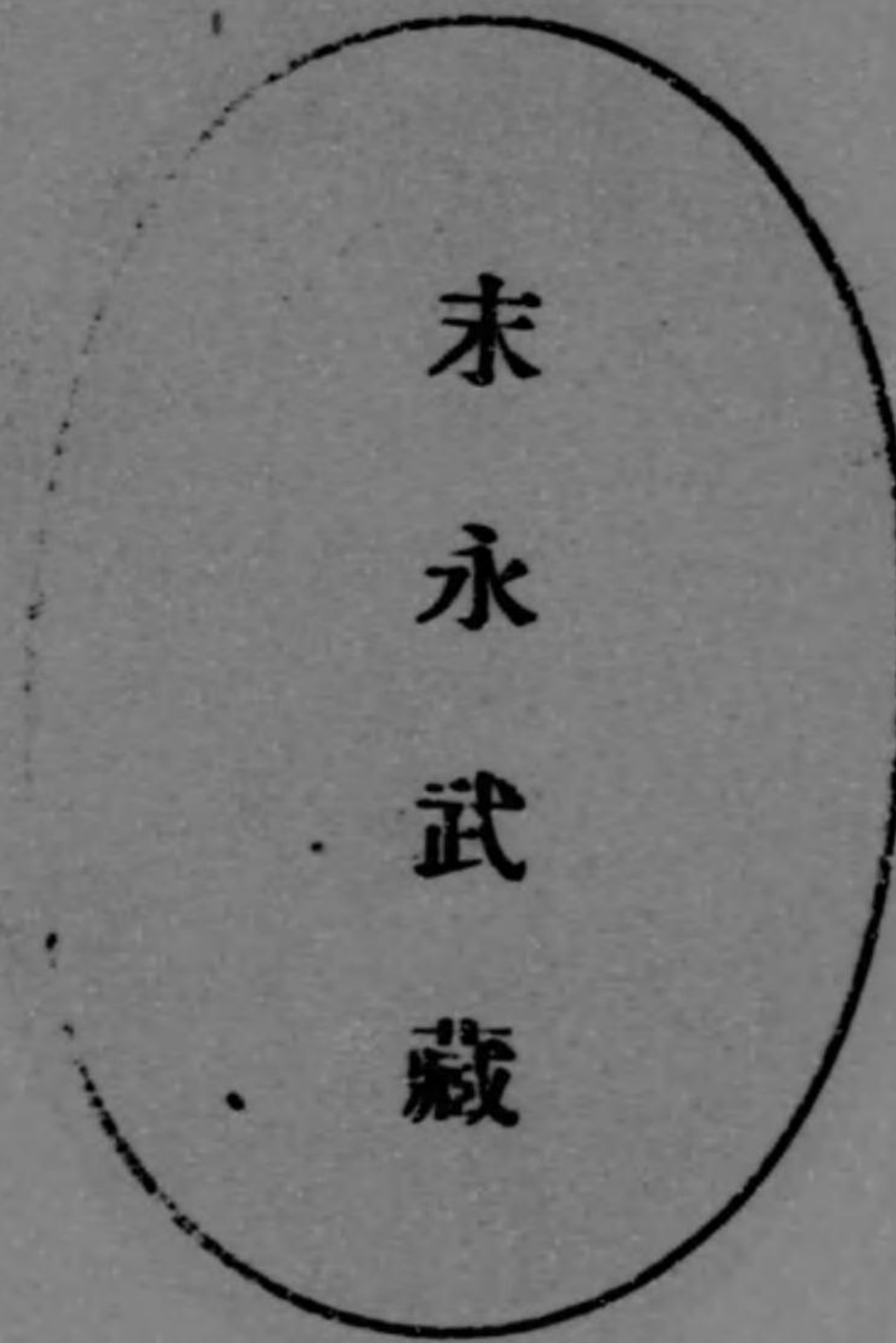
君は明治二十三年八月十日西國分村小野小學校卒業後中等學校に入學せしも半途退學、農業を營み副業として養蠶をなす青年會長、小組長、其他部落及び區の役員を歴任大正十四年三月村會議員に當選し専ら村政に努力せり。

西國分村 福重半之助氏



君は明治二十年十二月二十八日西國分村に於て半太郎氏の長男に生れ、明治三十九年鹿兒島縣立鹿屋農學校を卒業し更に靜岡縣製茶講習所に入りて全四十年卒業、西國分村技手となり二ヶ年にして辭す、青年會長、茶業組合煙草組合長、評議員、郡農會評議員、村農會長等を歴任、大正四年郡會議員に當選し大正二年村會議員に當選以來引續き現在に至る學務委員兼調査委員たり尙君は現在鹿兒島市南林寺町に於て發動機販賣店をも營み居れり。

西國分村 末永武藏氏



君は明治二十六年八月廿一日西國分村瀬戸口畷右衛門氏の長男に生れ末永家の養子となる、縣立加治木中學校卒業後農事に従ひ居るが全地方の大農家として知らる、青年會長、農事小組長等に任ず、大正十年村會議員に當選以來引き續き今日に至る、又た君は大正七年加治木稅務署、全八年岩川稅務署に勤務したり。

◎西國分村



東國分村長 中馬猪之吉氏

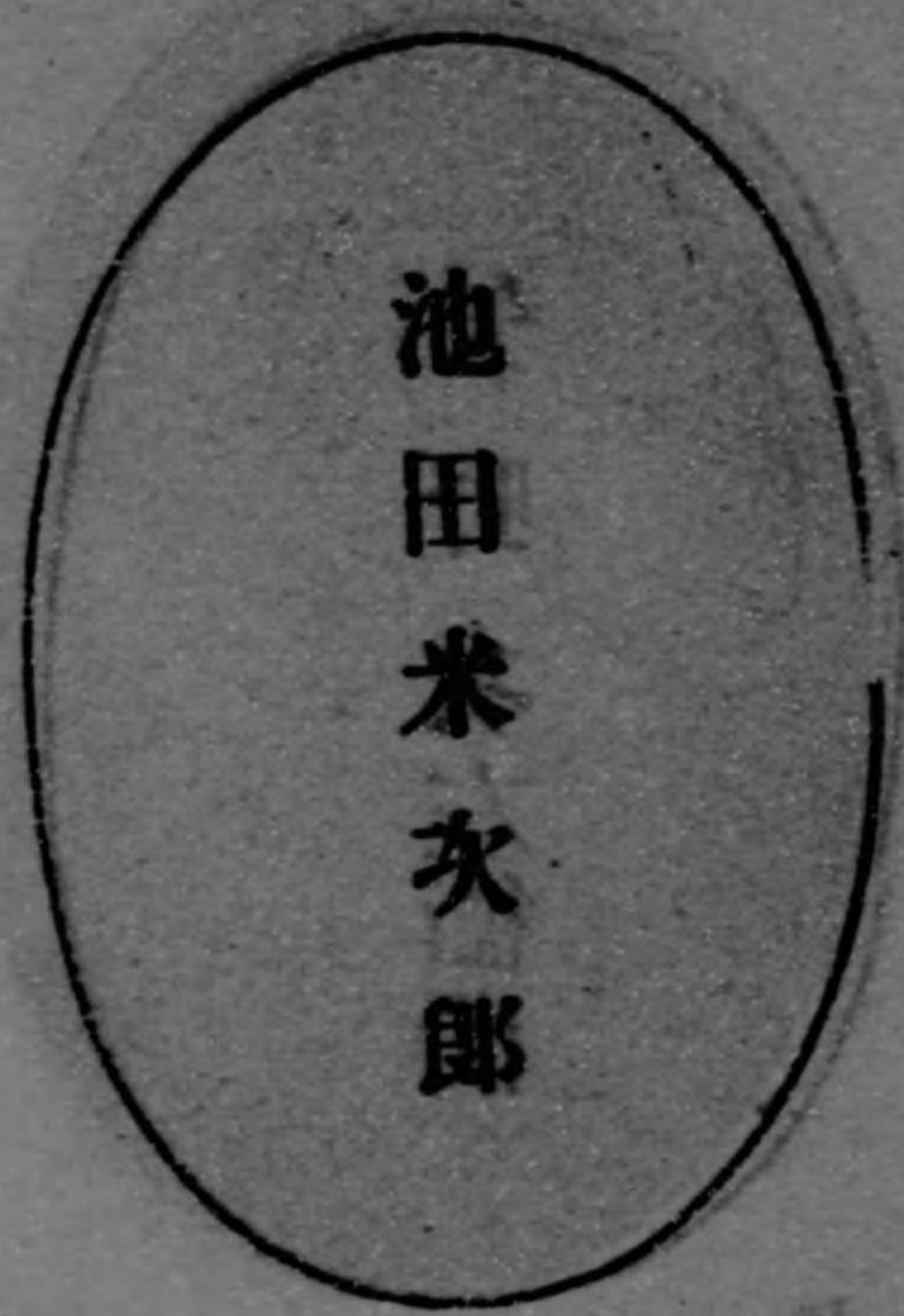
君は明治十八年一月三十一日東國分村に生る、神戸高等商業
學校を卒業して歸村せしが其の後は専ら公共事業の爲めに盡
瘁する所あり村教育會、小村小學校後援會長、村農會長、水
利組合、植業組合長等をなし目下郡農會長をも勉め居れり村
會議員として數期に亘りて之に任せしが今又縣會議員として
縣政の爲めに努力し居れるが君の信用は益々加はりつゝあり

東國分村助役 山元茂木氏



君は明治十八年五月八日東國分村小村に生る、明治卅九年縣
立鹿兒島第一中學校を卒業して身を教育界に投ぜしが辭任後
全村學務委員となりて今日に至る尙ほ大正八年郡會議員に舉
られ大正十年青年會長、大正十四年産業組合監査役となり
次いで全年村會議員に當選以て今日に至る。

池田米次郎



東國分村 池田米次郎氏

君は明治六年十月一日を以て東國分村に生る、小學校卒業後
は農事に屬精し居たるが明治廿七年騎兵隊に入營し進進し
て騎兵曹長となり退營せり、歸村後は各種公業事業に盡瘁し
居たるが大正十年村會議員に當選爾來引き続き當選今日に至
るまで自治の爲め努力しつゝあり。

東國分村 中馬次右衛門氏

君は明治十三年七月廿五日東國分村に生る、小學校を卒へて
専ら父祖の業を繼承屬み居たるが明治三十二年佐世保海兵團
に入團、全卅七八年日露戰役に參加したるが一等機關兵曹に
昇進して退團せり、歸村後は青年會長、衛生組長、區長等に
舉げられ能く其の任を全ふせるが、大正十年村會議員に當選
爾來引き続き今日に至るまで其の任に在り自治の爲め多大の
努力をなしつゝあり



東國分村 中馬次右衛門氏

岡元 助左衛門

君は明治五年十一月十五日東國分村上井に生る、小學校卒業後は専ら農事に精勵し小組合長、附屬員、青年會長をなし明治四十四年七月始良郡東部八ヶ村牛馬商組合長となりて現今に至る、大正十四年の改選に際し村會議員に當選今日に至れり。

東國分村

岡元 助左衛門氏

東國分村

矢野 次左衛門氏

矢野 次左衛門

君は明治七年十一月七日東國分村小村に生る、明治廿七年本第廿三聯隊に入營日清戰役に參加殊に廿九年七月は撰拔決死隊として臺灣に出征功に依り勳八等に叙し勳章一時賜金を受く一等軍曹に進級して卅一年除隊歸郷尙ほ卅七年日露戰役の際は勳七等青色桐葉章一時金を下賜せられ、郷に在りては農會議員、建築組合評議員、在郷軍人會長、學務委員、赤十字社分區委員、日露戰役記念碑建設總代等をなし曾ては麥藁工業の必要を感じ岡山興業學校に修習し或は神官の試験を受くる等各方面に亙りて奮闘し大正十四年村會議員に當選今日に至る。

東國分村

佐々木 熊助氏

君は慶應三年二月十四日東國分村上川に生る、農業に精勵して餘念なく一般に君が勤勉を稱せざるものなきに至る、後上川區長に推され尙ほ衛生部長等の任に當りしが何れも其の任を全し、大正十四年村會議員に當選せしが自治の爲めに多大の努力をなし居れり。

東國分村

佐々木 熊助氏

東國分村

宮 永禎 郎氏

君は明治十二年十二月八日東國分村小村塩川彦太郎氏の二男として生れ宮永家を襲ぐ、精米業を營めり、君は二十歳にして米肥商を營みたるが始良郡米商組合評議員、副組長及び縣米商企業組合聯合會代表者、産業組合理事等を勤む、明治三十二年熊本第二十三聯隊に入營日露戰役に出征して功あり勳七等に叙せられ青色桐葉章、一時賜金あり青年會長數年、大正十四年村會議員に當選し今日に至る尙ほ君は始良、伊佐動力組合の幹事を勤めり。



◎東國分村

新村源太郎

東國分村 新村源太郎氏
君は明治十五年十二月十八日東國分村上井に生る、小學校を卒へて父祖の業に勵精し居たるが長じて上井區長に擧げらるゝもの二回能く其の任を全ふせり其の衛生役員をなして衛生思想の涵養に勉め一般の信用厚かりしが大正十四年村會議員に當選自治の爲め努力し居れり。

東國分村 鹽滿傳袈談氏

君は明治十五年三月十日東國分村福島に生る、小學校を卒業の後は専ら農業に勤めたるが後ち福島區長、部落會長等に擧げらる、而して精勵なる能く其任を果せるが大正十四年村會議員の改選に際し大多數にて當選せり。



東國分村 下村長助氏

君は慶應元年五月五日を以て東國分村に生る、其の青年時代より専心農業に従事して村内の信頼を受け部落長等に推されしかば益々奮勵する所あり村民又た君を範とするに至る、大正十四年村會議員に當選したるが自治の爲めに努力夫に勵みつゝあり。

東國分村 下村長助氏

◎東國分村



東國分村 下村長助氏
君は慶應元年五月五日を以て東國分村に生る、其の青年時代より専心農業に従事して村内の信頼を受け部落長等に推されしかば益々奮勵する所あり村民又た君を範とするに至る、大正十四年村會議員に當選したるが自治の爲めに努力夫に勵みつゝあり。

東國分村 下村長助氏

高野 健介



君は明治十四年一月十五日敷根村に生る、縣立第一鹿兒島中學校を出で笈を負ふて東上、早稻田大學に入り政治、經濟科を卒業す會計検査院に奉職して在任五年、大正二年歸村、村會議員となり郡會議員に推され郡會議長となり、大正十三父年縣會議員に當選せしが次いで敷根村長に擧げらる、君の嚴侃氏は明治丁丑の役に從軍して負傷したるが平定後村會議員、郡會議員等に選出されし人なり。

敷根村長 高野 健介氏

敷根村助役 小山 武夫氏

君は明治三年十月五日を以て敷根村に生る、明治十九年敷根小學校中等科を卒業し、明治二十年全校教員となりて育英の事に當る、明治二十六年村役場書記となりしが辭して明治二十八年滋賀縣に赴き警察界に入る、明治三十一年辭任歸郷して村役場書記となり、全三十八年村助役に推薦されて今日に至るまで尙ほ其の任に在り大正六年四月村農會副會長、大正十四年村農會長に推薦せられ助役の傍之を兼務して農事の爲めにも多大の貢獻をなしたるあり。

今村 榮二



君は明治二十一年二月十八日敷根村上ノ段一五九五番地に生る、小學校を卒へて農業に従事し能く父祖の業に屬精し明治三十六年上ノ段青年會長に推され次いで大正十年上ノ段區長始良郡畜産組合敷根支所世話人となり明治三十五年、大正七年、全十四年の三回農事小組會長となり明治三十七年衛生組合部長及び全組長として今日に至りよく衛生思想普及に努力す、大正十二年穀物生産検査員となり、大正十四年村會議員に當選學務委員に選定さる。

敷根村 今村 榮二氏

敷根村 指宿 貞敏氏

君は明治五年九月十一日始良郡敷根村麓に生れ長ずるに従ひて青年の指導、農業の改發に努力し村會議員たる事六期に及び現在に至る大正三年村長となり敷根村政に貢獻せし處少からず。



敷根村 指宿 貞敏氏